

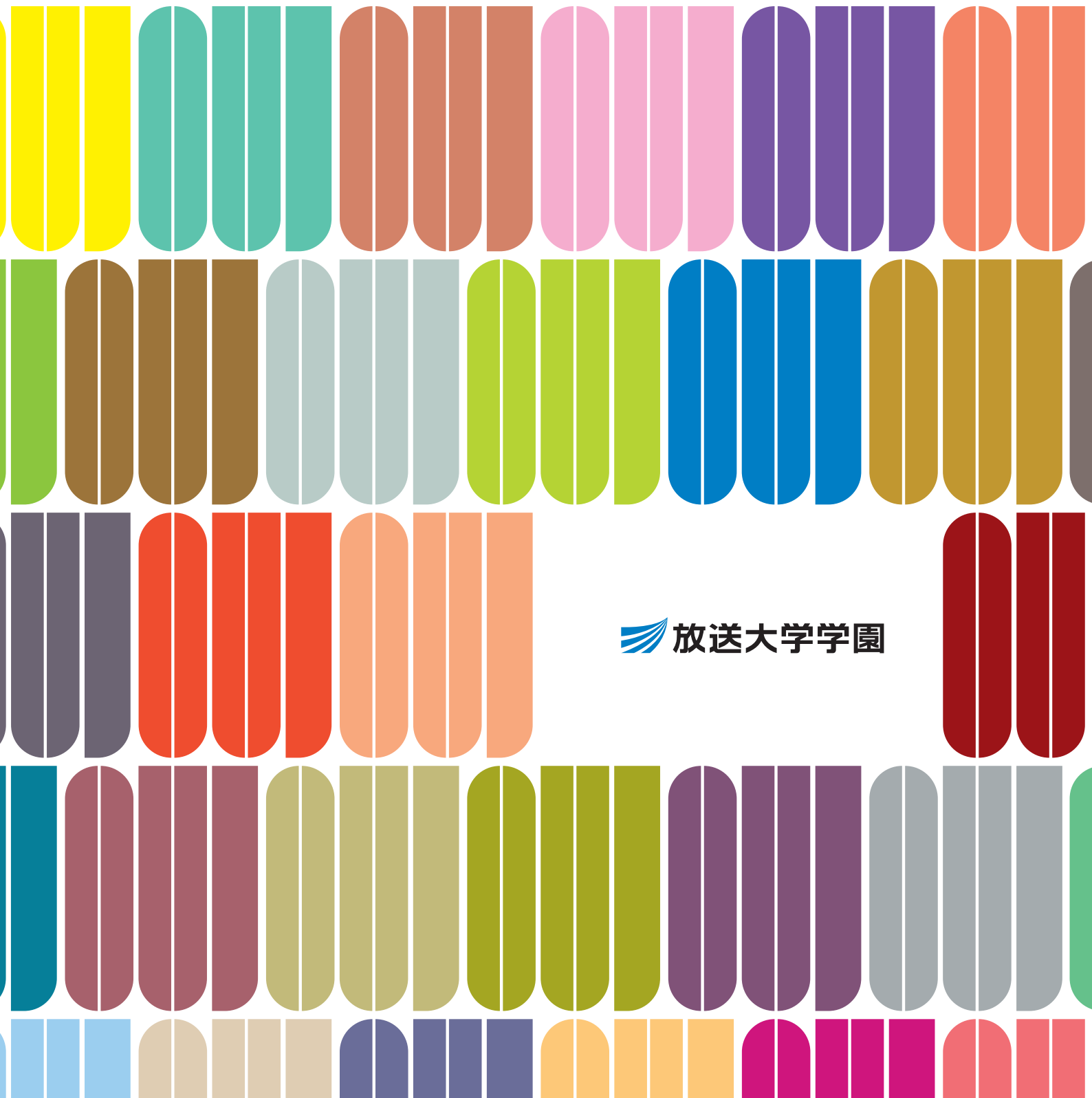


THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

2025年度 令和7年度

放送大学学園要覧

文部科学省・総務省所管



放送大学学園

設立の趣旨・目的

放送大学学園法は、放送大学の設置及び運営に関し必要な事項を定めることにより、大学教育の機会に対する広範な国民の要請にこたえとともに、大学教育のための放送の普及発達を図ることを目的として制定されました。

放送大学学園は、同法に基づき設立された学校法人であり、放送大学を設置し、放送による授業や、全国各地の学習者の身近な場所において面接による授業等を行うことを目的としています。

放送大学には学部及び大学院を置き、次のように目的を定めています。

- 1 各専門分野における学術研究を通じて新しい教養の理念を追求し、放送を活用して大学教育を行い、併せて広く生涯学習の要望に応えること（放送大学学則）
- 2 生涯にわたって学ぶ意欲を有する学習者に対し、学術の理論及び応用を教授し、その深奥を極め、又は高度の専門性が求められる社会的役割を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことによって、文化の進展並びに社会と地域の発展に寄与すること（放送大学大学院学則）

放送大学学園要覧 2025 目次

▶ 理事長 挨拶	3
▶ 学長 挨拶	4
▶ 沿革	5
▶ 組織	6
▶ 特色	13
▶ 放送大学の教育システム・放送システム	14
▶ 教養学部	18
▶ 大学院修士課程	28

▶ 大学院博士後期課程	36
▶ 単位互換・資格等	41
▶ 科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）	45
▶ インターネット配信公開講座	46
▶ 学習センター	47
▶ 在学生の概要	49
▶ 卒業生等の概要	53



▶ 次世代教育研究開発センター・IR室・ 障がいに関する学生支援相談室・ 公認心理師教育推進室・ データサイエンス教育推進室	55
▶ 施設紹介	57
▶ 土地・建物一覧・予算	58
▶ 放送大学学園案内図／放送大学チャレンジ募金	60

放送大学のシンボルマークについて

制作 永井一正氏



1. 知識を吸収し、集約し、人格形成され、
外に向かって上昇していくことを表す。
2. 多数の人々が教育を受ける機会を表す。
3. 白は知識の吸収を、ブルーは人格の形成を表す。

理事長挨拶

放送大学学園理事長

高橋 道和

放送大学は、特別な学校法人である放送大学学園により設置された私立大学です。私立大学は、創設者の意思＝建学の精神に基づいて運営されるのが常ですが、本学の建学の精神は、「大学教育の機会に対する広範な国民の要請にこたえ」「大学教育のための放送の普及発達を図る」(放送大学学園法第1条)ことであると言えるでしょう。その精神に基づいて「学びたい人が、いつでも、どこでも学べる開かれた大学」の実現に努め、1985年の学生受入れから40年間の累計で、約190万人の学生が学び、約15.1万人が卒業・修了しています。

一方でこの間に、大学進学率の上昇、平均寿命や就業期間の延伸、産業・職業構造の転換、放送・通信の技術革新など、学園・大学を取り巻く状況は劇的に変わりました。これらの変化に対応するため、修士課程・博士後期課程の設置、放送授業番組のインターネット配信、インターネットで単位修得

が完結するオンライン授業の開講、地上放送・CS放送からBSマルチチャンネル放送への一元化、Web単位認定試験の導入、ライブWeb授業の開講など、関係者の尽力により、不断の改革が重ねられてきました。2024年4月に開設された次世代教育研究開発センターにおいては、放送大学の教授形態の多様性と諸特性を踏まえ、メディアを活用した次世代教育の研究開発を行うとともに、先駆的なコンテンツの企画・制作・評価の取組を開始したところです。

2025年度からは「放送大学学園中期事業計画」(2022年からの6カ年計画)の後半期間に入ります。

同計画を踏まえ、日本国内居住に限られていた学生の入学要件を撤廃し、海外からの学生を受け入れることとしました。2026年度からの正式受け入れを前に、2025年度2学期には先行受入れの試行を行うなど、海外展開(OIJ GLOBAL)を積極的に進めて



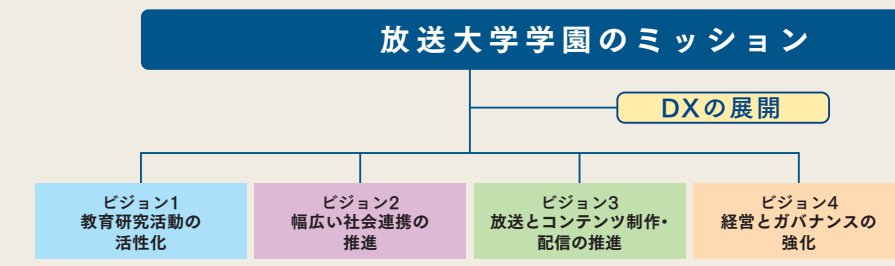
まいります。また、各都道府県に設置されている学習センターについて、「コンパクトで高機能な学習センター」を目指して、予算・運営・業務など全般にわたって改善策を講じてまいります。さらに、リカレント教育ニーズへの対応、障がいのある学生に対する学習支援の充実、企業を含めた関係機関・団体との連携などの諸課題に積極的に取り組んでまいります。

我が国の中核的な生涯学習機関である放送大学の一層の発展に努めてまいりますので、関係の皆様方のご理解、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

歴代理事長

- 藤田 健治
昭和56.7.1 ~ 昭和58.6.30
- 香月 秀雄
昭和58.7.1 ~ 昭和61.7.15
- 宮地 貫一
昭和61.7.16 ~ 平成3.6.30
- 阿部 充夫
平成3.7.1 ~ 平成9.6.30
- 井上 孝美
平成9.7.15 ~ 平成17.9.30
- 御手洗 康
平成17.10.1 ~ 平成23.3.31
- 白井 克彦
平成23.4.1 ~ 平成29.3.31
- 有川 節夫
平成29.4.1 ~ 令和4.1.31
- 高橋 道和
令和4.4.1 ~

放送大学学園中長期ビジョン2033



放送大学学園中期事業計画

D X の 展 開	
(1) 教育 D X の 推 進	
I 教育研究	II 社会連携
(1) 社会と時代の要請に応える教育の展開	(5) 学習センターによる地域連携
(2) 多様なメディアを活用した授業科目の戦略的企画・展開	(6) 大学間連携等の推進
(3) 学生への学習支援	(7) 国際展開の推進
(4) 大学院と研究機能の強化	

学長挨拶

放送大学長

岩永 雅也

1983年に開学した放送大学は、制度上、「放送大学学園法」に基づいて設置された特別な学校法人・放送大学学園が開設する私立大学ですが、創設の経緯や国からの運営費補助金の規模などに関しては、国立大学に極めて近い性格を持つ大学です。その原点は、半世紀以上前、1967年の社会教育審議会への当時の文相の諮問「映像放送およびFM放送による教育専門放送のあり方について」に求めることができますが、諮問の背景には、第一に、大学紛争によって明らかになった諸問題に対して有効な大学教育改革が求められていたこと、第二に、実用化されるUHFおよびFM波の教育分野での利用が模索されていたこと、そして第三に、世界的な生涯教育推進の潮流がありました。その諮問への答申を受けて、1969年文部省は『放送大学』の設立についてを発表し、放送大学の名称もそのときに定められました。そうした背景のもとに出発したことで、

放送大学は「いつでも、どこでも、誰もが学べる開かれた大学」を標榜しつつ、他の伝統的な大学にはなかった多様な社会的使命を掲げることとなりました。それは、①生涯学習機関として広く社会人等に大学教育機会を提供し、②新しい高等教育システムとして新規高卒者に対し柔軟な大学進学機会を保障し、③既存の大学との連携協力のもと単位互換、教員交流、放送教材の普及などにより大学教育全体を改善する、といったミッションです。現在はそれに、④職業・資格に関わるリカレント教育を行うことが加わり、単に「開かれた大学」から「自由に多様に学べる大学」へと脱皮を図っています。今日の放送大学は、学士課程のみならず大学院修士課程・博士後期課程をも有する日本最大の遠隔大学です。BSチャンネルによるテレビ・ラジオの放送授業のほか、インターネットを利用したオンライン科目などをあわせ、每学期約400科目に及ぶ授業を多様なメ



理事長挨拶・学長挨拶

ディアにより提供しています。また、全国57カ所に設置された学習センター、サテライトスペースで、年間約2,700科目の面接授業を開設しています。面接授業の発展形態として、インターネットを利用する同時双方向のライブWeb授業も増えています。設置されている学部は教養学部のみ、大学院は文化科学研究科のみですが、カリキュラムは、健康科学、生活科学、人間発達科学、社会科学、人文学、情報学、そして自然環境科学など、一般の総合大学に匹敵する広がりを持っています。現在、学部と大学院を合わせて8万人以上の在学生の方々が、自分の学びたい領域の科目を、自身の都合とペースに合わせ、全国各地で学んでいます。

教養教育の充実を図り、社会の諸要請に迅速に対応するため、大学を活性化し機動性を高めるとともに、「学びたい人が、いつでも、どこでも、学べる開かれた大学」の諸活動を推進する

教学ビジョン2027

基本理念

ひとりひとりに最適な学びを放送大学から

I
社会と時代の要請に
応える教育改革

II
教育DXの推進と
デジタルデバイドの解消

III
研究する大学としての
機能の充実

IV
連携機能の
充実と社会貢献

放送大学学園の教育研究をはじめとする全ての活動のデジタル化を推進し、デジタル変革(DX)を展開する。

(2) 学園DXの推進

Ⅲ 放送とメディア

- (8) 放送番組の充実
- (9) インターネットを活用した授業の充実
- (10) 放送による教育支援

Ⅳ 経営とガバナンス

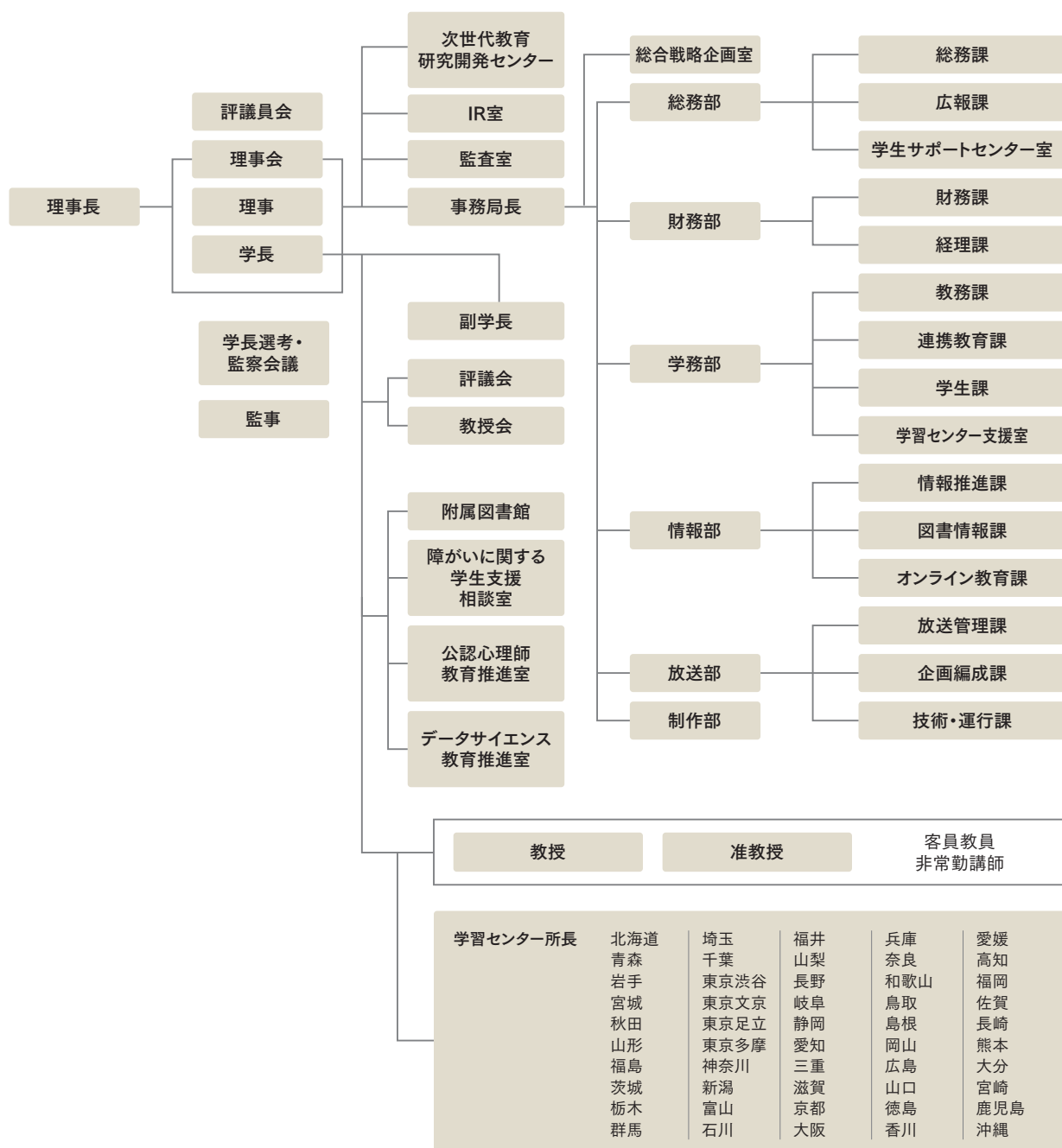
- (11) 学園資金や施設設備の有効活用
- (12) ダイバーシティと包摂性に配慮した経営
- (13) 情報発信と広報活動の強化

歴代学長

- 香月 秀雄
昭和58. 4. 1 ~ 平成元. 4. 30
- 甲田 和衛
平成元. 5. 1 ~ 平成4. 3. 31
- 小尾 信彌
平成4. 4. 1 ~ 平成10. 3. 31
- 吉川 弘之
平成10. 4. 1 ~ 平成13. 4. 30
- 丹保 憲仁
平成13. 5. 1 ~ 平成19. 4. 30
- 石 弘光
平成19. 5. 1 ~ 平成23. 4. 30
- 岡部 洋一
平成23. 5. 1 ~ 平成29. 3. 31
- 来生 新
平成29. 4. 1 ~ 令和3. 3. 31
- 岩永 雅也
令和3. 4. 1 ~

昭和42年(1967)	11月	●文部省社会教育審議会に対し「映像放送およびFM放送による教育専門放送のあり方について」諮問
昭和44年(1969)	3月	●文部省社会教育審議会「映像放送およびFM放送による教育専門放送のあり方について」答申
	11月	●文部省放送大学問題懇談会が文部・郵政両大臣に意見書提出
昭和45年(1970)	7月	●文部省放送大学準備調査会「放送大学の設立について」報告書提出
昭和49年(1974)	3月	●文部省放送大学(仮称)設置に関する調査研究会議「放送大学(仮称)の基本構想」提出
昭和50年(1975)	12月	●文部省放送大学創設準備に関する調査研究会議「放送大学の基本計画に関する報告」提出
昭和53年(1978)	10月	●国立大学共同利用機関として「放送教育開発センター(平成9年(1997)4月、大学共同利用機関メディア教育開発センターに改組)」設立
昭和56年(1981)	6月	●放送大学学園法(昭和56年法律第80号)公布・施行
	7月	●放送大学学園設立
昭和58年(1983)	4月	●放送大学設置
昭和59年(1984)	11月	●東京放送局予告放送開始
昭和60年(1985)	4月	●学習センター(群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川)学生受入れ開始・放送(テレビ及びFMラジオ)による授業開始
昭和62年(1987)	4月	●諏訪地区学習センター学生受入れ開始
	11月	●アジア公開大学連合(AAOU)加盟
平成元年(1989)	4月	●3学期制から2学期制への移行
		●第1回卒業式の挙行
平成2年(1990)	6月	●附属図書館開館
	10月	●ビデオ学習センター学生受入れ開始
平成6年(1994)	6月	●ビデオ学習センターを地域学習センターに改組
平成9年(1997)	10月	●委託放送業務認定(CSデジタル放送)
平成10年(1998)	1月	●CSデジタル放送による全国放送開始
	4月	●地区学習センター及び地域学習センターを学習センターに改組
	10月	●学習センター(和歌山・徳島・佐賀・鹿児島)学生受入れ開始により、すべての都道府県への学習センターの設置が完了
平成12年(2000)	1月	●国際遠隔教育評議会(ICDE)加盟
	12月	●放送大学大学院設置認可
平成13年(2001)	4月	●放送大学大学院修士課程設置
平成14年(2002)	4月	●放送大学大学院修士課程学生受入れ開始・放送による授業開始
	12月	●放送大学の設置主体を特別な学校法人とするため、放送大学学園法(平成14年法律第156号)公布
平成15年(2003)	10月	●放送大学学園法(平成14年法律第156号)の施行に伴い、特殊法人から特別な学校法人に移行
平成16年(2004)	3月	●最初の大学院修士課程学位記の授与
平成18年(2006)	12月	●地上デジタル放送開始(関東エリア)
平成19年(2007)	4月	●放送授業番組(ラジオ)のインターネット配信開始(テレビは平成20年(2008))
平成21年(2009)	4月	●メディア教育開発センターの承継事業を業務の一部としたICT活用・遠隔教育センター設置
平成23年(2011)	7月	●地上アナログ放送終了(関東エリア)
	10月	●BSデジタル放送開始
平成24年(2012)	3月	●CSデジタル放送終了
平成25年(2013)	4月	●ICT活用・遠隔教育センターを教育支援センターに改組
	10月	●放送大学大学院課程変更認可
平成26年(2014)	4月	●放送大学大学院博士後期課程設置
	10月	●放送大学大学院博士後期課程学生受入れ開始
平成27年(2015)	4月	●オンライン授業配信開始
平成29年(2017)	4月	●教育支援センターをオンライン教育センターに改組
	9月	●最初の大学院博士後期課程学位記の授与
平成30年(2018)	4月	●学習教育戦略研究所設置
	9月	●地上デジタル放送及びFMラジオ放送終了
	10月	●BSマルチチャンネル放送開始
令和2年(2020)	5月	●インターネット配信公開講座 配信開始
令和4年(2022)	5月	●ライブWeb授業開始(前年度より試行した「同時双方向Web授業」を改称)
	7月	●IBT(Internet-Based Testing)による単位認定試験の試行開始
令和6年(2024)	4月	●学習教育戦略研究所及びオンライン教育センターを次世代教育研究開発センターに改組
	4月	●IR室設置
令和7年(2025)	4月	●私立学校法改正を踏まえたガバナンス強化のための変更寄附行為の施行

組織図（令和7年4月1日現在）



役員（令和7年4月1日現在）

理事長	高橋 道和
理事(学長)	岩永 雅也
理事	里見 朋香
〃	樽川 流
〃	越後 和徳
〃	近藤 智嗣

理事(非常勤)	高橋 裕子(津田塾大学長)
〃	佐々木 泰子(国立大学法人お茶の水女子大学長)
〃	等々力 健(学校法人NHK学園理事長)
監事	藤江 幸一
監事(非常勤)	大河原 遼平(弁護士)

評議員会 評議員（令和7年4月1日現在）

浅井 清文	一般社団法人公立大学協会会長(名古屋市立大学長)
石井 潔	放送大学静岡学習センター所長
伊藤 通子	東京都市大学教授
牛木 辰男	一般社団法人国立大学協会理事(新潟大学長)
音 好宏	上智大学教授
加藤 和弘	放送大学副学長
河村 潤子	国立教育政策研究所名誉所員、 元文部科学省生涯学習政策局長
工藤 貴子	放送大学群馬学習センター所長
佐々木 泰子	国立大学法人お茶の水女子大学長
下夷 美幸	放送大学教授
杉野 可愛	千葉県教育委員会教育長
高橋 裕子	津田塾大学長
高橋 陽一	公益財団法人私立大学通信教育協合理事長(武蔵野美術大学教授)
田中 愛治	日本私立大学団体連合会会長(早稲田大学総長)

※50音順

辻 篤子	科学ジャーナリスト
等々力 健	学校法人NHK学園理事長
中嶋 太一	日本放送協会理事
長谷川 眞理子	独立行政法人日本芸術文化振興会理事長
羽田 正	東京大学名誉教授、トヨタ財団理事長
福田 益和	全国専修学校各種学校総連合会顧問 (学校法人福田学園理事長)
松井 房樹	株式会社MM総研顧問
御手洗 康	一般財団法人放送大学教育振興会理事長
南谷 雄司	放送大学同窓会連合会会長
本橋 春紀	一般社団法人日本民間放送連盟常務理事・事務局長
横手 幸太郎	国立大学法人千葉大学長
渡辺 善子	JBCCホールディングス株式会社取締役

学長選考・監察会議委員（令和7年4月1日現在）

浅井 清文	一般社団法人公立大学協会会長(名古屋市立大学長)
河村 潤子	国立教育政策研究所名誉所員、 元文部科学省生涯学習政策局長
近藤 智嗣	放送大学副学長
奈良 由美子	放送大学教授

※50音順

羽田 正	東京大学名誉教授、トヨタ財団理事長
松井 房樹	株式会社MM総研顧問
山田 義裕	放送大学北海道学習センター所長
李 鳴	放送大学教授

放送大学学園組織（令和7年4月1日現在）

事務局

事務局長	羽鳥 政男
事務局審議役	石田 裕美
総務部長	竹花 浩幸
財務部長	北原 文幸
学務部長	小野 耕志
情報部長	福井 孝典

放送部長	斉藤 康弘
制作部長	足立 圭介
事務局参事役 総合戦略企画室長	杉江 達也
事務局参事役	佐々木 秀樹

次世代教育研究開発センター

次世代教育研究開発センター長	芝崎 順司
----------------	-------

IR室

IR室長	加藤 和弘
------	-------

放送大学教員組織（令和7年4月1日現在）

学長・副学長

学 長	岩永 雅也
副学長(理事)	近藤 智嗣
副学長	加藤 和弘
副学長	山室 恭子

附属図書館長

教 授	仁科 エミ
-----	-------

障がいに関する学生支援相談室長

教 授	角田 哲也
-----	-------

公認心理師教育推進室長

特任教授	桑原 知子
------	-------

データサイエンス教育推進室長

教 授	中谷 多哉子
-----	--------

評議会評議員

学 長	岩永 雅也
副学長	近藤 智嗣
副学長	加藤 和弘
副学長	山室 恭子
教 授	仁科 エミ
教 授	朝倉 富子
教 授	高橋 秀明
教 授	原田 順子
教 授	滝浦 真人
教 授	柳沼 良知
教 授	大森 聡一
特任教授	山田 義裕
特任教授	工藤 貴子
教 授	奈良 由美子
教 授	李 鳴
教 授	丸山 広人
教 授	芝崎 順司

学習センター所長

北海道学習センター所長	山田 義裕
青森学習センター所長	石川 善朗
岩手学習センター所長	境野 直樹
宮城学習センター所長	八鍬 友広
秋田学習センター所長	倉林 徹
山形学習センター所長	山本 陽史
福島学習センター所長	中田 スウラ
茨城学習センター所長	小野寺 淳

栃木学習センター所長	加藤 謙一
群馬学習センター所長	工藤 貴子
埼玉学習センター所長	川又 伸彦
千葉学習センター所長	高橋 浩之
東京渋谷学習センター所長	植松 友彦
東京文京学習センター所長	熊野 純彦
東京足立学習センター所長	最上 善広
東京多摩学習センター所長	尾崎 正峰
神奈川学習センター所長	大谷 英雄
新潟学習センター所長	大原 謙一
富山学習センター所長	森岡 裕
石川学習センター所長	千木 昌人
福井学習センター所長	小野田 信春
山梨学習センター所長	村松 俊夫
長野学習センター所長	大塚 勉
岐阜学習センター所長	福士 秀人
静岡学習センター所長	石井 潔
愛知学習センター所長	根本 二郎
三重学習センター所長	梅川 逸人
滋賀学習センター所長	太田 善之
京都学習センター所長	玉田 芳史
大阪学習センター所長	金水 敏
兵庫学習センター所長	岡田 修一
奈良学習センター所長	野村 鮎子
和歌山学習センター所長	宗森 純
鳥取学習センター所長	渡邊 文雄
島根学習センター所長	出口 顕
岡山学習センター所長	田仲 洋己
広島学習センター所長	吉村 幸則
山口学習センター所長	杉浦 崇夫
徳島学習センター所長	橋爪 正樹
香川学習センター所長	山神 眞一
愛媛学習センター所長	吉田 正広
高知学習センター所長	益本 俊郎
福岡学習センター所長	久枝 良雄
佐賀学習センター所長	山下 宗利
長崎学習センター所長	山下 敬彦
熊本学習センター所長	谷 時雄
大分学習センター所長	越智 義道
宮崎学習センター所長	石川 千佳子
鹿児島学習センター所長	高津 孝
沖縄学習センター所長	和田 浩二

〈教養学部〉

■専任教員(令和7年4月1日現在)(専任教授・准教授とその専門分野)

区分	氏名	専門分野
生活と福祉	教授 朝倉 富子	食品科学
	教授 井出 訓	老年看護学
	教授 糸川 昌成	精神医学
	教授 川島 聡	障害法学・国際人権法学※2
	教授 川原 靖弘	計測工学・生活科学
	教授 下夷 美幸	家族社会学
	教授 関根 紀子	運動生理学
	特任教授 田城 孝雄	内科学・公衆衛生学・地域医療学
	教授 戸ヶ里 泰典	基礎看護学・保健医療社会学
	教授 奈良 由美子	生活経営学・リスクマネジメント論
心理と教育	教授 山内 豊明	臨床看護学
	特任教授 山田 知子	社会福祉学
	教授 岩崎 久美子	生涯学習論
	教授 岩永 雅也	教育社会学・生涯学習
	教授 苑 復傑	教育経済学・教育社会学
	教授 進藤 聡彦	教育心理学
	教授 高橋 秀明	認知心理学・情報生態学
	教授 中島 正雄	心理学 臨床心理学分野
	教授 橋本 鉦市	高等教育論
	教授 橋本 朋広	臨床心理学
社会と産業	教授 波田野 茂幸	臨床心理学※3
	教授 丸山 広人	臨床心理学
	教授 向田 久美子	発達心理学・文化心理学※3
	教授 村松 健司	臨床心理学
	教授 森 津太子	社会心理学・認知心理学※1
	准教授 小林 祐紀	教育学・情報教育・カリキュラム研究
	准教授 櫻井 直輝	教育政策・教育行政学
	准教授 佐藤 仁美	臨床心理学※2※3
	准教授 高梨 利恵子	臨床心理学※3

区分	氏名	専門分野
社会と産業	教授 北川 由紀彦	社会学・都市社会学
	教授 川出 良枝	政治学 政治思想分野
	教授 玉野 和志	社会学(都市・地域)
	教授 原田 順子	経営学・人的資源管理
	教授 古橋 元	農業経済学
	教授 堀部 安嗣	環境デザイン
	特任教授 松井 美樹	オペレーションズマネジメント
	特任教授 松原 隆一郎	社会経済学・経済思想
	教授 山岡 龍一	政治学
	教授 李 鳴	商法(保険法)
人間と文化	准教授 桑田 学	経済思想史・環境思想
	准教授 白鳥 潤一郎	国際政治学・日本政治外交史
	准教授 齋藤 正章	会計学・管理会計
	特任教授 魚住 孝至	哲学・日本思想
	教授 大橋 理枝	異文化間コミュニケーション
	教授 大村 敬一	社会文化人類学・極北人類学
	特任教授 河原 温	西洋中世・ルネサンス史・都市社会史
	特任教授 近藤 成一	日本中世史・古文書学
	教授 杉森 哲也	日本史学
	教授 滝浦 真人	言語学
情報	教授 野崎 敬	フランス文学・映画論
	教授 宮本 徹	中国語学
	特任教授 宮本 陽一郎	アメリカ文学・カルチュラルスタディーズ
	准教授 小二田 章	中国史・東洋史・史学史・地方史誌学
	准教授 鶴見 英成	博物館学・アンデス文明論
	准教授 船岡 美穂子	西洋美術史
	教授 青木 久美子	情報コミュニケーション学※1
	教授 浅井 紀久夫	マルチメディア情報学
	教授 大西 仁	認知科学

区分	氏名	専門分野
情報	教授 加藤 浩	教育学学※1
	教授 近藤 智嗣	教育学学
	教授 芝崎 順司	教育学学※1
	教授 鈴木 一史	計算機科学
	教授 辰己 丈夫	情報学・情報教育・情報倫理
	教授 辻 靖彦	教育学学
	教授 中川 一史	メディア教育・情報教育
	教授 中谷 多哉子	ソフトウェア工学・要求工学
	教授 仁科 エミ	情報環境学
	特任教授 広瀬 洋子	メディア教育(障害者支援)・社会人類学※2
自然と環境	教授 伏見 清香	デザイン学・情報デザイン
	教授 森本 容介	教育学学※1
	教授 柳沼 良知	情報工学
	教授 山田 恒夫	情報学・教育学学・学習心理学
	准教授 秋光 淳生	数理工学
	准教授 葉田 善章	情報工学・教育学学
	准教授 平岡 斉士	教育学学・認知心理学
	教授 飯田 圭	物理学
	教授 石崎 克也	数学
	教授 大森 聡一	地球惑星科学・岩石学
人間と文化 導入科目	教授 加藤 和弘	環境生態学・景観生態学
	教授 岸根 順一郎	物理学
	教授 隈部 正博	数学
	特任教授 谷口 義明	宇宙物理学・銀河天文学・光学・赤外線天文学
	教授 二河 成男	生命情報科学・遺伝学
	教授 橋本 健朗	化学・理論・計算化学
	教授 安池 智一	理論分子科学

(凡例)※1次世代教育研究開発センターを兼務する者

※2障がいに関する学生支援相談室を兼務する者

※3公認心理師教育推進室を兼務する者

■客員教員(2025年度開設科目主任講師及び専門担当講師)

科目区分	職名	氏名	現職
基盤科目(一般科目)	客員教授	岡崎 晴輝	九州大学教授
	客員教授	菊池 聡	信州大学教授
	客員教授	倉田 賀世	熊本大学大学院教授
	客員教授	関本 義秀	東京大学教授
	客員教授	高橋 和夫	放送大学名誉教授・国際政治学者
	客員教授	常森 裕介	東京経済大学教授
	客員教授	渡辺 美智子	立正大学教授
	客員教授	井出 万秀	立教大学教授
	客員教授	大石 和欣	東京大学大学院教授
	客員教授	斎藤 兆史	東京大学名誉教授
基盤科目(外国語)	客員教授	田口 亜紀	共立女子大学教授
	客員教授	中野 学而	中央大学教授
	客員教授	沼野 恭子	東京外国語大学名誉教授
	客員教授	柳原 孝敦	東京大学教授
	客員准教授	新井 保裕	文京学院大学准教授
	客員准教授	クリスティ コリンズ	麗澤大学准教授
	客員准教授	三品 由紀子	電気通信大学准教授
	客員教授	大藪 千穂	岐阜大学教授
	客員教授	岡田 忍	川崎市立看護大学教授
	客員教授	岡田 隆夫	順天堂大学名誉教授
生活と福祉 導入科目	客員教授	北村 聖	地域医療研究所シニアアドバイザー
	客員教授	駒村 康平	慶應義塾大学教授
	客員教授	齊藤 広子	横浜市立大学教授
	客員教授	佐伯 由香	人間環境大学特任教授

科目区分	職名	氏名	現職
生活と福祉 導入科目	客員教授	坂井 建雄	順天堂大学客員教授
	客員教授	櫻井 隆	順天堂大学教授
	客員教授	佐藤 真治	帝京大学教授
	客員教授	内藤 久士	順天堂大学大学院教授
	客員教授	中城 康彦	明海大学教授
	客員教授	中山 和弘	聖路加国際大学教授
	客員教授	服部 信孝	順天堂大学大学院教授
	客員教授	林 光緒	広島大学教授
	客員教授	宮崎 総一郎	日本睡眠教育機構理事長
	客員教授	渡邊 清高	帝京大学医学部内科学講座教授
心理と教育 導入科目	客員准教授	瀬戸 寿一	駒澤大学准教授
	客員准教授	渡辺 久里子	神奈川大学助教
	客員教授	貝塚 茂樹	武蔵野大学教授
	客員教授	谷口 明子	東洋大学教授
	客員教授	中村 高康	東京大学大学院教授
	客員教授	本田 由紀	東京大学大学院教授
	客員准教授	阿内 春生	早稲田大学准教授
	客員准教授	植竹 丘	共栄大学准教授
	客員教授	金光 秀和	法政大学教授
	客員教授	林 拓也	奈良女子大学教授
社会と産業 導入科目	客員教授	待鳥 聡史	京都大学教授
	客員教授	山口 恵子	東京学芸大学教授
	客員教授	山元 一	慶應義塾大学教授

科目区分	職名	氏名	現職
人間と文化 導入科目	客員教授	阿部 公彦	東京大学教授
	客員教授	伊東 祐郎	国際教養大学特命教授
	客員教授	佐藤 廉也	大阪大学教授
	客員教授	島内 裕子	放送大学名誉教授
	客員教授	季武 嘉也	創価大学教授
	客員教授	高倉 浩樹	東北大学教授
	客員教授	根崎 玲子	明治大学教授
	客員教授	納富 信留	東京大学大学院教授
	客員教授	宮澤 仁	お茶の水女子大学教授
	客員教授	渡部 泰明	国文学研究資料館館長
生活と福祉 専門科目	客員教授	児玉 晴男	放送大学客員教授
	客員教授	高岡 詠子	上智大学教授
	客員教授	清水 明	東京大学名誉教授
	客員教授	鈴木 啓介	東京工業大学客員教授、日本学士院会員、北里大学客員教授
	客員教授	飯島 佐知子	順天堂大学教授
	客員教授	居神 浩	神戸国際大学教授
	客員教授	石丸 昌彦	放送大学客員教授
	客員教授	小野 若菜子	東京都立大学教授
	客員教授	片桐 祥雅	応用化学研究所研究副所長
	客員教授	金田 嘉清	藤田医科大学教授
生活と福祉 専門科目	客員教授	神崎 初美	兵庫医科大学看護学部教授
	客員教授	小松 理佐子	日本福祉大学教授
	客員教授	斉藤 弥生	大阪大学教授
	客員教授	櫻井 宏明	藤田医科大学教授

職名	氏名	現職
客員教授	佐藤 隆一郎	東京大学大学院特任教授
客員教授	関 正雄	社会構想大学院大学客員教授
客員教授	関崎 勉	東京大学名誉教授
客員教授	田中 幸子	東京慈恵会医科大学教授
客員教授	田間 泰子	大阪府立大学名誉教授
客員教授	栃本 一三郎	放送大学客員教授
客員教授	永田 智子	慶應義塾大学教授
客員教授	西上 あゆみ	藍野大学教授
客員教授	林 春男	放送大学客員教授
客員教授	松井 彰彦	東京大学大学院教授
客員教授	丸谷 浩介	九州大学大学院教授
客員教授	山縣 文治	大阪総合保育大学特任教授
客員教授	横山 和仁	国際医療福祉大学大学院教授、 順天堂大学客員教授
客員教授	横山 登志子	札幌学院大学教授
客員准教授	鈴木 淳一	株式会社電通グループ電通イノベ ーションインシアティブプロデューサー職
客員准教授	山川 みやえ	大阪大学准教授
客員教授	青木 栄一	東北大学教授
客員教授	赤尾 勝己	関西大学名誉教授
客員教授	石口 彰	お茶の水女子大学名誉教授
客員教授	伊東 毅	武蔵野美術大学教授
客員教授	内田 良	名古屋大学教授
客員教授	宇都宮 博	立命館大学教授
客員教授	及川 幸彦	奈良教育大学准教授
客員教授	大川 一郎	埼玉学園大学教授
客員教授	大坪 庸介	東京大学教授
客員教授	大野 裕己	兵庫教育大学大学院教授
客員教授	大山 泰宏	学習院大学教授
客員教授	岡崎 淳一	産業雇用安定センター理事長
客員教授	加瀬 進	東京学芸大学教授
客員教授	金井 篤子	愛知みずほ大学特任教授
客員教授	神村 栄一	新潟大学大学院教授
客員教授	川上 泰彦	兵庫教育大学教授
客員教授	川間 健之介	山口学芸大学教授
客員教授	倉光 修	放送大学名誉教授、東京大学名誉教授
客員教授	古賀 精治	大分大学理事・副学長
客員教授	小林 真理子	聖心女子大学教授
客員教授	坂田 理子	淑徳大学教授
客員教授	佐々木 英和	宇都宮大学教授
客員教授	笹森 洋樹	常葉大学特任教授
客員教授	佐藤 慎二	植草学園短期大学特別教授
客員教授	佐藤 晴雄	帝京大学教授
客員教授	塩崎 尚美	日本女子大学教授
客員教授	清水 裕士	関西学院大学教授
客員教授	下山 晴彦	跡見学園女子大学教授
客員教授	鈴木 克徳	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)理事、日本ESD学会副会長
客員教授	園山 大祐	大阪大学教授
客員教授	高倉 誠一	明治学院大学教授
客員教授	高瀬 堅吉	中央大学教授
客員教授	高橋 智	東海学院大学教授
客員教授	田中 謙	日本大学教授
客員教授	田中 健夫	東京女子大学教授
客員教授	田中 理絵	西南学院大学教授
客員教授	津川 律子	日本大学教授
客員教授	辻 智子	北海道大学教授
客員教授	堤 英俊	都留文科大学教授
客員教授	坪井 裕子	名古屋工业大学教授
客員教授	露口 健司	愛媛大学教授
客員教授	中澤 静男	奈良教育大学教授
客員教授	永田 雅子	名古屋大学教授

職名	氏名	現職
客員教授	長沼 俊夫	日本体育大学教授
客員教授	西島 央	青山学院大学教授
客員教授	野口 隆子	東京家政大学教授
客員教授	林 泰成	上越教育大学学長
客員教授	東 宏行	獨協医科大学特任教授
客員教授	平野 直己	北海道教育大学教授
客員教授	廣井 亮一	立命館大学特任教授
客員教授	深谷 潤一	NPO法人ICDS理事長
客員教授	藤田 武志	日本女子大学教授
客員教授	堀川 照代	放送大学客員教授
客員教授	前田 稔	東京学芸大学教授
客員教授	三浦 麻子	大阪大学大学院教授
客員教授	元永 拓郎	帝京大学教授
客員教授	森田 美弥子	名古屋大学名誉教授
客員教授	師岡 章	白梅学園大学教授
客員教授	矢口 徹也	早稲田大学教授
客員教授	山口 裕幸	京都橘大学特任教授
客員教授	吉川 真理	学習院大学教授
客員教授	池田 敦也	徳島大学名誉教授
客員准教授	吉田 吉史	東京学芸大学准教授
客員准教授	大木 真徳	青山学院大学准教授
客員准教授	佐々木 玲仁	九州大学大学院准教授
客員准教授	高綱 睦美	愛知教育大学准教授
客員准教授	田部 絢子	金沢大学准教授
客員准教授	辻野 けんま	大阪公立大学准教授
客員准教授	中井 智子	中町誠法律事務所弁護士
客員准教授	仲田 康一	法政大学准教授
客員教授	阿部 圭司	高崎経済大学教授
客員教授	安藤 和代	千葉商科大学教授
客員教授	五百旗頭 薫	東京大学大学院教授
客員教授	依田 高典	京都大学大学院教授
客員教授	伊藤 宗彦	大手前大学教授
客員教授	稲継 裕昭	早稲田大学教授
客員教授	今井 由紀子	内閣官房内閣人事局人事制度研究官
客員教授	岩井 勝弘	岩井法律事務所弁護士
客員教授	小橋 正明	恵泉女子学園大学名誉教授、聖心女子大 学グローバル共生研究所招聘研究員
客員教授	小方 直幸	香川大学教授
客員教授	岡田 幸彦	筑波大学教授
客員教授	開沼 泰隆	(公社)日本経営工学会会長
客員教授	金井 利之	東京大学大学院教授
客員教授	蟹江 章	北海道大学名誉教授
客員教授	金菱 清	関西学院大学教授
客員教授	川島 清嘉	川島法律事務所弁護士
客員教授	川島 志保	川島法律事務所弁護士
客員教授	川村 義則	早稲田大学教授
客員教授	岸 真理子	ハリウッド大学院大学教授、 法政大学名誉教授
客員教授	木村 俊道	九州大学教授
客員教授	國武 英生	小樽商科大学教授
客員教授	酒井 啓啓	早稲田大学教授
客員教授	坂田 裕輔	近畿大学教授
客員教授	作花 文雄	放送大学客員教授
客員教授	佐藤 亮	筑波大学名誉教授、 横浜国立大学名誉教授
客員教授	高橋 信行	国学院大学教授
客員教授	谷本 雅之	東京大学教授
客員教授	富田 純一	東洋大学教授
客員教授	中西 徹	東京大学名誉教授
客員教授	中山 洋平	東京大学教授
客員教授	奈良岡 聰智	京都大学大学院教授
客員教授	新山 陽子	京都大学名誉教授

職名	氏名	現職
客員教授	野間 敏克	同志社大学教授
客員教授	洞口 治夫	法政大学教授
客員教授	水島 治郎	千葉大学教授
客員教授	宮城 俊作	設計組織PLACEMEDIA/パートナー
客員教授	武川 幸嗣	慶應義塾大学教授
客員教授	本山 敦	立命館大学教授
客員教授	諸富 徹	京都大学大学院教授
客員教授	和田 俊憲	東京大学教授
客員教授	渡辺 靖	慶應義塾大学教授
客員准教授	浅輪 貴史	東京科学大学准教授
客員准教授	石井 裕明	早稲田大学准教授
客員准教授	伊藤 亜聖	東京大学准教授
客員准教授	高木 佑輔	政策研究大学院大学准教授
客員准教授	中村 恭志	東京科学大学准教授
客員准教授	原 辰徳	東京大学准教授
客員教授	青山 昌文	放送大学名誉教授
客員教授	赤塚 健太郎	成城大学教授
客員教授	秋富 克哉	京都工芸繊維大学教授
客員教授	池上 俊一	東京大学名誉教授
客員教授	稲賀 繁美	元京都精華大学国際文化学部学部長、国際日本 文化研究センター総合研究大学院大学名誉教授
客員教授	小田部 胤久	東京大学名誉教授
客員教授	小野沢 透	京都大学教授
客員教授	北村 曉夫	日本女子大学教授
客員教授	湖中 真哉	静岡県立大学教授
客員教授	坂上 康俊	九州大学名誉教授
客員教授	榊原 哲也	東京女子大学教授
客員教授	佐川 英治	東京大学教授
客員教授	佐々木 亨	北海道大学大学院特任教授
客員教授	杉山 清彦	東京大学教授
客員教授	勢力 尚雅	日本大学教授
客員教授	丹治 愛	東京大学名誉教授
客員教授	津上 英輔	成城大学教授
客員教授	中嶋 毅	東京都立大学教授
客員教授	中空 萌	筑波大学教授
客員教授	沼野 充義	名古屋外国語大学副学長
客員教授	林 佳世子	東京外国語大学名誉教授
客員教授	肥後本 芳男	同志社大学名誉教授
客員教授	日高 真吾	国立民族学博物館教授
客員教授	本郷 均	東京電機大学特定教授
客員教授	三ツ井 崇	東京大学教授
客員教授	宮下 規久朗	神戸大学教授
客員教授	村松 真理子	東京大学教授
客員教授	山田 広昭	東京大学名誉教授
客員教授	横山 安由美	立教大学教授
客員教授	頼住 光子	駒澤大学教授
客員准教授	今村 信隆	北海道大学大学院准教授
客員准教授	大高 幸	慶應義塾大学大学院非常勤講師
客員准教授	折茂 克哉	東京大学駒場博物館助教
客員准教授	寺島 洋子	国立西洋美術館客員研究員
客員准教授	古田 徹也	東京大学准教授
客員教授	伊藤 一成	青山学院大学教授
客員教授	上原 哲太郎	立命館大学教授
客員教授	菊池 浩明	明治大学教授
客員教授	黒橋 禎夫	国立情報学研究所長
客員教授	小池 英樹	東京科学大学教授
客員教授	櫻井 鉄也	筑波大学教授
客員教授	関根 千佳	美作大学客員教授
客員教授	増井 俊之	慶應義塾大学教授
客員教授	水越 伸	関西大学教授

科目区分	職名	氏名	現職
自然と環境専門科目	客員教授	荒木 崇	京都大学教授
	客員教授	河添 健	慶應義塾大学名誉教授
	客員教授	御領 潤	弘前大学教授
	客員教授	田中 博	筑波大学名誉教授
	客員教授	塚谷 裕一	東京大学教授
	客員教授	橋本 義武	東京都市大学教授
	客員教授	藤井 良宜	宮崎大学教授
	客員准教授	秋山 良	九州大学准教授
	客員准教授	伊賀 啓太	東京大学准教授
	客員准教授	三村 太郎	東京大学准教授
	非常勤講師	齋藤 雅子	宇都宮大学非常勤講師

科目区分	職名	氏名	現職
卒業要件外科目 夏季集中科目 司書教諭	客員教授	岩崎 れい	京都ノートルダム女子大学教授
	客員教授	鎌田 和宏	帝京大学教授
	客員教授	呑海 沙織	筑波大学副学長
	客員教授	野口 武悟	専修大学教授
	客員教授	米谷 茂則	放送大学客員教授
	客員准教授	塩谷 京子	放送大学客員准教授
	客員准教授	高嶽 裕樹	大阪教育大学准教授
	客員准教授	田嶋 知宏	常磐大学准教授
	客員准教授	米谷 優子	放送大学客員准教授

科目区分	職名	氏名	現職
専門科目 看護師教育	客員教授	江本 リナ	日本赤十字看護大学教授
	客員教授	齋藤 いずみ	関西国際大学教授
	客員教授	佐藤 まゆみ	順天堂大学大学院教授
	客員教授	林 直子	聖路加国際大学大学院教授
	客員教授	山田 典子	横浜市立大学教授
	客員准教授	桐山 啓一郎	名古屋市立大学准教授

〈大学院修士課程〉

■専任教員(令和7年4月1日現在) (専任教授・准教授とその専門分野)

	区分	氏名	専門分野
生活健康科学	教授	朝倉 富子	食品科学
	教授	井出 訓	老年看護学
	教授	糸川 昌成	精神医学
	教授	川島 聡	障害法学・国際人権法学
	教授	川原 靖弘	計測工学・生活科学
	教授	下夷 美幸	家族社会学
	教授	関根 紀子	運動生理学
	教授	田城 孝雄	内科学・公衆衛生学・地域医療学
	教授	戸ヶ里 泰典	基礎看護学・保健医療社会学
	教授	奈良 由美子	生活経営学・リスクマネジメント論
	教授	山内 豊明	臨床看護学
	教授	山田 知子	社会福祉学
人間発達科学	教授	岩崎 久美子	生涯学習論
	教授	岩永 雅也	教育社会学・生涯学習
	教授	苑 復傑	教育経済学・教育社会学
	教授	進藤 聡彦	教育心理学
	教授	高橋 秀明	認知心理学・情報生態学
	教授	橋本 鉦市	高等教育論
	教授	向田 久美子	発達心理学・文化心理学
	教授	森 津太子	社会心理学・認知心理学
	准教授	小林 祐紀	教育学・情報教育・カリキュラム研究
	准教授	櫻井 直輝	教育政策・教育行政学
臨床心理学	教授	中島 正雄	心理学・臨床心理学分野
	教授	橋本 朋広	臨床心理学
	教授	波田野 茂幸	臨床心理学
	教授	丸山 広人	臨床心理学
	教授	村松 健司	臨床心理学
	准教授	佐藤 仁美	臨床心理学
	准教授	高梨 利恵子	臨床心理学

	区分	氏名	専門分野
社会経営科学	教授	北川 由紀彦	社会学・都市社会学
	教授	川出 良枝	政治学・政治思想分野
	教授	玉野 和志	社会学(都市・地域)
	教授	原田 順子	経営学・人の資源管理
	教授	古橋 元	農業経済学
	教授	堀部 安嗣	環境デザイン
	特任教授	松井 美樹	オペレーションズマネジメント
	特任教授	松原 隆一郎	社会経済学・経済思想
	教授	山岡 龍一	政治学
	教授	李 鳴	商法(保険法)
	准教授	桑田 学	経済思想史・環境思想
	准教授	白鳥 潤一郎	国際政治学・日本政治外交史
人文学	准教授	齋藤 正章	会計学・管理会計
	特任教授	魚住 孝至	哲学・日本思想
	教授	大橋 理枝	異文化間コミュニケーション
	教授	大村 敬一	社会文化人類学・極北人類学
	特任教授	河原 温	西洋中世・ルネサンス史・都市社会史
	特任教授	近藤 成一	日本中世史・古文書学
	教授	杉森 哲也	日本史学
	教授	滝浦 真人	言語学
	教授	野崎 敏	フランス文学・映画論
	教授	宮本 徹	中国語学
	特任教授	宮本 陽一郎	アメリカ文学・カルチュラルスタディーズ
	准教授	小二田 章	中国史・東洋史・史学史・地方史誌学
情報学	准教授	鶴見 英成	博物館学・アンデス文明論
	准教授	船岡 美穂子	西洋美術史
	教授	青木 久美子	情報コミュニケーション学
	教授	浅井 紀久夫	マルチメディア情報学

	区分	氏名	専門分野
情報学	教授	大西 仁	認知科学
	教授	加藤 浩	教育工学
	教授	近藤 智嗣	教育工学
	教授	芝崎 順司	教育工学
	教授	鈴木 一史	計算機科学
	教授	辰己 丈夫	情報学・情報教育・情報倫理
	教授	辻 靖彦	教育工学
	教授	中川 一史	メディア教育・情報教育
	教授	中谷 多哉子	ソフトウェア工学・要求工学
	教授	仁科 エミ	情報環境学
	特任教授	広瀬 洋子	メディア教育(障害者支援)・社会人類学
	教授	伏見 清香	デザイン学・情報デザイン
自然環境科学	教授	森本 容介	教育工学
	教授	柳沼 良知	情報工学
	教授	山田 恒夫	情報学・教育工学・学習心理学
	准教授	秋光 淳生	数理工学
	准教授	葉田 善章	情報工学・教育工学
	准教授	平岡 斉士	教育工学・認知心理学
	教授	飯田 圭	物理学
	教授	石崎 克也	数学
	教授	大森 聡一	地球惑星科学・岩石学
	教授	加藤 和弘	環境生態学・景観生態学
	教授	岸根 順一郎	物理学
	教授	隈部 正博	数学
特任教授	谷口 義明	宇宙物理学・銀河天文学・光学・赤外線天文学	
教授	二河 成男	生命情報科学・遺伝学	
教授	橋本 健朗	化学・理論・計算化学	
教授	安池 智一	理論分子科学	

■客員教員(2025年度開設科目主任講師)

科目区分	職名	氏名	現職
生活健康科学	客員教授	石井 邦子	千葉県立保健医療大学教授
	客員教授	石丸 昌彦	放送大学客員教授
	客員教授	大木 幸子	杏林大学教授
	客員教授	小川 薫	順天堂大学名誉教授
	客員教授	金川 めぐみ	和歌山大学教授
	客員教授	北村 聖	地域医療研究所シニアアドバイザー
	客員教授	佐藤 隆一郎	東京大学大学院特任教授
	客員教授	下条 直樹	千葉大学予防医学センター特任教授
	客員教授	服部 真治	(株)日本能率協会総合研究所 主幹研究員
	客員教授	東本 恭幸	放送大学客員教授
	客員教授	三浦 豊	東京農工大学大学院教授
	客員教授	柳田 俊彦	宮崎大学教授
人間発達科学	客員教授	山城 興介	日本文理大学教授

科目区分	職名	氏名	現職
生活健康科学	客員教授	山脇 正永	東京科学大学教授
	客員教授	ロベズ ギョーム	青山学院大学教授
	客員准教授	岩見 昌邦	和光大学准教授
	客員准教授	木澤 晃代	日本看護協会常任理事
	客員准教授	山本 武志	札幌医科大学准教授
	客員准教授	米倉 佑貴	聖路加国際大学大学院准教授
	客員准教授	渡 正	順天堂大学主任准教授
人間発達科学	客員教授	勝野 正章	東京大学教授
	客員教授	坂野 慎二	玉川大学教授
	客員教授	田中 統治	東海大学特任教授
	客員教授	恒吉 僚子	文京学院大学副学長
	客員教授	西野 真由美	国立教育政策研究所総括研究官
	客員教授	根津 朋実	早稲田大学教授

科目区分	職名	氏名	現職
人間発達科学	客員教授	藤田 晃之	筑波大学教授
	客員教授	堀 薫夫	大阪教育大学名誉教授
	客員教授	村上 祐介	東京大学教授
	客員准教授	中村 知世	社会調査支援機構チカラボ特任研究員
	客員准教授	日下田 岳史	大正大学准教授
臨床心理学	客員教授	石原 宏	島根大学教授
	客員教授	伊藤 亜矢子	学習院大学教授
	客員教授	大山 泰宏	学習院大学教授
	客員教授	荻野 美佐子	上智大学名誉教授
	客員教授	小野寺 孝義	広島国際大学名誉教授
	客員教授	川部 哲也	大阪公立大学教授
	客員教授	倉光 修	放送大学名誉教授、 東京大学名誉教授
	客員教授	小林 真理子	聖心女子大学教授

科目区分	職名	氏名	現職
臨床心理学	客員教授	大六 一志	NPO法人LD・Dyslexiaセンター顧問
	客員教授	橋本 和明	国際医療福祉大学大学院教授
	客員准教授	山中 克夫	筑波大学准教授
社会経営科学	客員教授	大澤 津	北九州市立大学教授
	客員教授	北川 太一	摂南大学教授
	客員教授	児玉 晴男	放送大学客員教授
	客員教授	坂井 素恩	放送大学名誉教授
	客員教授	迫田 章義	東京大学名誉教授

科目区分	職名	氏名	現職
社会経営科学	客員教授	砂原 庸介	神戸大学教授
	客員教授	手塚 洋輔	大阪公立大学教授
	客員教授	平野 光俊	大手前大学学長
人文学	客員教授	宮城 俊作	設計組織PLACEMEDIAパートナー
	客員教授	青山 昌文	放送大学名誉教授
	客員教授	島内 裕子	放送大学名誉教授
	客員教授	堀越 宏一	早稲田大学教授
	客員教授	三ツ井 崇	東京大学教授

科目区分	職名	氏名	現職
情報学	客員教授	大西 淳	立命館大学教授
	客員教授	緒方 広明	京都大学教授
	客員教授	河合 徳枝	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センターリサーチフェロー
	客員教授	須永 剛司	東京藝術大学名誉教授
	客員教授	常盤 祐司	放送大学客員教授
	客員教授	中島 震	国立情報学研究所名誉教授
	客員教授	萩谷 昌己	東京大学名誉教授
情報学	客員教授	諸澤 俊介	高知大学名誉教授

〈大学院博士後期課程〉

■専任教員(令和7年4月1日現在)(専任教授・准教授とその専門分野)

区分	氏名	専門分野
生活健康科学	教授 朝倉 富子	食品科学
	教授 井出 訓	老年看護学
	教授 糸川 昌成	精神医学
	教授 川島 聡	障害法学・国際人権法学
	教授 川原 靖弘	計測工学・生活科学
	教授 下夷 美幸	家族社会学
	教授 関根 紀子	運動生理学
	教授 田城 孝雄	内科学・公衆衛生学・地域医療学
	教授 戸ヶ里 泰典	基礎看護学・保健医療社会学
	教授 奈良 由美子	生活経営学・リスクマネジメント論
人間科学	教授 山内 豊明	臨床看護学
	教授 山田 知子	社会福祉学
	教授 岩崎 久美子	生涯学習論
	教授 岩永 雅也	教育社会学・生涯学習
	教授 苑 復傑	教育経済学・教育社会学
	教授 進藤 聡彦	教育心理学
	教授 高橋 秀明	認知心理学・情報生態学
	教授 中島 正雄	心理学・臨床心理学分野
	教授 橋本 鉦市	高等教育論
	教授 橋本 朋広	臨床心理学
	教授 波田野 茂幸	臨床心理学
	教授 丸山 広人	臨床心理学
	教授 向田 久美子	発達心理学・文化心理学
	教授 村松 健司	臨床心理学
	教授 森 津太子	社会心理学・認知心理学
	准教授 小林 祐紀	教育学・情報教育・カリキュラム研究
	准教授 櫻井 直輝	教育政策・教育行政学
	准教授 佐藤 仁美	臨床心理学
	准教授 高梨 利恵子	臨床心理学

区分	氏名	専門分野
社会経営科学	教授 北川 由紀彦	社会学・都市社会学
	教授 川出 良枝	政治学・政治思想分野
	教授 玉野 和志	社会学(都市・地域)
	教授 原田 順子	経営学・人的資源管理
	教授 古橋 元	農業経済学
	教授 堀部 安嗣	環境デザイン
	特任教授 松井 美樹	オペレーションズマネジメント
	特任教授 松原 隆一郎	社会経済学・経済思想
	教授 山岡 龍一	政治学
	教授 李 鳴	商法(保険法)
人文学	准教授 桑田 学	経済思想史・環境思想
	准教授 白鳥 潤一郎	国際政治学・日本政治外交史
	准教授 齋藤 正章	会計学・管理会計
	特任教授 魚住 孝至	哲学・日本思想
	教授 大橋 理枝	異文化間コミュニケーション
	教授 大村 敬一	社会文化人類学・極北人類学
	特任教授 河原 温	西洋中世・ルネサンス史・都市社会史
	特任教授 近藤 成一	日本中世史・古文書学
	教授 杉森 哲也	日本史学
	教授 滝浦 真人	言語学
情報学	教授 野崎 敏	フランス文学・映画論
	教授 宮本 徹	中国語学
	特任教授 宮本 陽一郎	アメリカ文学・カルチュラルスタディーズ
	准教授 小田 田 章	中国史・東洋史・史学史・地方史誌学
	准教授 鶴見 英成	博物館学・アンデス文明論
	准教授 船岡 美穂子	西洋美術史
	教授 青木 久美子	情報コミュニケーション学
	教授 浅井 紀久夫	マルチメディア情報学

区分	氏名	専門分野
情報学	教授 大西 仁	認知科学
	教授 加藤 浩	教育工学
	教授 近藤 智嗣	教育工学
	教授 芝崎 順司	教育工学
	教授 鈴木 一史	計算機科学
	教授 辰己 丈夫	情報学・情報教育・情報倫理
	教授 辻 靖彦	教育工学
	教授 中川 一史	メディア教育・情報教育
	教授 中谷 多哉子	ソフトウェア工学・要求工学
	教授 仁科 エミ	情報環境学
自然科学	特任教授 広瀬 洋子	メディア教育(障害者支援)・社会人様学
	教授 伏見 清香	デザイン学・情報デザイン
	教授 森本 容介	教育工学
	教授 柳沼 良知	情報工学
	教授 山田 恒夫	情報学・教育工学・学習心理学
	准教授 秋光 淳生	数理工学
	准教授 葉田 善章	情報工学・教育工学
	准教授 平岡 齊士	教育工学・認知心理学
	教授 飯田 圭	物理学
	教授 石崎 克也	数学
自然科学	教授 大森 聡一	地球惑星科学・岩石学
	教授 加藤 和弘	環境生態学・景観生態学
	教授 岸根 順一郎	物理学
	教授 隈部 正博	数学
	特任教授 谷口 義明	宇宙物理学・銀河天文学・光学・赤外線天文学
	教授 二河 成男	生命情報科学・遺伝学
	教授 橋本 健朗	化学・理論・計算化学
	教授 安池 智一	理論分子科学

〈障がいに関する学生支援相談室〉

■専任教員(令和7年4月1日現在)

職名	氏名	専門分野
教授	角田 哲哉	臨床心理学・特別支援教育

〈公認心理師教育推進室〉

■専任教員(令和7年4月1日現在)

職名	氏名	専門分野
特任教授	桑原 知子	臨床心理学
教授	北原 知典	臨床心理学
准教授	伊藤 匡	臨床心理学

役職員数(令和7年4月1日現在)

常勤役職員数:393名

	総 数	内 訳	
		男	女
役 員	7	6	1
副学長(役員を除く)	2	1	1
教 員	86	64	22
教授	61	45	16
准教授	14	11	3
学習センター所長	50	46	4

	総 数	内 訳	
		男	女
事 務 職 員	248	161	87
課長相当職以上	38	31	7
その他の職員	210	130	80
計	393	278	115

※教員には特任教授11を含む

放送大学では、BSテレビ・ラジオ、インターネットなどを通じて、いつでもどこでも学べ、日本全国に設置した学習センターで学友と学べる面接授業が受講できるなど、大学教育の機会を広く提供しています。学士の学位取得ができるほか、大学院も設置し修士号・博士号を目指せる環境を整えています。深い教養を身につける科目以外にも、教員や看護師に関する資格取得等が目指せる科目を多数開設しており、国民の多様な学習ニーズに対応しています。

いつでも、だれでも、自由な学び方を

[詳しくはこちら ▶ P14,P18-40](#)

放送授業をBSテレビ・ラジオで広く放送するほか、インターネット配信も行っており、時間や場所を問わずに学べるしくみで、大学・大学院ともに学位(学士・修士・博士)取得を目指すだけでなく、学習する目的に合わせて、興味のある分野から好きな科目だけ選んで学ぶ科目履修もできます。さまざまな年代、職業の人たちが自由に学べる環境が整っており、学ぶ意欲があれば、いつからでも何度でも入学して学び続けることができます。

多様で質の高い授業科目の開設

[詳しくはこちら ▶ P22-27,P34-35,P40](#)

様々な専門分野を持つ専任教員と全国の国公立私立大学からの数多くの客員教員による多彩な授業科目を提供しています。2025年度は、放送授業約340科目、オンライン授業約90科目、ライブWeb授業約170科目、面接授業約2700科目が予定されており、基礎科目から専門的な科目まで学習可能となっています。

資格取得とキャリアアップ

[詳しくはこちら ▶ P43-45](#)

学位取得や生涯学習だけでなく、キャリアアップを目指す社会人、上位資格を目指す教員や看護師の方、定年後のセカンドキャリアを構築したい方など、さまざまなニーズに対応する授業科目やカリキュラムが設けられています。

日本各地の学習センター

[詳しくはこちら ▶ P47-48](#)

日本全国の都道府県に57の学習センターやサテライトスペースを設置しており、地域の特色に合わせた面接授業を開講しています。また、開かれた大学として、在学生に限らず広く地域の方々の学習を支援するために公開講座・公開講演会を開催するほかオープンキャンパス、個別相談会といったイベントの開催、資料配布も行っています。

多様性とアクセシビリティへの配慮

[詳しくはこちら ▶ P55-56, 放送大学ウェブサイトwww.ouj.ac.jp](#)

15歳(大学院は18歳)以上の全ての人の人に開かれた放送大学では、さまざまな方がそれぞれの目的で学んでいます。本学では働きながら、育児をしながら学びたい方、定年退職を迎えたシニア世代、障がいのある方もない方も、皆が平等に学べる各種のサポートを行っています。また、放送大学公式ウェブサイトでは、アクセシビリティに配慮した情報発信を行っています。



教育システム(3つの授業スタイル)

放送大学の授業には、**放送授業・面接授業(スクーリング)・オンライン授業**の3つの授業スタイルがあり、各科目いずれかの形態で行われます。

授業の講師として、多数の国公立私立大学等の専門家にご協力をいただいています。

放送授業



BSテレビ放送(231ch)、BSラジオ放送(531ch)などで放送される授業番組の視聴と印刷教材による学習を併せて行い、通信指導の提出と単位認定試験の受験により単位を修得します。

1科目2単位で、45分の授業番組を15回視聴します。放送番組はBS放送やケーブルテレビなどを通じ全国で放送されています。在学生はインターネットで視聴することも可能です。

※232chでも一部視聴可能。

※テレビ科目の中には、インターネット配信限定で視聴する科目があります。

面接授業(スクーリング)



学習センターなどで教員から直接指導を受けられる授業です。教室での講義形式のほかに学習センター以外の場所での実習形式の授業もあります。

1科目1単位で、8回の授業(90分授業を7回と45分授業を1回)を行います。

オンライン授業

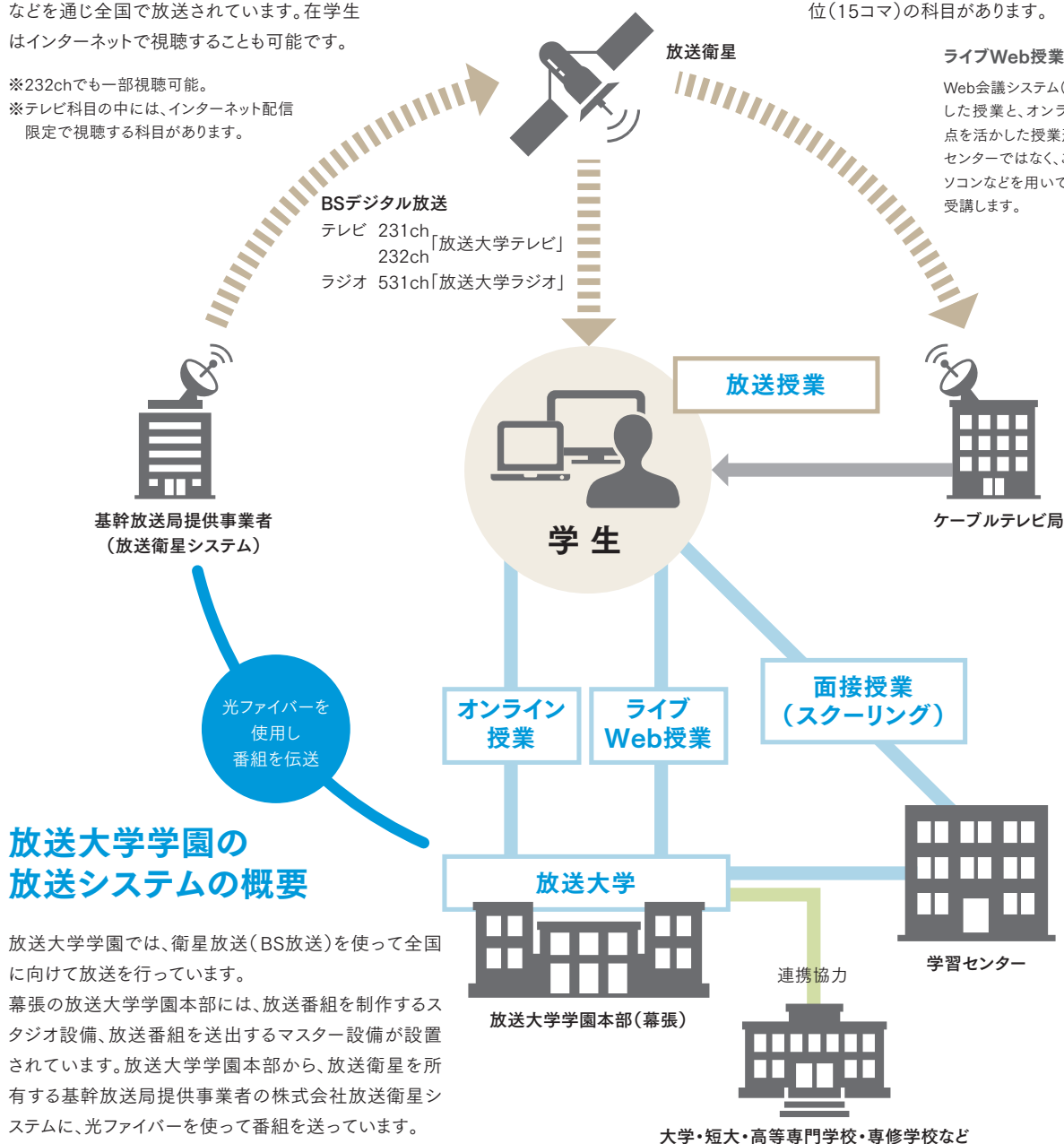


2015年に開設。インターネットに接続されたパソコンなどを使い、講義を視聴し課題(選択式問題、ディスカッション、レポートなど)を実施。授業内の学習活動により成績評価を行う授業です。

1コマ90分程度(講義45分と学習活動45分程度)の授業で、1単位(8コマ)の科目と、2単位(15コマ)の科目があります。

ライブWeb授業

Web会議システム(Zoom)を利用した授業と、オンライン授業の利点を活かした授業形態です。学習センターではなく、ご自宅などでパソコンなどを用いてリアルタイムで受講します。



放送大学学園の放送システムの概要

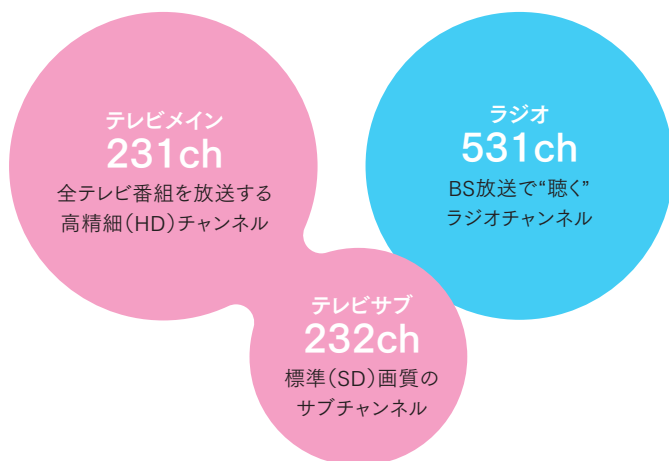
放送大学学園では、衛星放送(BS放送)を使って全国に向けて放送を行っています。

幕張の放送大学学園本部には、放送番組を制作するスタジオ設備、放送番組を送出するマスター設備が設置されています。放送大学学園本部から、放送衛星を所有する基幹放送局提供事業者の株式会社放送衛星システムに、光ファイバーを使って番組を送っています。

マルチチャンネル放送

■ テレビチャンネル【BS231ch、BS232ch】

2023年4月1日からは、BS231chをメインチャンネルに据えてBS232chをサブチャンネルとする番組編成に変更しています。これに伴い、メインチャンネル(BS231ch)でのHD(高精細)画質による放送を基本とし、一部の時間帯ではSD(標準)画質のサブチャンネル(BS232ch)を活用した2チャンネルマルチ放送を実施しています。



画質がきれいに！

高画質のBS231chをテレビメインチャンネルとし、全てのテレビ番組を放送しています。細かい文字や記号もより鮮明に見やすくなっています。

早朝・夜間に観られない人も安心！

BS231chで早朝・夜間に放送するテレビ授業科目をBS232chで日中にも放送しています。視聴する時間帯が選べるため、夜間の視聴が難しい方なども視聴できます。

迷ったらBS231ch！

BS231chでは全てのテレビ番組を高画質で放送しています。観たい番組や録画したい番組がある場合は、まずはBS231chの番組表をご覧ください。

BS231chでは、社会人の多様な学び直しや、生涯学習のニーズに応える「生涯学習支援番組」も放送しています。

【生涯学習支援番組の一例】



数理・データサイエンス・AI講座
言語生成AIの機能と社会への応用～技術編～

日進月歩で発達を続け、多くの関心を集めている言語生成AIについて、利点からリスクまで俯瞰して解説する2回シリーズ。「技術編」では、最新の言語生成AIであるGPT-4oを例にとり、トランスフォーマーに基づく回答文生成の仕組み、大規模言語モデルのスケールアップによる回答精度の変化、人とGPT-4oの問題解決能力の比較について解説した後、生成AIの種類に依存して回答精度が異なることを説明する。



BSキャンパスex特集 人生110年時代を目指す
～筋力トレーニングの生理学と自宅でできる実践法～
(第1回／第2回)

健康寿命を延ばす鍵の一つと期待されている「筋トレ」。しないなんて、もったいない！「人生100年」と言われるようになった日本。近年の研究では「筋トレ」を適切に行えば、加齢による筋肉の萎縮を食い止め、さらに発達させることさえできることがわかってきた。NHK「みんなで筋肉体操」でおなじみの谷本道哉先生の指導のもと、正しい知識と方法を身につけて、「人生100年」といわず「110年」を目指しましょう。

■ ラジオチャンネル【BS531ch】

主に本学の学生の単位修得を目的に、ラジオ授業科目をBS531chで単位認定試験に向けて計画的に放送しています。

番組の視聴方法 以下の方法により放送大学の番組を視聴することができます。

〈BSテレビ放送(BS231ch,BS232ch)〉

お手元のリモコンで「BS」を押し、BS 放送に切り替えてください。

a、b、c いずれかの方法により、視聴できます。

a. リモコンのチャンネルボタンで選局

リモコンの「V」のついたチャンネル(選局)ボタンを順送りして、放送大学のチャンネルを選局してください。

b. 電子番組表(EPG)から選択

リモコンの「番組表」ボタンを押して電子番組表を表示し、上下左右ボタン等で放送大学の番組を選択してください。

c. 3桁のチャンネル番号を入力

リモコンの「チャンネル番号入力」「10キー入力」「3桁入力」等と表示されたボタンを押し、数字ボタンで「231」、「232」を入力してください。

※一部機種に限り、リモコンのBSボタン2度押しによるダイレクトな選局ができます。
 (①地上波画面で、リモコンの「BSボタン」を押し、BS放送に切り替えます。
 ②もう一度「BSボタン」を押すと、テレビ画面上にチャンネルが表示されます。
 ③「1番」を押すことで選局できます。)

〈BSラジオ放送(BS531ch)〉

テレビでお聴きいただく音声放送です。画面には番組名が静止画で表示されます。お手元のリモコンで「BS」を押し、BS 放送に切り替えてください。d、e いずれかの方法により、聴取できます。

d. BS テレビの放送大学のデータ放送から切り替える

上記テレビ放送 a、b、c いずれかの方法でテレビ放送大学を選局し、直後に数秒間表示される画面左下の「BSラジオ」の案内のとおり、「青」ボタンを押してください。表示されない、または、表示が消えた場合は「d(データ)」ボタン→「青」ボタンの順に押してください。

e. 3桁のチャンネル番号を入力

リモコンの「チャンネル番号入力」「10キー入力」「3桁入力」等と表示されたボタンを押し、数字ボタンで「531」を入力してください。

〈インターネット配信〉

開講期間中、原則全ての放送授業の番組をインターネットで配信しますので、在学生はパソコンやスマートフォン等で視聴できます(一部インターネット配信限定で視聴する科目があります)。科目名や視聴に必要な環境については放送大学ウェブサイトの「よくあるご質問」を参照してください。
 ※映像・音声をパソコン等に保存することはできません。
 ※接続の際の通信費やプロバイダ料金などは利用者のご負担となりますので、ご注意ください。

〈放送教材の貸出し〉

大学本部より、郵送による放送教材(DVD・CD)の貸出しを行っています。

〈ひかりTV〉

テレビ科目は、映像配信サービスの「ひかりTV」でも視聴できます(ラジオ科目の聴取はできません)。

詳しくは<https://www.hikaritv.net/entry?cid=ouj>をご覧ください。

〈インターネット配信公開講座〉

BS231chで放送している生涯学習支援番組の一部を視聴できます。
 ※視聴には会員登録が必要です。https://aoba.ouj.ac.jp/rpv/external/sso.aspx?type=provisional_login&id=temp_user
 ※一部有料講座があります。



放送大学YouTubeチャンネル

様々な学びの機会を提供する番組の紹介動画、授業科目の紹介動画などを配信しています。

番組の編成 (2025年度現在)

■ 放送時間

	BS231ch	BS232ch	BS531ch
1学期 授業期間	【日曜】 6:00～翌0:15 【月曜～土曜】 6:00～翌3:45	【日曜】 12:00～15:45 【月曜～金曜】 12:00～19:30 【土曜】 12:00～17:15	【日曜】 6:00～翌0:15 【月曜～土曜】 6:00～翌0:00
夏期学習 期間	6:00～翌0:00	(7/15～8/8) 6:00～18:00 (8/9～9/14) 【月曜～金曜】 6:00～18:00 【土曜、日曜】 6:00～12:45 (9/15～9/27) 【月曜～金曜】 6:00～15:45 【土曜、日曜】 6:00～12:45 ※9/28～9/30は放送休止	(7/15～8/8) 6:00～23:15 (8/9～8/31) 【月曜～金曜】 6:00～22:30 【土曜、日曜】 6:00～18:15 (9/1～9/27) 【月曜～金曜】 6:00～20:15 【土曜、日曜】 6:00～18:15 (9/28～9/30) 6:00～18:15
2学期 授業期間	【日曜】 6:00～翌0:15 【月曜～土曜】 6:00～翌3:45	【日曜】 12:00～15:45 【月曜～金曜】 12:00～19:30 【土曜】 12:00～17:15	【日曜】 6:00～翌0:15 【月曜～土曜】 6:00～翌0:00
冬期学習 期間	6:00～翌0:00	(1/14～1/18) 6:00～21:45 (1/19～3/29) 【土曜、日曜】 6:00～12:45 【月曜～金曜】 6:00～18:00 ※3/30、3/31は放送休止	(1/14～1/23) 6:00～22:30 (1/24～3/29) 【土曜、日曜】 6:00～18:15 【月曜～金曜】 6:00～22:30 (3/30、3/31) 6:00～18:15

■ 番組の種類

主な放送番組は、次のとおりです。

放送大学の教育課程に定める授業科目の番組	授 業 番 組	卒業・修了に必要な単位を修得するための番組です。
	生涯学習支援番組	単位認定を前提としない広義の授業番組です。
放送大学に関する告知番組	キャンパスガイド	大学の魅力をさまざまな形で伝える番組です。
	コースガイド、大学案内等	教養学部各コース、大学院を紹介する番組です。

■ 編成の期間

年間の編成の期間は、次のとおりです。

BS231ch(テレビ)、BS232ch(テレビ)、BS531ch(ラジオ)

第1学期	授業期間	4月1日～7月14日
	夏期学習期間	7月15日～9月30日
第2学期	授業期間	10月1日～1月13日
	冬期学習期間	1月14日～3月31日

- ・「授業期間」各学期の1日目から15週間です。
- ・「夏期学習期間」司書教諭資格取得に資する科目の資格系科目の放送とともに、復習や次学期の科目選びの参考となるよう一部の科目を再放送します。
- ・「冬期学習期間」復習や次学期の科目選びの参考となるよう一部の科目を再放送します。

■ 番組制作

■ 制作フロー



学部・学科・コース

放送大学は、国民の多様な要請に応じて豊かな教養を培うとともに、実生活に即した専門的学習を深められるよう、幅広い学問分野からなる教養学部を設けています。平成21年度(2009年度)に教養学部の学科再編を行い、教養学部教養学科の下に5つのコースを設けましたが、平成25年度

(2013年度)に新たに情報コースを設置し、6つのコースに拡充いたしました。大学卒業を目指す学生は、6つのコースの中からいずれかのコースに所属し、主に所属するコースの科目を履修しますが他のコースの科目も履修することができます。

学部名	学科名	コース名	教育目標
教養学部	教養学科	生活と福祉	質の高い持続可能な生活を築くために、衣食住・家族・健康・福祉など生活にかかわる諸問題への理解を深める。
		心理と教育	人間の心と発達に関する諸問題を現代社会とのかかわりにおいて理解し、持続可能な社会の実現に向けて、発達の支援と教育に必要な基本的知識及び考え方を習得する。
		社会と産業	変動する社会と産業の基本的なしくみを理解し、持続可能でゆたかな社会を生きるための知識と技術を身につける。
		人間と文化	人間の思想・文学・芸術のありかたなどの理解を深めるとともに、現代文明と地域文化・社会について、その特質と発展の歴史を探索する。
		情報	情報化社会の中で生活する者にとって欠くことのできない、情報のありかた、情報技術に関する概念と知識を習得する。
		自然と環境	自然の様相を科学的に学んでその本質について理解を深め、また人間活動と自然との関わり合いを認識することで、持続可能な未来に向けた実践と判断の能力を養う。

教育の基本方針

■ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

所定の単位を修得し必要な修業年限を満たした上で、次に掲げる学修目標に到達したと認められた学生に学士(教養)の学位を授与する。

1. 専攻する学問領域における基本的な知識を体系的に習得している。
2. 人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い教養を涵養し、単一の学問領域内の知識を超えた複眼的な視点を身につけている。
3. 論理的思考に基づいて、職場や日々の生活等で生じる様々な課題を発見し、問題を解決するための糸口を見出すことができる。
4. あらゆる場面において、倫理観をもち、責任ある行動をとる能力を身につけている。
5. 国際的な視野、文化の多様性への理解、自然環境への配慮のもとに、社会に貢献する姿勢を身につけている。

(※各コースに関連した分野の社会における顕在・潜在ニーズを踏まえたコースごとの「専攻する学問領域における基本的な知識」及び「人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い教養」は、以下のとおり。)

生活と福祉コース

【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】

衣食住・家族・健康・福祉等生活に関わる諸問題に関する概念と知識。

【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】

現代社会における衣食住・家族・健康・福祉等生活に関わる諸問題の理解と実践に関する幅広い知識。

心理と教育コース

【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】

人間の心と発達、教育に関わる複雑な諸問題に関する概念と知識。

【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】

現代社会における教育や発達の理解と支援に関する幅広い知識。

社会と産業コース

【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】

社会と産業の基本的なしくみに関する専門的な知識や、持続可能で豊かな社会を生きるための技術。

【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】

社会と産業のしくみに関する学際的な知識や、持続可能で豊かな社会に関する幅広い技術。

人間と文化コース

【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】

思想・芸術・歴史・文学をはじめ、人間の生み出した文化のありかたに関する知識。

【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】

人間の生み出した文化に関する様々な学問分野についての知識や方法についての幅広い知識。

情報コース

【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】

情報学に関する知識と技術。

【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】

実際の問題解決に必要となる人文・社会科学、工学、自然科学に関する知識。

自然と環境コース

【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】

科学的根拠に基づく自然の様相に関する知識。

【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】

人間活動と自然との関わり合いや持続可能な未来に向けた実践と判断に関する知識。

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

【教育課程編成】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

＜授業科目の区分と目標＞

- ・各コースでの学習に必要な基礎的な知識・能力あるいはリテラシーを学び、学習への意欲を一層強め、併せて、今日の社会において必要となる基礎的教養を身につける[基盤科目]を設け、所定単位修得を必修とする。
- ・基盤科目で学んだ基礎的な知識・能力を深め、各コースで開設される科目を効率的に学習するために、コースを構成する各学問分野の導入的な知識・能力を身につける[導入科目]を設ける。
- ・各コースの学問分野における専門的な知識、技能、思考方法を身につける[専門科目]を設ける。
- ・学際的な知識、技能を身につけ、単一の学問領域内での学習を超えた複眼的な視点を養うために、[総合科目]を設ける。

＜複眼的視点を身につける修得上の要件＞

- ・[導入科目][専門科目]及び[総合科目]のうち、所属するコース以外が開設した科目を最低単位数以上修得することを必修とし、異なる学問領域の視点を学び、複眼的な視点、学際的な知識を養う。

＜多様な授業形態と修得上の要件＞

- ・授業は、テレビ・ラジオ及び印刷教材による放送授業、インターネットを活用したオンライン授業、教員と直接対面して行う面接授業、自宅等においてパソコン等を用いて同時双方向で受講するライブWeb 授業の4つの形態で実施する。
- ・放送授業だけではなく、他者と協働した学びや能動的な学習を可能とする双方向性を確保した面接授業、オンライン授業、ライブWeb 授業のいずれかによる所定単位修得を必修とする。
- ・放送授業では実施しにくい、課題発見・問題解決のスキルの修得、課題に向き合う姿勢、他者との協調・コミュニケーション能力の育成を対面の面接授業、オンライン授業、ライブWeb 授業で補う。

＜ナンバリングとリメディアルによる履修支援＞

- ・授業科目のナンバリングによって教育課程の体系を明示し、合理的で円滑な履修を支援する。
- ・各コースでの学習に必要な基礎的な知識・能力あるいはリテラシーを学ぶためのリメディアル教育の場として、自己学習用のe ラーニング教材である自己学習サイトを設け、自発的学習が可能なることを周知する。

【学修成果の評価方法】

シラバスで提示する各授業目標の達成度について基準を設け、試験、レポート等によって評価する。

（＊各コースにおける各学問領域の専門的な知識・能力については、以下のとおり。）

生活と福祉コース	衣食住・家族・健康・福祉等生活に関わる諸問題についての専門的な知識。
心理と教育コース	教育系、心理系、臨床心理系の3つの領域から構成される、広く人間の発達や教育に関わる問題についての専門的・総合的な知識。
社会と産業コース	社会と産業のしくみについての専門的及び学際的な知識や、持続可能で豊かな社会を生きるための幅広い技術。
人間と文化コース	人間の生み出した文化に関する様々な領域についての専門的な知識。
情報コース	情報の数理的側面・処理・機構・技術と、情報と人間・社会との関わりについての専門的な知識。
自然と環境コース	科学的根拠に基づく自然の様相及び人間活動と自然との関わり合いについての専門的な知識。

■ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学の教育理念である、広く国民に高等教育の機会を提供することを達成するために、入学試験を行わず、以下のような学生を求める。

1. 入学後の学習内容を理解できる、高等学校卒業程度の知識と能力を有していること。
2. メディアを活用した学修に積極的に取り組む意欲とその持続力があること。

また、本学における学習をより効果的なものとするため、入学にあたっては以下のことが望まれる。

- ・多様な背景をもつ学生と共に学ぶ姿勢をもつこと。
- ・入学前に学習意欲を高めるために、本学が公開している授業科目を受講すること。

学習システム

■ 入学機会は年2回

年間2学期制(4月～9月、10月～3月)を採用し、学期ごとにまとまりのある学習ができるように教育課程を編成しています。したがって、各年度とも4月、または10月に入学することができます。

■ 放送授業

【授業番組の視聴】

放送授業は、各学期とも15回(週1回、1回45分)にわたって、BSテレビ又はBSラジオで授業が行われます。在學生はテレビ科目、ラジオ科目の原則すべてをインターネットでも視聴可能です。

※テレビ科目の中には、インターネット配信限定で視聴する科目があります。

【印刷教材による学習】

放送授業科目には、すべて印刷教材が用意され、放送教材と印刷教材による学習を併せて行うことになります。印刷教材は、200頁(A5版)程度で、原則として指定の期日までに授業料を納入いただくと、学期開始前に送付されます。

なお、印刷教材は、放送大学の企画の下に授業科目担当講師が執筆し、一般財団法人放送大学教育振興会が発行しています。この印刷教材は、全国の主な書店でも販売されています。

【通信指導】

通信指導とは、学期の途中に1回、前半の一定範囲から問題を出題し、その答案を提出して、担当教員の指導(添削・講評)を受けることです。

なお、通信指導に合格することによって単位認定試験の受験資格が得られます。



【単位認定試験】

単位認定試験は15週間の放送授業終了後に実施される試験で、合格者には単位の認定を行います。2022年度からインターネットを通じて自宅等から受験する、Web受験方式で実施しています。Web受験が困難な場合は、学習センターなどで受験することも可能です。

■ オンライン授業

インターネット上で講義を視聴、小テストやディスカッション、レポート等の課題を科目ごとに決められた期間に提出して学びを進めます。通信指導、単位認定試験は行わず、インターネット上での学習により成績評価を行います。(一部科目ではWeb通信指導、単位認定試験を行います。)

ライブWeb授業

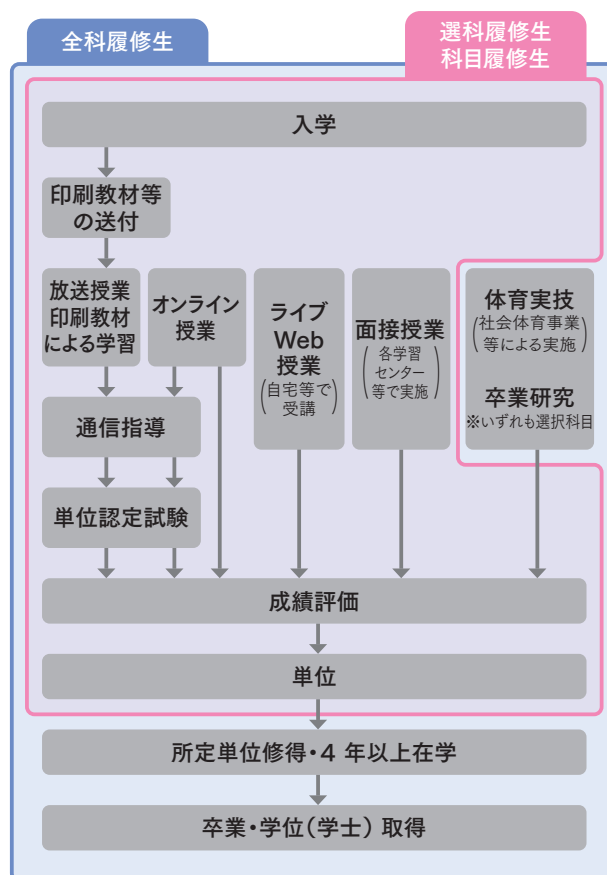
Web会議システム(Zoom)を利用した授業と、オンライン授業の利点を活かした授業形態です。学習センターではなく、ご自宅などでパソコンなどを用いてリアルタイムで受講します。

■ 面接授業

面接授業は、学習センターなどで教員から直接指導を受ける機会として重要なだけでなく、学生相互の啓発などにおいても大きな意義があります。面接授業は、原則として90分(1時間30分)の授業を7回、45分の授業を1回、計8回で実施します。

■ 卒業研究

卒業研究は、全科履修生の選択科目です。指導教員から直接指導を受け「卒業研究報告書」を作成します。主にゼミナール形式や個別指導の形式でWeb会議システムやE-mailを使用した指導も行っています。



学生の種類

■ 全科履修生 ～卒業を目指す学生～

卒業を目指す人は、全科履修生として入学することになります。全科履修生として入学するには、高等学校卒業、またはこれと同等以上の大学入学資格が必要です。

全科履修生は、6つのコースのいずれか1つのコースに所属し、4年以上在学して、所定の124単位以上を修得した場合に卒業が認定されます。本学を卒業すると、学士(教養)の学位が得られます。

また、大学、短期大学、高等専門学校、一定の基準を満たす専修学校専門課程を卒業・修了された方や大学に2年以上在学した方などの場合、全科履修生の3年次に編入することもできます。

なお、1年次から入学された場合には、卒業までに最長10年間に在学することができます(再入学も可)ので、自分の生活に合わせた形で学習の進捗を決めることができます。

4年間で卒業する場合に要する1週当たりの標準的な学習量と卒業の要件は次のとおりです。

○毎週の標準的な学習量(4年で卒業を目指す場合)

放送授業の視聴	45分番組を7回程度
印刷教材などの学習	45～60頁程度

予習、復習の時間は含まれていません。また、放送授業が行われる科目については、提示された課題について答案を提出する通信指導を受けることとなっています。

○卒業の要件

科目区分		修得すべき最低単位数		単位の認定方法	修得すべき最低単位数		
基盤科目		14	34	①基盤科目のうち、外国語から2単位以上を修得するものとする。	放送授業で修得すべき最低単位数 74	面接授業又はオンライン授業で修得すべき最低単位数 20	授業形態を問わない単位数 30
コース科目	導入科目	76		①コース科目(導入科目、専門科目、総合科目)のうち、所属するコースが開設する科目から34単位以上、所属するコース以外が開設する科目から4単位以上を修得するものとする。 ②卒業研究の6単位は、所属するコースの専門科目の単位として認定するものとする。			
	専門科目						
	総合科目						
計		124			124		

※1. 全科履修生の在学期間中に本学大学院修士科目生又は修士選科生として修得した単位については、申請により卒業要件の単位数に含めることができます。ただし学部卒業要件の単位として使用した大学院の単位は、大学院での修得要件の単位に含めることはできません。

※2. オンライン授業「教育課程の意義及び編成の方法(15)」[幼児理解の理論及び方法(15)]は、卒業要件上「授業形態を問わない単位数」として取り扱いいます。

※3. ライブWeb授業科目は、卒業要件上は「面接授業又はオンライン授業」として取り扱いいます。

■ 選科履修生～1年間に在学する学生～ ■ 科目履修生～1学期間(6カ月)に在学する学生～

必ずしも大学の卒業を目的とせず、自分の学習したいテーマに基づいて一定の科目を選択し、履修を希望する方は、選科履修生、又は科目履修生として入学できます。入学する年度の初めにおいて満15歳以上であれば、誰でも選科・科目履修生として入学することができます。選科履修生は入学した学期の途中に、次の学期の科目登録を行います。

■ 大学入学資格のない方が全科履修生として入学するためには

中学校卒業又は高等学校中退の方でも、選科履修生、又は科目履修生として本学に在籍し、入学年度当初に18歳以上で以下の条件を満たす方は全科履修生として入学できます。

基盤科目(保健体育を除く)、または導入科目から16単位以上を修得していることが必要です。

単位の通算 選科履修生、又は科目履修生として修得した単位は、全科履修生として入学後、卒業に必要な単位として通算されます。

■ 集中科目履修生 ～学期内のある特定の期間、特定の授業科目を履修する学生～

第1学期夏期学習期間(夏季集中)において、資格取得などに資する科目として、「学校図書館司書教諭資格取得に資する科目」(学校図書館司書教諭講習)を開設しています。

なお、この講習科目の単位は卒業要件の単位に算入されません。

■ 特別聴講学生 ～単位互換協定に基づいて受け入れる学生～

本学と他の大学など(大学・短期大学・高等専門学校・大学院)との単位互換協定に基づいて、協定締結校の学生を本学に受け入れています。本学で修得した単位は、所属大学などの単位として認定されます。

入学手続と学費

入学手続

- (1) 放送大学は、年間2学期制(4月～9月、10月～3月)を採用しており、年2回(4月・10月)入学の機会があります。
- (2) 入学者の選考は、書類により行い、学力試験は行いません。
- (3) 出願者は、所属を希望する学習センターを選びます。

学費

学生種	入学料	授業料
全科履修生	24,000円	放送授業1科目(2単位) 12,000円 面接授業1科目(1単位) 6,000円 オンライン授業・
選科履修生	9,000円	ライブWeb授業1科目(1単位) 6,000円 (2単位) 12,000円 ※1学期(半年間)・放送授業は教材費込み
科目履修生	7,000円	
集中科目履修生	5,000円	

- (1) 入学料は入学時に、授業料はそれぞれの学期の開始前に履修登録した科目の合計単位数分(登録単位数×6,000円)の金額を、コンビニエンスストア・ゆうちょ銀行・金融機関から払い込むことになります。一部スマホ決済も使用可能となりました。
- (2) 放送授業の場合、印刷教材(テキスト)の費用は上記の授業料に含まれています。
- (3) 既修得単位認定審査等手数料は10,000円となります。
- (4) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

入学料の割引

学校・企業などが推薦する20名以上の所属学生や職員の出願書類を取りまとめ、一括して手続きをした場合などには、全員の入学料を割引します。また、過去3年以内に教養学部の学生であった方は、入学料が割引となります。(ただし、集中科目履修生の入学料は前年度に集中科目履修生であった方に限り割引となります。)

「奨学金の貸与及び給付」

- ・全科履修生(面接授業を履修する人)に対しては、選考の上、日本学生支援機構の奨学金が貸与・給付されます。
- ・給付型奨学金の採用決定を受けた放送大学の在学者に対して、放送大学独自の経済的支援として、奨学金が給付されます。
- ・選科履修生(4月入学者のみ)に対しては、選考の上、公益財団法人北野生涯教育振興会の奨学金が給付されます。

「勤労学生の所得控除」

- ・全科履修生に対しては、年間所得が一定額に満たない場合、勤労学生控除が適用されます。

「国民年金学生納付特例」

- ・全科履修生に対しては、前年の所得が一定額に満たない場合、学生納付特例制度が適用されます。

「郵便料金の割引」

- ・通信指導や授業内容に関する質問のための郵便料金は、1通100グラムまで15円です。

「学生旅客運賃割引証の発行」

- ・全科履修生が自宅から学習センターに通学する場合などに、学生旅客運賃割引証を発行します。

「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」(一般教育訓練給付)

- ・選科履修生は教養学部企業会計コース、教養学部企業経営コース、データサイエンスリテラシーコース、データサイエンスアドバンスコース、学校地域連携コーディネーターコース、科目履修生は教養学部企業経営(短期養成)コースが対象講座です。

教養学部開設授業科目一覧

授業科目には、すべてのコースにおける学習をするための基礎となる基盤科目、各コースで開設するコース科目があります。コース科目は導入科目、専門科目、総合科目に分類されます。その他に資格取得などに資する科目として、学校図書館司書教諭資格取得に資する科目(学校図書館司書教諭講習)及び看護師資格取得に資する科目があります。

2025年度に開設する放送授業科目は288科目(テレビ169科目、ラジオ119科目)、オンライン授業科目は53科目です

(卒業研究及び体育実技は含まれません)。

この他に面接授業も多数開講し、ライブWeb授業も徐々に開講数を増やしています。

資格取得などに資する科目のうち、学校図書館司書教諭資格取得に資する科目については、夏季集中型科目として開設しており、第1学期夏期学習期間にのみ放送されます。なお、この講習科目については、単位を修得しても本学の卒業に必要な単位に算入されません。

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目

TV※:インターネット配信限定で視聴する科目

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位	
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)				
基盤科目	運動と健康('22)	(関根 紀子)	TV	2	
	市民自治の知識と実践('21)	(山岡 龍一、岡崎 晴輝)	R	2	
	問題解決の進め方('25)	(秋光 淳生)	TV	2	
	国際理解のために('19)	(高橋 和夫)	R	2	
	自然科学ははじめの一歩('22)	(岸根 順一郎、大森 聡一)	TV	2	
	少子化時代の子育て一法と政策('25)	(倉田 賀世、常森 裕介※)	OL	1	
	社会と産業の倫理('21)	(松原 隆一郎、山岡 龍一)	R	2	
	より良い思考の技法('23) —クリティカル・シンキングへの招待—	(菊池 聡)	TV	2	
	心理と教育へのいざない('24)	(苑 復傑、向田 久美子、佐藤 仁美)	R	2	
	日本語リテラシー('21)	(滝浦 真人)	TV	2	
	日本語リテラシー演習('18)	(滝浦 真人)	OL	1	
	日本語アカデミックライティング('22)	(滝浦 真人)	TV※	2	
	遠隔学習のためのパソコン活用('25)	(秋光 淳生、仁科 エミ)	TV	2	
	地理空間情報の基礎と活用('22)	(川原 靖弘、関本 義秀)	TV	2	
	情報学へのとびら('22)	(加藤 浩、大西 仁)	TV	2	
	データサイエンス・リテラシ導入('22)	(中谷 多哉子)	OL	1	
	データサイエンス・リテラシ基礎('22)	(加藤 浩)	OL	1	
	データサイエンス・リテラシ心得('22)	(辰己 丈夫)	OL	1	
	初歩からの数学('18)	(隈部 正博)	TV	2	
	身近な統計('24)	(石崎 克也、渡辺 美智子)	TV	2	
	演習初歩からの数学('20)	(隈部 正博)	OL	1	
小 計		21科目	36単位		
基盤科目	外国語	シン・ビートルズ de 英文法('25)	(大橋 理枝、中野 学而)	R	2
		英語で「道」を語る('21)	(大橋 理枝、斎藤 兆史)	TV	2
		グローバル時代の英語('22)	(宮本 陽一郎、大橋 理枝、クリスティ コリンズ)	R	2
		英語で読む大統領演説('20)	(宮本 陽一郎)	TV	2
		教養で読む英語('19)	(大橋 理枝)	OL	2
		看護・医療の英語('19)	(三品 由紀子、大石 和欣)	OL	1
		ドイツ語Ⅰ('23)	(井出 万秀)	TV	2
		ドイツ語Ⅱ('23)	(井出 万秀)	R	2
		フランス語Ⅰ('24)	(田口 亜紀)	TV	2
		フランス語Ⅱ('24)	(田口 亜紀)	R	2
		中国語Ⅰ('23) —夏目漫步東京—	(宮本 徹)	TV	2
		中国語Ⅱ('23) —劉汀「舅爺」他—	(宮本 徹)	R	2
		韓国語Ⅰ('25)	(新井 保裕)	TV	2
		韓国語Ⅱ('25)	(新井 保裕)	R	2
		初歩のロシア語('22)	(沼野 恭子)	R	2
		初歩のスペイン語('25)	(柳原 孝敦)	R	2
小 計		16科目	31単位		
生活と福祉コース	導入科目	生活経済学('25)	(大藪 千穂)	R	2
		暮らしに活かす不動産学('22)	(齊藤 広子、中城 康彦)	TV	2
		生活環境情報の表現—GIS入門('20)	(川原 靖弘、瀬戸 寿一※)	OL	1
		健康と社会('23)	(戸ヶ里 泰典)	R	2
		健康への力の探究('19)	(戸ヶ里 泰典、中山 和弘)	R	2
		疾病の成立と回復促進('25) —人体の構造と機能及び疾病B—	(岡田 忍、佐伯 由香)	TV	2
		疾病の回復を促進する薬('25)	(櫻井 隆、服部 信孝)	TV	2
		人体の構造と機能('22) —人体の構造と機能及び疾病A—	(坂井 建雄、岡田 隆夫)	TV	2
		睡眠と健康('25)	(宮崎 総一郎、林 光緒)	R	2
		がんを知る('16)	(田城 孝雄、渡邊 清高)	OL	2
		感染症と生体防御('24)	(田城 孝雄、北村 聖)	R	2
		がんとともに生きる('18)	(田城 孝雄、渡邊 清高)	OL	1
		健康長寿のためのスポーツロジ('24)	(田城 孝雄、内藤 久士)	TV	2
		循環器の健康科学('20)	(田城 孝雄、佐藤 真治※)	OL	1
		社会福祉—新しい地平を拓く('22)	(山田 知子)	TV	2
		貧困の諸相('23)	(駒村 康平、渡辺 久里子)	R	2
		社会統計学入門('24)【社会と産業コースと共用】	(林 拓也)	R	2
		社会調査の基礎('19)【社会と産業コースと共用】	(北川 由紀彦、山口 恵子)	TV	2

区分	2025年度 開設科目			メディア	単位			
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)							
導入科目	かたちの化学-化学の考え方入門('23) 【自然と環境コースと共用】 (橋本 健朗)			TV	2			
	分子の変化からみた世界('23)【自然と環境コースと共用】 (安池 智一)			TV	2			
	初歩からの情報科学('25)【情報コースと共用】 (辰己 丈夫、高岡 詠子)			TV	2			
	小 計	21科目	39単位					
生活と福祉コース	専門科目	人間・環境情報とDX('25) (川原 靖弘、片桐 祥雅)			TV	2		
		持続可能な社会と生活('23) (関 正雄)			TV	2		
		ソーシャルシティ('23) (川原 靖弘、鈴木 淳一)			TV	2		
		食と健康('24) (朝倉 富子、佐藤 隆一郎)			TV	2		
		リスクコミュニケーションの探究('23) (奈良 由美子)			R	2		
		コミュニティがつなぐ安全・安心('20) (林 春男)			TV	2		
		リスク社会の家族変動('20) (田間 泰子)			R	2		
		家族問題と家族支援('20) (下夷 美幸)			R	2		
		食の安全('25) (朝倉 富子、関崎 勉)			TV	2		
		公衆衛生('24) (田城 孝雄、横山 和仁)			R	2		
		認知症と生きる('21) (井出 訓、山川 みやえ)			TV	2		
		リハビリテーション('25) (金田 嘉清、櫻井 宏明)			R	2		
		今日のメンタルヘルス('23) —健康・医療心理学の実践的展開— (石丸 昌彦)			TV	2		
		看護学概説('22) (山内 豊明)			R	2		
		基礎看護学('24) (戸ヶ里 泰典)			TV	2		
		地域・在宅看護論('23) (永田 智子、小野 若菜子)			TV	2		
		災害看護学・国際看護学('20) (神崎 初美、西上 あゆみ)			TV	2		
		看護管理と医療安全('24) (飯島 佐知子、田中 幸子)			R	2		
		精神疾患とその治療('20) (石丸 昌彦)			R	2		
		高齢期を支える('23) —高齢者が社会を支える時代に向け— (板本 一三郎)			R	2		
		地域福祉の課題と展望('22) (斉藤 弥生、小松 理佐子)			TV	2		
		社会福祉実践とは何か('22) (横山 登志子)			R	2		
		社会政策の国際動向と日本の位置('23) (居神 浩)			TV	2		
		ライフステージと社会保障('20) (丸谷 浩介)			R	2		
		子どもの人権をどうまもるのか('21) —福祉施策と実践を学ぶ— (山縣 文治)			TV	2		
		障害者の自立と制度('24) (松井 彰彦、川島 聡)			TV	2		
		生物の進化と多様化の科学('17) 【自然と環境コースと共用】 (二河 成男)			TV	2		
		環境を可視化する技術と応用('23) 【社会と産業コースと共用】 (中村 恭志、浅輪 貴史)			TV	2		
		ヒューマンインタフェース('23) 【情報コースと共用】 (増井 俊之、小池 英樹)			TV※	2		
		感覚と応答の生物学('23)【自然と環境コースと共用】 (二河 成男)			TV	2		
		都市と地域の社会学('24)【社会と産業コースと共用】 (北川 由紀彦、玉野 和志)			R	2		
		小 計		31科目	62単位			
		総合科目	総合科目	地域生活を支える社会福祉と法('24) (平部 康子、木村 茂喜)			R	2
				レジリエンスの科学('24) (奈良 由美子、鈴木 康弘)			TV	2
				グリーフサポートと死生学('24) (石丸 昌彦、山崎 浩司)			R	2
地域包括ケアシステムと在宅医療('18) (田城 孝雄、服部 真治)				OL	1			
住まいの環境論('23)【社会と産業コースと共用】 (田中 稲子)				TV	2			
小 計	5科目			9単位				
心理と教育コース	導入科目	教育の社会学('25) (本田 由紀、中村 高康)			TV	2		
		現代教育入門('21) (岩永 雅也、岩崎 久美子)			R	2		
		テーマで学ぶ日本教育史('24) (貝塚 茂樹)			R	2		
		教育政策のデザイン('25) (櫻井 直輝、植竹 丘※、阿内 春生※)			OL	2		
		教育・学校心理学('20) (進藤 聡彦、谷口 明子)			TV	2		
		心理学概論('24) (森 津太子、向田 久美子)			TV	2		
		発達心理学概論('17) (向田 久美子)			R	2		
		社会調査の基礎('19)【社会と産業コースと共用】 (北川 由紀彦、山口 恵子)			TV	2		
		社会福祉—新しい地平を拓く('22) 【生活と福祉コースと共用】 (山田 知子)			TV	2		
		人体の構造と機能('22) —人体の構造と機能及び疾病A— 【生活と福祉コースと共用】 (坂井 建雄、岡田 隆夫)			TV	2		
日常生活のデジタルメディア('22)【情報コースと共用】 (青木 久美子、高橋 秀明)			TV	2				

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目
TV※:インターネット配信限定で視聴する科目

区分	2025年度 開設科目			メディア	単位
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)				
導入科目	博物館概論('23)【人間と文化コースと共用】(鶴見 英成)			TV	2
	疾病の成立と回復促進('25)ー人体の構造と機能及び疾病Bー【生活と福祉コースと共用】(岡田 忍、佐伯 由香)			TV	2
	疾病の回復を促進する薬('25)【生活と福祉コースと共用】(櫻井 隆、服部 信孝)			TV	2
	社会学概論('25)【社会と産業コースと共用】(北川 由紀彦)			TV	2
	総合人類学としてのヒト学('18)【人間と文化コースと共用】(高倉 浩樹)			R	2
	貧困の諸相('23)【生活と福祉コースと共用】(駒村 康平、渡辺 久里子)			R	2
	経営学入門('24)【社会と産業コースと共用】(原田 順子、松井 美樹)			R	2
	社会統計学入門('24)【社会と産業コースと共用】(林 拓也)			R	2
	多文化共生のコミュニケーション('24)【人間と文化コースと共用】(大橋 理枝、根橋 玲子)			R	2
	睡眠と健康('25)【生活と福祉コースと共用】(宮崎 総一郎、林 光緒)			R	2
	Rで学ぶ確率統計('21)【情報コースと共用】(秋光 淳生)			OL	1
	共生のための技術者倫理('24)【社会と産業コースと共用】(金光 秀和)			OL	2
	表計算プログラミングの活用('25)ー体系的・実践的な理解へー【情報コースと共用】(辻 靖彦)			OL	1
	ゲーム理論入門('25)【情報コースと共用】(大西 仁)			OL	1
	日本語教育学入門('24)【人間と文化コースと共用】(伊東 祐郎、滝浦 真人)			TV※	2
心理と教育コース	小 計	26科目	49単位		
	肢体不自由児の教育('20)(川間 健之介、長沼 俊夫)			TV	2
	教育調査の基礎('20)(藤田 武志、西島 央)			TV	2
	学校リスク論('22)(内田 良)			TV	2
	新時代の生徒指導('23)(東 宏行、伊東 毅)			TV	2
	コミュニティと教育('24)(仲田 康一、大木 真徳)			TV	2
	現代の家庭教育('18)(田中 理絵)			R	2
	道徳教育論('21)(貝塚 茂樹、林 泰成)			R	2
	乳幼児の保育・教育('21)(野口 隆子)			R	2
	幼児教育の指導法('22)(師岡 章)			R	2
	日本の文化と教育('23)(矢口 徹也、辻 智子)			R	2
	教育の行政・政治・経営('23)(青木 栄一、川上 泰彦)			R	2
	学校と法('24)(坂田 仰)			R	2
	世界の学校('24)(園山 大祐、辻野 けんま)			R	2
	特別支援教育総論('25)(笹森 洋樹、佐藤 慎二)			R	2
専門科目	知的障害教育総論('25)(佐藤 慎二、高倉 誠一)			R	2
	教育課程の意義及び編成の方法('15)(福元 真由美)			OL	1
	幼児理解の理論及び方法('15)(中澤 潤、砂上 史子)			OL	1
	生涯学習を考える('17)(岩永 雅也、岩崎 久美子)			OL	2
	SDGsと教育('22)(及川 幸彦、鈴木 克徳※、中澤 静男※)			OL	2
	特別支援教育基礎論('24)(加瀬 進、高橋 智※、田部 絢子※、池田 吉史※、田中 謙※、堤 英俊※)			OL	2
	現代のキャリアコンサルティング('25)(金井 篤子、原田 順子※、中井 智子※、岡崎 淳一※、深谷 潤一※、高綱 睦美※、石丸 昌彦※)			OL	1
	学校図書館サービス論('21)(前田 稔、堀川 照代)			TV※	2
	社会教育経営実践論('22)(佐藤 晴雄、佐々木 英和)			TV※	2
	生涯学習支援の理論と実践('22)(赤尾 勝己、吉田 敦也)			TV※	2
	日本の教職論('22)(大野 裕己、露口 健司)			TV※	2
	心理学研究法('20)(三浦 麻子)			TV	2
	錯覚の科学('20)(菊池 聡)			TV	2
	社会・集団・家族心理学('20)(森 津太子)			TV	2
	心理学統計法('21)(清水 裕士)			TV	2
神経・生理心理学('22)(高瀬 堅吉)			TV	2	
知覚・認知心理学('23)(石口 彰)			TV	2	
進化心理学('23)(大坪 庸介)			TV	2	
学習・言語心理学('25)(高橋 秀明)			TV	2	
産業・組織心理学('20)(山口 裕幸)			R	2	
乳幼児・児童の心理臨床('17)(小林 真理子、塩崎 尚美)			TV	2	
認知行動療法('20)(下山 晴彦、神村 栄一)			TV	2	
臨床心理学概論('20)(倉光 修)			TV	2	
心理カウンセリング序説('21)ー心理学的支援法ー(大山 泰宏)			TV	2	
イメージの力('24)(佐藤 仁美)			TV	2	

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)			
心理と教育コース	専門科目	思春期・青年期の心理臨床('19) (大山 泰宏)	R	2
		中高年の心理臨床('20) (宇都宮 博、大川 一郎)	R	2
		心理職の専門性('20) ―公認心理師の職責― (吉川 真理、平野 直己)	R	2
		心理的アセスメント('20) (森田 美弥子、永田 雅子)	R	2
		司法・犯罪心理学('20) (廣井 亮一)	R	2
		感情・人格心理学('21) (大山 泰宏、佐々木 玲仁)	R	2
		心理臨床における法・倫理・制度('21) ―関係行政論― (津川 律子、元永 拓郎)	R	2
		福祉心理学('21) (村松 健司、坪井 裕子)	R	2
		障害者・障害児心理学('21) (古賀 精治)	R	2
		精神分析とユング心理学('23) (吉川 真理、田中 健夫)	R	2
		情報社会のユニバーサルデザイン('19) 【情報コースと共用】 (広瀬 洋子、関根 千佳)	TV	2
		ユーザ調査法('20)【情報コースと共用】 (高橋 秀明)	TV	2
		子どもの人権をどうまもるのか('21) ―福祉施策と実践を学ぶ― 【生活と福祉コースと共用】 (山縣 文治)	TV	2
		認知症と生きる('21)【生活と福祉コースと共用】 (井出 訓、山川 みやえ)	TV	2
		教育のためのICT活用('22)【情報コースと共用】 (中川 一史、苑 復傑)	TV	2
		メディア論('22)【情報コースと共用】 (水越 伸)	TV	2
		持続可能な社会と生活('23)【生活と福祉コースと共用】 (関 正雄)	TV	2
		ソーシャルシティ('23)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV	2
		今日のメンタルヘルス('23) ―健康・医療心理学の実践的展開― 【生活と福祉コースと共用】 (石丸 昌彦)	TV	2
		障害者の自立と制度('24)【生活と福祉コースと共用】 (松井 彰彦、川島 聡)	TV	2
		フィールドワークと民族誌('24) 【人間と文化コースと共用】 (大村 敬一、中空 萌)	TV	2
		データの分析と知識発見('24)【情報コースと共用】 (秋光 淳生)	TV	2
		博物館情報・メディア論('25) 【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成、近藤 智嗣)	TV	2
		博物館展示論('25)【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成)	TV	2
		人間・環境情報とDX('25)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、片桐 祥雅)	TV	2
		マーケティング('25)【社会と産業コースと共用】 (安藤 和代、石井 裕明)	TV	2
		博物館資料保存論('25)【人間と文化コースと共用】 (日高 真吾)	TV	2
		生活を支えるコンピュータ技術('25) 【情報コースと共用】 (葉田 善章)	TV	2
		統計学('19)【自然と環境コースと共用】 (藤井 良宜)	R	2
		家族問題と家族支援('20)【生活と福祉コースと共用】 (下夷 美幸)	R	2
		精神疾患とその治療('20)【生活と福祉コースと共用】 (石丸 昌彦)	R	2
		大学マネジメント論('20)【社会と産業コースと共用】 (小方 直幸)	R	2
		博物館教育論('22)【人間と文化コースと共用】 (大高 幸、寺島 洋子)	R	2
		リスクコミュニケーションの探究('23) 【生活と福祉コースと共用】 (奈良 由美子)	R	2
		高齢期を支える('23) ―高齢者が社会を支える時代に向け― 【生活と福祉コースと共用】 (坂本 一三郎)	R	2
		サービスサイエンス('23)【社会と産業コースと共用】 (岡田 幸彦、原 辰徳)	R	2
		現代に生きる現象学('23) ―意味・身体・ケア― 【人間と文化コースと共用】 (榊原 哲也、本郷 均)	R	2
		博物館経営論('23)【生活と福祉コースと共用】 (佐々木 亨、今村 信隆)	R	2
		情報化社会におけるメディア教育('24) 【情報コースと共用】 (苑 復傑、中川 一史)	R	2
		行政学講説('24)【社会と産業コースと共用】 (金井 利之)	R	2
リハビリテーション('25)【生活と福祉コースと共用】 (金田 嘉清、櫻井 宏明)	R	2		
西洋政治思想の文脈('25)【社会と産業コースと共用】 (木村 俊道)	R	2		
NPO・NGOの世界('25) 【社会と産業コースと共用】 (大橋 正明、利根川 佳子)	R	2		
小学校プログラミング教育概論('21) 【情報コースと共用】 (中川 一史、小林 祐紀※)	OL	1		
情報セキュリティの理論と基盤('23) 【情報コースと共用】 (菊池 浩明、上原 哲太郎※)	OL	1		
情報セキュリティの現状と展望('23) 【情報コースと共用】 (上原 哲太郎、菊池 浩明※)	OL	1		

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目
TV※:インターネット配信限定で視聴する科目

区分	2025年度 開設科目			メディア	単位		
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)						
心理と教育コース	専門科目	社会科学で綴る伝記('25)【社会と産業コースと共用】(松原 隆一郎)			OL	1	
		「日本語らしさ」とは何か('25)【人間と文化コースと共用】 (滝浦 真人)			OL	2	
		博物館資料論('25)【人間と文化コースと共用】(折茂 克哉)			OL	2	
		ヒューマンインタフェース('23)【情報コースと共用】 (増井 俊之、小池 英樹)			TV※	2	
	総合科目	小 計	89科目	171単位			
		色を探究する('23)(佐藤 仁美、二河 成男)			TV	2	
		情報技術が拓く人間理解('20)【情報コースと共用】 (仁科 エミ、辰己 丈夫)			TV	2	
		レジリエンスの科学('24)【生活と福祉コースと共用】(奈良 由美子、鈴木 康弘)			TV	2	
		グリーフサポートと死生学('24)【生活と福祉コースと共用】(石丸 昌彦、山崎 浩司)			R	2	
		時間を究める('23)【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)			OL	1	
	小 計	5科目	9単位				
	社会と産業コース	導入科目	社会経済の基礎('25)(松原 隆一郎)			R	2
			社会調査の基礎('19)(北川 由紀彦、山口 恵子)			TV	2
			社会統計学入門('24)(林 拓也)			R	2
社会学概論('25)(北川 由紀彦)			TV	2			
一般市民のための法学入門('23)(李 鳴)			R	2			
グローバル化時代の日本国憲法('19)(山元 一)			TV	2			
政治学入門('22)(山岡 龍一、待鳥 聡史)			R	2			
経営学入門('24)(原田 順子、松井 美樹)			R	2			
共生のための技術者倫理('24)(金光 秀和)			OL	2			
教育の社会学('25)【心理と教育コースと共用】(本田 由紀、中村 高康)			TV	2			
生活経済学('25)【生活と福祉コースと共用】(大藪 千穂)			R	2			
生活環境情報の表現ーGIS入門('20)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、瀬戸 寿一※)			OL	1			
日本近現代史('21)【人間と文化コースと共用】(季武 嘉也)			R	2			
暮らしに活かす不動産学('22)【生活と福祉コースと共用】 (齊藤 広子、中城 康彦)			TV	2			
西洋哲学の根源('22)【人間と文化コースと共用】(納富 信留)			R	2			
健康と社会('23)【生活と福祉コースと共用】(戸ヶ里 泰典)			R	2			
貧困の諸相('23)【生活と福祉コースと共用】 (駒村 康平、渡辺 久里子)			R	2			
哲学・思想を今考える('23) 一歴史の中でー 【人間と文化コースと共用】(魚住 孝至)			R	2			
情報と法('23)【情報コースと共用】(児玉 晴男)			R	2			
教育政策のデザイン('25)【心理と教育コースと共用】 (櫻井 直輝、植竹 丘※、阿内 春生※)			OL	2			
ゲーム理論入門('25)【情報コースと共用】(大西 仁)			OL	1			
小 計	21科目	40単位					
専門科目	都市と地域の社会学('24)(北川 由紀彦、玉野 和志)			R	2		
	現代経済学('19)(依田 高典)			TV	2		
	現代国際社会と有機農業('23)(中西 徹)			R	2		
	日本経済の比較史('24)(谷本 雅之)			TV	2		
	財政と現代の経済社会('19)(諸富 徹)			TV	2		
	災害社会学('20)(金菱 清)			TV	2		
	金融と社会('20)(野間 敏克)			TV	2		
	大学マネジメント論('20)(小方 直幸)			R	2		
	社会科学で綴る伝記('25)(松原 隆一郎)			OL	1		
	環境と持続可能な経済発展('24)(坂田 裕輔)			R	2		
	市民生活と裁判('22)(川島 清嘉、川島 志保)			TV	2		
	刑法と生命('21)(和田 俊憲)			R	2		
	民法('22)(武川 幸嗣)			R	2		
	行政法('22)(高橋 信行)			R	2		
	人生100年時代の家族と法('23)(本山 敦、岩井 勝弘)			TV	2		
	西洋政治思想の文脈('25)(木村 俊道)			R	2		
国際法('25)(酒井 啓亘)			R	2			
著作権法('22)(作花 文雄)			R	2			

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位	
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)				
社会と産業コース	専門科目	雇用社会と法('21) (國武 英生)	TV	2	
		全体主義と新自由主義のあいだ('23) (山岡 龍一)	OL	2	
		日本政治外交史('25) (五百旗頭 薫、奈良岡 聰智)	TV	2	
		現代の国際政治('22) (白鳥 潤一郎、高橋 和夫)	TV	2	
		ヨーロッパ政治史('24) (中山 洋平、水島 治郎)	R	2	
		新興アジアの政治と経済('24) (高木 佑輔、伊藤 亜聖)	R	2	
		行政学講説('24) (金井 利之)	R	2	
		現代アメリカの政治と社会('24) (渡辺 靖)	TV	2	
		マーケティング('25) (安藤 和代、石井 裕明)	TV	2	
		企業経営の国際展開('25) (原田 順子、洞口 治夫)	R	2	
		管理会計('22) (齋藤 正章)	R	2	
		簿記入門('22) (齋藤 正章)	R	2	
		ファイナンス入門('23) (齋藤 正章、阿部 圭司)	TV	2	
		経営情報学入門('23) (岸 真理子、佐藤 亮)	TV	2	
		現代の内部監査('22) (齋藤 正章、蟹江 章)	TV	2	
		フードシステムと日本農業('22) (新山 陽子)	R	2	
		SDGs下のアジア産業論('23) (古橋 元)	R	2	
		サプライチェーン・マネジメント('25) (松井 美樹、佐藤 亮※、開沼 泰隆※、富田 純一※)	OL	2	
		NPO・NGOの世界('25) (大橋 正明、利根川 佳子)	R	2	
		サービスサイエンス('23) (岡田 幸彦、原 辰徳)	R	2	
		イノベーション・マネジメント('23) (伊藤 宗彦)	R	2	
		会計学('24) (川村 義則)	TV	2	
		官民の人的資源論('24) (原田 順子、今井 由紀子※、稲継 裕昭※)	OL	1	
		これからの住まいと建築('25) (堀部 安嗣)	TV	2	
		環境を可視化する技術と応用('23) (中村 恭志、浅輪 貴史)	TV	2	
		緑地環境の計画('21) (宮城 俊作)	OL	2	
		コミュニティと教育('24) 【心理と教育コースと共用】 (仲田 康一、大木 真徳)	TV	2	
		コミュニティがつなぐ安全・安心('20) 【生活と福祉コースと共用】 (林 春男)	TV	2	
		リスク社会の家族変動('20)【生活と福祉コースと共用】 (田間 泰子)	R	2	
		ライフステージと社会保障('20) 【生活と福祉コースと共用】 (丸谷 浩介)	R	2	
		社会・集団・家族心理学('20)【心理と教育コースと共用】 (森 津太子)	TV	2	
		産業・組織心理学('20)【心理と教育コースと共用】 (山口 裕幸)	R	2	
		日本の近世('20)【人間と文化コースと共用】 (杉森 哲也)	R	2	
		データの分析と知識発見('24)【情報コースと共用】 (秋光 淳生)	TV	2	
		近現代ヨーロッパの歴史('22) 一人の移動から見るー 【人間と文化コースと共用】 (北村 暁夫、中嶋 毅)	TV	2	
		メディア論('22)【情報コースと共用】 (水越 伸)	TV	2	
		持続可能な社会と生活('23)【生活と福祉コースと共用】 (関 正雄)	TV	2	
		社会政策の国際動向と日本の位置('23) 【生活と福祉コースと共用】 (居神 浩)	TV	2	
		ソーシャルシティ('23)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV	2	
		障害者の自立と制度('24)【生活と福祉コースと共用】 (松井 彰彦、川島 聡)	TV	2	
		食と健康('24)【生活と福祉コースと共用】 (朝倉 富子、佐藤 隆一郎)	TV	2	
		学校と法('24)【心理と教育コースと共用】 (坂田 仰)	R	2	
		アメリカ史:世界史の中で考える('24) 【人間と文化コースと共用】 (小野沢 透、肥後本 芳男)	TV	2	
		原典で読む日本の思想('24)【人間と文化コースと共用】 (頼住 光子)	R	2	
		西アジアの歴史('24)【人間と文化コースと共用】 (林 佳世子)	R	2	
		フィールドワークと民族誌('24)【人間と文化コースと共用】 (大村 敬一、中空 萌)	TV	2	
		食の安全('25)【生活と福祉コースと共用】 (朝倉 富子、関崎 勉)	TV	2	
		人間・環境情報とDX('25)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、片桐 祥雅)	TV	2	
		現代のキャリアコンサルティング('25)【心理と教育コースと共用】 (金井 篤子、原田 順子※、中井 智子※、岡崎 淳一※、深谷 潤一※、高綱 睦美※、石丸 昌彦※)	OL	1	
	小 計		67科目	131単位	
	総合科目	海からみた産業と日本('22) (原田 順子、篠原 正治)	R	2	
		エネルギーと社会('19) (迫田 章義、堤 敦司)	TV	2	
		開発経済学:アジア社会の変容('24) (大野 昭彦、藤田 幸一※、加治佐 敬※)	OL	2	

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目

TV※:インターネット配信限定で視聴する科目

区分	2025年度 開設科目			メディア	単位	
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)					
社会と産業コース	総合科目	世界の中の日本外交(‘21) (白鳥 潤一郎、高橋 和夫)			TV	2
		環境と社会(‘21) (大塚 直)			R	2
		空間と政治(‘22) (原 武史)			TV	2
		住まいの環境論(‘23) (田中 稲子)			TV	2
		時間を究める(‘23)【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)			OL	1
		地域生活を支える社会福祉と法(‘24) 【生活と福祉コースと共用】 (平部 康子、木村 茂喜)			R	2
		情報社会と国際ボランティア活動(‘24)【情報コースと共用】 (山田 恒夫)			TV	2
		レジリエンスの科学(‘24)【生活と福祉コースと共用】 (奈良 由美子、鈴木 康弘)			TV	2
		小 計	11科目	21単位		
	導入科目	哲学・思想を今考える(‘23)－歴史の中で－ (魚住 孝至)			R	2
西洋哲学の根源(‘22) (納富 信留)			R	2		
歴史のなかの人間(‘22) (近藤 成一、杉森 哲也)			TV	2		
日本近現代史(‘21) (季武 嘉也)			R	2		
『枕草子』の世界(‘24) (島内 裕子)			R	2		
日本文学と和歌(‘21) (渡部 泰明)			R	2		
世界文学への招待(‘22) (野崎 敏、阿部 公彦)			TV	2		
日本語学入門(‘20) (滝浦 真人)			TV	2		
日本語教育学入門(‘24) (伊東 祐郎、滝浦 真人)			TV※	2		
多文化共生のコミュニケーション(‘24) (大橋 理枝、根橋 玲子)			R	2		
人文地理学からみる世界(‘22) (佐藤 廉也、宮澤 仁)			TV	2		
総合人類学としてのヒト学(‘18) (高倉 浩樹)			R	2		
博物館概論(‘23) (鶴見 英成)			TV	2		
政治学入門(‘22)【社会と産業コースと共用】 (山岡 龍一、待鳥 聡史)			R	2		
心理学概論(‘24)【心理と教育コースと共用】 (森 津太子、向田 久美子)			TV	2		
宮沢賢治と宇宙(‘24)【自然と環境コースと共用】 (谷口 義明、大森 聡一)			TV	2		
小 計	16科目	32単位				
人間と文化コース	専門科目	文学・芸術・武道にみる日本文化(‘19) (魚住 孝至)			TV	2
		原典で読む日本の思想(‘24) (頼住 光子)			R	2
		原初から／への思索(‘22)－西田幾多郎とハイデッガー－ (秋富 克哉)			R	2
		現代に生きる現象学(‘23)－意味・身体・ケア－ (榎原 哲也、本郷 均)			R	2
		英米哲学の挑戦(‘23)－文学と懐疑－ (勢力 尚雅、古田 徹也)			R	2
		西洋の美学・美術史(‘24) (小田部 胤久、宮下 規久朗)			TV	2
		日本美術史の近代とその外部(‘18) (稲賀 繁美)			TV	2
		西洋音楽史(‘21) (津上 英輔、赤塚 健太郎)			R	2
		舞台芸術の魅力(‘17) (青山 昌文)			TV	2
		映画芸術への招待(‘25) (野崎 敏、宮本 陽一郎)			TV	2
		古代中世の日本(‘23) (近藤 成一、坂上 康俊)			TV	2
		日本の近世(‘20) (杉森 哲也)			R	2
		韓国朝鮮の歴史と文化(‘21) (須川 英徳(2023年3月ご逝去)、三ツ井 崇)			R	2
		中国と東部ユーラシアの歴史(‘20) (佐川 英治、杉山 清彦)			TV	2
		西アジアの歴史(‘24) (林 佳世子)			R	2
		都市から見るヨーロッパ史(‘21) (河原 温、池上 俊一)			TV	2
		近現代ヨーロッパの歴史(‘22)－人の移動から見る－ (北村 暁夫、中嶋 毅)			TV	2
		アメリカ史:世界史の中で考える(‘24) (小野沢 透、肥後本 芳男)			TV	2
	樋口一葉の世界(‘23) (島内 裕子)			R	2	
	『方丈記』と『徒然草』(‘18) (島内 裕子)			TV	2	
	文学批評への招待(‘18) (丹治 愛、山田 広昭)			R	2	
	世界文学の古典を読む(‘20) (村松 真理子、横山 安由美)			R	2	
	ヨーロッパ文学の読み方－近代篇(‘19) (沼野 充義、野崎 敏)			R	2	
	「日本語らしさ」とは何か(‘25) (滝浦 真人)			OL	2	
	言語研究法(‘19) (滝浦 真人)			OL	2	
	フィールドワークと民族誌(‘24) (大村 敬一、中空 萌)			TV	2	
	「人新世」時代の文化人類学(‘20) (大村 敬一、湖中 真哉)			TV	2	
	博物館教育論(‘22) (大高 幸、寺島 洋子)			R	2	
	博物館資料論(‘25) (折茂 克哉)			OL	2	
	博物館資料保存論(‘25) (日高 真吾)			TV	2	
	博物館展示論(‘25) (鶴見 英成)			TV	2	
	博物館情報・メディア論(‘25) (鶴見 英成、近藤 智嗣)			TV	2	

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位	
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)				
人間と文化コース	専門科目	博物館経営論('23) (佐々木 亨、今村 信隆)	R	2	
		生涯学習を考える('17)【心理と教育コースと共用】 (岩永 雅也、岩崎 久美子)	OL	2	
		日本の文化と教育('23)【心理と教育コースと共用】 (矢口 徹也、辻 智子)	R	2	
		全体主義と新自由主義のあいだ('23) 【社会と産業コースと共用】 (山岡 龍一)	OL	2	
		西洋政治思想の文脈('25)【社会と産業コースと共用】 (木村 俊道)	R	2	
		日本政治外交史('25)【社会と産業コースと共用】 (五百旗頭 薫、奈良岡 聡智)	TV	2	
		新興アジアの政治と経済('24) 【社会と産業コースと共用】 (高木 佑輔、伊藤 亜聖)	R	2	
		ヨーロッパ政治史('24)【社会と産業コースと共用】 (中山 洋平、水島 治郎)	R	2	
		現代の国際政治('22)【社会と産業コースと共用】 (白鳥 潤一郎、高橋 和夫)	TV	2	
		メディア論('22)【情報コースと共用】 (水越 伸)	TV	2	
		世界の学校('24)【心理と教育コースと共用】 (園山 大祐、辻野 けんま)	R	2	
		現代アメリカの政治と社会('24)【社会と産業コースと共用】 (渡辺 靖)	TV	2	
		記号論理学('24)【情報コースと共用】 (加藤 浩、辰己 丈夫)	TV※	2	
		社会科学で綴る伝記('25)【社会と産業コースと共用】 (松原 隆一郎)	OL	1	
	数学の歴史('25)【自然と環境コースと共用】 (三村 太郎)	TV	2		
	小 計	47科目	93単位		
	総合科目	時間を究める('23) (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)	OL	1	
		色を探究する('23)【心理と教育コースと共用】 (佐藤 仁美、二河 成男)	TV	2	
	小 計	2科目	3単位		
導入科目	初歩からの情報科学('25) (辰己 丈夫、高岡 詠子)	TV	2		
	表計算プログラミングの基礎('21)－業務効率化をめざして－ (辻 靖彦)	OL	1		
	表計算プログラミングの活用('25)－体系的・実践的な理解へ－ (辻 靖彦)	OL	1		
	プログラミング入門Python('24) (辰己 丈夫)	OL	1		
	情報理論とデジタル表現('19) (加藤 浩、浅井 紀久夫)	TV	2		
	Rで学ぶ確率統計('21) (秋光 淳生)	OL	1		
	ゲーム理論入門('25) (大西 仁)	OL	1		
	日常生活のデジタルメディア('22) (青木 久美子、高橋 秀明)	TV	2		
	情報ネットワーク('18) (芝崎 順司)	OL	2		
	情報と法('23) (児玉 晴男)	R	2		
	社会統計学入門('24)【社会と産業コースと共用】 (林 拓也)	R	2		
	生活環境情報の表現－GIS入門('20) 【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、瀬戸 寿一※)	OL	1		
	入門微分積分('22)【自然と環境コースと共用】 (石崎 克也)	TV	2		
	共生のための技術者倫理('24)【社会と産業コースと共用】 (金光 秀和)	OL	2		
小 計	14科目	22単位			
情報コース	データ構造の基礎('24) (鈴木 一史)	TV	2		
	生活を支えるコンピュータ技術('25) (葉田 善章)	TV	2		
	コンピュータとソフトウェア('18) (辰己 丈夫、中谷 多哉子)	TV	2		
	C言語基礎演習('20) (森本 容介)	OL	1		
	続・C言語基礎演習('23) (森本 容介)	OL	1		
	Webのしくみと応用('25) (森本 容介、伊藤 一成)	TV	2		
	問題解決の数理('21) (大西 仁)	TV※	2		
	データの分析と知識発見('24) (秋光 淳生)	TV	2		
	記号論理学('24) (加藤 浩、辰己 丈夫)	TV※	2		
	数値の処理と数値解析('22) (櫻井 鉄也)	R	2		
	数理最適化法演習('20) (大西 仁)	OL	1		
	コンピュータグラフィックス('22) (浅井 紀久夫)	OL	2		
	映像コンテンツの制作技術('25) (近藤 智嗣)	TV	2		
	デジタル情報の処理と認識('22) (柳沼 良知)	OL	2		
専門科目	自然言語処理('23) (黒橋 禎夫)	R	2		
	情報デザイン('21) (伏見 清香、茂登山 清文(2022年8月ご逝去))	TV	2		
	コンピュータビジョン('22)－画像処理による情報抽出の技法－ (浅井 紀久夫)	OL	2		
	画像処理('24) (柳沼 良知)	R	2		
	教育のためのICT活用('22) (中川 一史、苑 復傑)	TV	2		
	ユーザ調査法('20) (高橋 秀明)	TV	2		

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目
TV※:インターネット配信限定で視聴する科目

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位	
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)				
情報コース	専門科目	情報社会のユニバーサルデザイン('19) (広瀬 洋子、関根 千佳)	TV	2	
		メディアと知的財産('16) (児玉 晴男)	OL	2	
		メディア論('22) (水越 伸)	TV	2	
		情報化社会におけるメディア教育('24) (苑 復傑、中川 一史)	R	2	
		小学校プログラミング教育概論('21) (中川 一史、小林 祐紀※)	OL	1	
		ヒューマンインタフェース('23) (増井 俊之、小池 英樹)	TV※	2	
		身近なネットワークサービス('20) (葉田 善章)	TV	2	
		情報セキュリティ概論('22) (山田 恒夫、辰己 丈夫)	TV	2	
		データベース('23) (辻 靖彦、芝崎 順司)	TV	2	
		情報セキュリティの理論と基盤('23) (菊池 浩明、上原 哲太郎※)	OL	1	
		情報セキュリティの現状と展望('23) (上原 哲太郎、菊池 浩明※)	OL	1	
		アルゴリズムとプログラミング('20) (鈴木 一史)	R	2	
		コンピュータ通信概論('24) (葉田 善章)	R	2	
		解析入門('24)【自然と環境コースと共用】 (河添 健)	TV※	2	
		統計学('19)【自然と環境コースと共用】 (藤井 良宜)	R	2	
		教育調査の基礎('20)【心理と教育コースと共用】 (藤田 武志、西島 央)	TV	2	
		心理学統計法('21)【心理と教育コースと共用】 (清水 裕士)	TV	2	
		著作権法('22)【社会と産業コースと共用】 (作花 文雄)	R	2	
		経営情報学入門('23)【社会と産業コースと共用】 (岸 眞理子、佐藤 亮)	TV	2	
		ソーシャルシティ('23)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、鈴木 淳一)	TV	2	
	環境を可視化する技術と応用('23) 【社会と産業コースと共用】 (中村 恭志、浅輪 貴史)	TV	2		
	人間・環境情報とDX('25)【生活と福祉コースと共用】 (川原 靖弘、片桐 祥雅)	TV	2		
	サプライチェーン・マネジメント('25)【社会と産業コースと共用】 (松井 美樹、佐藤 亮※、開沼 泰隆※、富田 純一※)	OL	2		
	博物館情報・メディア論('25)【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成、近藤 智嗣)	TV	2		
小 計		44科目	82単位		
総合科目	情報化社会と国際ボランティア('24) (山田 恒夫)	TV	2		
	AIシステムと人・社会との関係('20) (山口 高平、中谷 多哉子)	R	2		
	情報技術が拓く人間理解('20) (仁科 エミ、辰己 丈夫)	TV	2		
小 計		3科目	6単位		
自然と環境コース	導入科目	初歩からの生物学('24) (二河 成男、加藤 和弘)	TV	2	
		生物環境の科学('25) (加藤 和弘)	TV	2	
		初歩からの物理('22) (岸根 順一郎、松井 哲男(2025年1月ご逝去))	TV	2	
		初歩からの化学('18) (安池 智一、鈴木 啓介)	TV	2	
		物理の世界('24) (岸根 順一郎、清水 明)	TV	2	
		かたちの化学・化学の考え方入門('23) (橋本 健朗)	TV	2	
		現代を生きるための化学('22) (橋本 健朗)	R	2	
		物理と化学のための数学('21) (橋本 健朗、松井 哲男※(2025年1月ご逝去)、岸根 順一郎※、安池 智一※)	OL	1	
		分子の変化からみた世界('23) (安池 智一)	TV	2	
		宮沢賢治と宇宙('24) (谷口 義明、大森 聡一)	TV	2	
		ダイナミックな地球('21) (大森 聡一)	TV	2	
		入門線型代数('19) (隈部 正博)	TV	2	
		入門微分積分('22) (石崎 克也)	TV	2	
		演習微分積分('19) (石崎 克也)	OL	1	
		感染症と生体防御('24)【生活と福祉コースと共用】 (田城 孝雄、北村 聖)	R	2	
		人体の構造と機能('22)ー人体の構造と機能及び疾病Aー【生活と福祉コースと共用】 (坂井 建雄、岡田 隆夫)	TV	2	
		博物館概論('23)【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成)	TV	2	
		プログラミング入門Python('24)【情報コースと共用】 (辰己 丈夫)	OL	1	
		疾病の回復を促進する薬('25)【生活と福祉コースと共用】 (櫻井 隆、服部 信孝)	TV	2	
		表計算プログラミングの活用('25)ー体系的・実践的な理解へー【情報コースと共用】 (辻 靖彦)	OL	1	
	ゲーム理論入門('25)【情報コースと共用】 (大西 仁)	OL	1		
	小 計		21科目	37単位	
	専門科目	生命分子と細胞の科学('19) (二河 成男)	TV	2	
		生物の進化と多様化の科学('17) (二河 成男)	TV	2	
植物の科学('21) (塚谷 裕一、荒木 崇)		TV	2		

テレビ科目169・ラジオ科目119・オンライン授業科目53
「科目名」欄の「(〇〇)」は科目が開設された年度の下2桁です。

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位	
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)				
自然と環境コース	専門科目	感覚と応答の生物学('23) (二河 成男)	TV	2	
		力と運動の物理('19) (岸根 順一郎、松井 哲男(2025年1月ご逝去))	TV	2	
		場と時間空間の物理('20) (松井 哲男(2025年1月ご逝去)、岸根 順一郎)	TV	2	
		量子物理学('21) (松井 哲男(2025年1月ご逝去)、岸根 順一郎)	TV	2	
		量子化学('19) (橋本 健朗、安池 智一)	TV	2	
		エントロピーからはじめる熱力学('20) (安池 智一、秋山 良)	R	2	
		物理演習('16) (岸根 順一郎、齋藤 雅子)	OL	1	
		力と運動の物理演習('21) (岸根 順一郎、松井 哲男※(2025年1月ご逝去))	OL	1	
		量子物理演習('24) (岸根 順一郎、御領 潤※)	OL	2	
		宇宙の誕生と進化('19) (谷口 義明)	TV	2	
		太陽と太陽系の科学('18) (谷口 義明)	TV	2	
		地球と環境の探究('25) (大森 聡一)	OL	2	
		はじめての気象学('21) (田中 博、伊賀 啓太)	TV	2	
		正多面体と素数('21) (橋本 義武)	TV	2	
		微分方程式('23) (石崎 克也)	TV※	2	
		統計学('19) (藤井 良宜)	R	2	
		数学の歴史('25) (三村 太郎)	TV	2	
		線型代数学('17) (隈部 正博)	R	2	
		解析入門('24) (河添 健)	TV※	2	
		食と健康('24)【生活と福祉コースと共用】 (朝倉 富子、佐藤 隆一郎)	TV	2	
		データ構造の基礎('24)【情報コースと共用】 (鈴木 一史)	TV	2	
		コンピュータとソフトウェア('18) 【情報コースと共用】 (辰己 丈夫、中谷 多哉子)	TV	2	
		錯覚の科学('20)【心理と教育コースと共用】 (菊池 聡)	TV	2	
		数値の処理と数値解析('22)【情報コースと共用】 (櫻井 鉄也)	R	2	
		環境を可視化する技術と応用('23) 【社会と産業コースと共用】 (中村 恭志、浅輪 貴史)	TV	2	
		データベース('23)【情報コースと共用】 (辻 靖彦、芝崎 順司)	TV	2	
		環境と持続可能な経済発展('24) 【社会と産業コースと共用】 (坂田 裕輔)	R	2	
		記号論理学('24)【情報コースと共用】 (加藤 浩、辰己 丈夫)	TV※	2	
		データの分析と知識発見('24)【情報コースと共用】 (秋光 淳生)	TV	2	
		画像処理('24)【情報コースと共用】 (柳沼 良知)	R	2	
食の安全('25)【生活と福祉コースと共用】 (朝倉 富子、関崎 勉)	TV	2			
博物館展示論('25)【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成)	TV	2			
博物館情報・メディア論('25)【人間と文化コースと共用】 (鶴見 英成、近藤 智嗣)	TV	2			
博物館資料保存論('25)【人間と文化コースと共用】 (日高 真吾)	TV	2			
博物館資料論('25)【人間と文化コースと共用】 (折茂 克哉)	OL	2			
小 計		38科目	74単位		
総合科目	暮らしに役立つバイオサイエンス('21) (岩橋 均、重松 亨)	TV	2		
	ジオストーリー('25) (大森 聡一、宮下 敦)	TV	2		
	エネルギーと社会('19)【社会と産業コースと共用】 (迫田 章義、堤 敦司)	TV	2		
	情報技術が拓く人間理解('20)【情報コースと共用】 (仁科 エミ、辰己 丈夫)	TV	2		
	時間を究める('23)【人間と文化コースと共用】 (大橋 理枝、佐藤 仁美※、岸根 順一郎※)	OL	1		
	色を探究する('23)【心理と教育コースと共用】 (佐藤 仁美、二河 成男)	TV	2		
	レジリエンスの科学('24) 【生活と福祉コースと共用】 (奈良 由美子、鈴木 康弘)	TV	2		
	小 計		7科目	13単位	
資格取得等に資する科目	学校経営と学校図書館('23) (野口 武悟、前田 稔)	TV※	2		
	学校図書館メディアの構成('22) (米谷 優子、吞海 沙織)	TV※	2		
	学習指導と学校図書館('22) (塩谷 京子、鎌田 和宏)	TV	2		
	読書と豊かな人間性('20) (米谷 茂則、岩崎 れい)	R	2		
	情報メディアの活用('22) (高鍛 裕樹、田嶋 知宏)	TV	2		
	小 計		5科目	10単位	
	成人看護学('24) (林 直子、佐藤 まゆみ)	R	2		
	老年看護学('25) (井出 訓)	R	2		
	小児看護学('22) (江本 リナ)	TV	2		
	母性看護学('20) (齋藤 いずみ)	TV	2		
精神看護学('25) (山田 典子、桐山 啓一郎)	TV	2			
小 計		5科目	10単位		

研究科・専攻・プログラム

放送大学大学院修士課程は、1研究科(文化科学研究科)、1専攻(文化科学専攻)の下に、7つのプログラムを設けています。

研究科	専攻	プログラム名	教育目標
文化科学研究科	文化科学専攻	生活健康科学プログラム	生活、健康、福祉の領域における専門的かつ総合的な知識を持ち、生活環境をよりよい方向に導くための方法を習得し、人々の生活の質の向上に資するための施策に積極的に関わる能力を有する指導的人材の養成
		人間発達科学プログラム	人間の心理的及び社会的な発達のメカニズムを理解し、現代の学校や家族あるいは地域社会が直面する教育課題を科学的・実証的に把握した上で、そうした課題に積極的に取り組み、多様な学習ニーズに対応していくことができる指導的人材の養成
		臨床心理学プログラム	様々な分野で深刻さを増す心理的な問題に対応できる臨床心理士(高度専門職業人)の養成および再研修(※)
		社会経営科学プログラム	社会の構造と変容について多様な見地から解明し、様々な社会領域のガバナンスに必要とされる高度な知識と技術を備えた人材の養成
		人文学プログラム	人文学研究の諸分野において、蓄積されてきた知的資産を基礎にして、多様で洗練された方法論を身につけて資料の調査・解読・分析を行い、総合的な知見と創造性をもって「知」の発展に貢献できる人材の養成
		情報学プログラム	情報及びコンピュータに関する基礎概念や応用知識をもとに、社会における様々な現象の本質を見極める能力を持ち、問題解決にむけて、その知識を実践的に活用していくことのできる人材の養成
		自然環境科学プログラム	科学技術が自然環境や人間社会に大きな影響を与える現代にあって、科学的認識に基づいて問題を把握し、その解決を指向する実践能力と、客観的な評価能力を身につけた人材の養成

※臨床心理学プログラム…公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による第2種指定大学院

教育の基本方針

■ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

必要な修業年限を満たした上で、次に掲げる学修目標に到達し、修士論文等の審査及び試験に合格して所定の単位を修得した学生に、修士(学術)の学位を授与する。

1. 専攻領域における研究能力又は、研究能力に加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を身につけている(※)。
2. 専攻する専門領域及びその周辺分野、さらに他の分野における専門知識や技能を修得することによって涵養される深く広い総合的教養を身につけている。
3. 複雑な問題状況を把握し、そこで発見した課題を解決する高度な能力を身につけている。
4. 自分の意見を効果的に正しく表現できる能力と、建設的に合意形成を行う能力を身につけている。
5. あらゆる場面において、倫理観をもち、責任ある活動を管理する能力を身につけている。
6. 国際的な視野、文化の多様性への深い理解、自然環境への配慮のもとに、社会に貢献する実行力を身につけている。
7. 学術的な研究遂行能力を基盤とし、高度な職業的知識や技能に基づいて総合的に判断することができ、様々な課題を自らの能動的探究力で解決することができる。

(※各プログラムに関連した分野の社会における顕在・潜在ニーズを踏まえた学生が身につける能力・知識等については、以下のとおり。)

生活健康科学プログラム	生活、健康、福祉の領域における専門的かつ総合的な知識をもち、生活環境をよりよい方向に導くための方法。
人間発達科学プログラム	人間の心理的及び社会的な発達のメカニズムを理解し、現代の学校や家族あるいは地域社会が直面する教育課題を科学的・実証的に把握できる能力。
臨床心理学プログラム	教育、医療・保健、福祉、司法、労働・産業等様々な領域で、広い視野をもちながら、臨床心理学に関する知識、心理面接技法、心理査定技法、地域援助法を用いて実践的に活動する能力。
社会経営科学プログラム	社会の構造と変容に関する基礎概念や応用知識をもとに社会における様々な現象を多様な見地から解明する能力を有し、様々な社会領域のガバナンスに必要とされる高度な知識と技術を実践的に活用する能力。

人文学プログラム	人文学に関する基礎概念や専門的知識をもとに、現代社会における様々な現象の本質を見極める能力及び人文学の様々な専攻領域に加えて、他の分野における専門知識や方法論の習得による総合的な知見と創造性をもって知の発展に実践的に貢献できる能力。
情報学プログラム	情報学に関する高度に専門的な知識と技術を習得し、社会に貢献する力。論理的思考・計算論的思考。実際的な問題解決に必要なとなる人文・社会科学、工学、自然科学に関する広範で深い知識。
自然環境科学プログラム	科学的認識に基づいて問題を把握・理解し、その解決を指向する科学的実践と客観的評価ができる能力及び高度な総合的教養。

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

【教育課程編成】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

- 放送やオンラインによる授業科目及び対面やWeb 会議システムを活用した研究指導等をととして、高度な総合的教養に裏付けられた専門的学識及び知的技能(※)の育成をはかる。
- 専攻する専門領域について、学士課程の教育課程との接続を念頭に置いた、同分野における発展的な科目を配置する。
- 専攻する専門領域の周辺科目や他プログラムの推奨科目及び関連科目において、深く広い教養を涵養する。
- 論文執筆の考え方や方法、学術的研究手法等を、それぞれの研究分野の要請を踏まえた実践的なコースワークを通じて段階的に習得するため、研究演習科目を設置する。
- 前項2～4の科目の学修成果を生かしつつ、修士論文等を段階的・計画的に作成するための研究指導を行う。

【学修成果の評価方法】

授業科目・研究指導科目それぞれの特性に応じて評価基準を設け、単位認定試験、または形成的評価や達成度評価に基づき成績評価を行う。

修士論文は、修士論文評価基準に基づき、提出された論文と口頭試問によって評価する。

(※各プログラムにおける専門的学識及び知的技能については、以下のとおり。)

生活健康科学プログラム	生活、健康、福祉の領域における専門的かつ総合的な知識をもち、生活環境をよりよい方向に導くための方法を習得し、人々の生活の質の向上に資するための施策に積極的に関わる能力。
人間発達科学プログラム	人間の心理的及び社会的な発達のメカニズムを理解し、教育の社会的・文化的・制度的条件や歴史的背景、心身の機能や構造の発達の変化について、科学的・実証的に把握する能力。
臨床心理学プログラム	臨床心理士養成カリキュラムに定められる講義、演習、実習の科目群の履修を中心としつつ、教育、医療・保健、福祉、司法、労働・産業等様々な領域で、広い視野をもちながら、実践的に活動できるための、臨床心理学に関する知識、心理面接技法、心理査定技法、地域援助法、研究法の修得。その際、対面での実習・演習、臨床心理実践の現場での実習、対面での研究指導によって、実際に他者と共存する場での臨床心理学的な振る舞いや感覚、思考法を体験的に習得。
社会経営科学プログラム	様々な社会領域のガバナンスに必要とされる高度な知識と技術をもち、社会の構造と変容に関する基礎概念や応用知識をもとに社会における様々な現象を多様な見地から解明する能力。
人文学プログラム	人文学に関する基礎概念や専門的知識をもとに、現代社会における様々な現象の本質を見極める能力及び人文学の様々な専攻領域に加えて、他の分野における専門知識や方法論の習得による総合的な知見と創造性をもって、知の発展に貢献できる能力。
情報学プログラム	情報の数理的側面・処理・機構・技術と、情報と人間・社会との関わりについての専門的な知識と技能。
自然環境科学プログラム	科学的認識に基づいて問題を把握・理解し、その解決を指向する科学的実践と客観的評価の能力。

■ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育理念、教育研究上の目的等を踏まえて、生涯学習の実践をととして高度な総合的教養に裏付けられた専門的学識及び知的技能を修得し、文化の進展並びに地域社会に貢献できる人材を養成するため、以下のような学生を求める。

- 地域社会・職場等における豊かな経験や専門領域における知識(※)をもつ。
- 実際的な問題解決に必要な、専門領域の周辺分野に関する知識をもつ。
- 自ら課題を発見し問題を解決する能力をもつ。
- 自分の意見を論理的に表現できる能力をもつ。
- 学問及びその実践への応用に対する意欲と鋭い問題意識をもつ。
- 生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていく意欲をもつ。
- 自分自身で課題を発見し、調査・検証をし、研究論文を執筆する能力をもつ。

(※専門領域における知識等については、以下のとおり。)

生活健康科学プログラム	生活科学、健康科学、社会福祉学等の領域において研究を行うために必要な専門的知識と、英語文献の読解力。生活の現実や健康の問題、それらに関わる専門職のあり方に常に関心を向けながら、学問・研究との接点を探ろうとする姿勢。
人間発達科学プログラム	心理と教育に関する研究を行うために必要な専門的知識。
臨床心理学プログラム	臨床心理学に関して、心理臨床の実際の中から「臨床の知」を紡ぎだすための専門的知識。心理臨床現場で専門的な心理職として仕事をしたいと望む確たる内的必然性と動機付け。既に心理臨床現場で経験を積んでいる場合は、心理職としてのレベルアップを目指し、心理臨床経験を学問として深めたいと希望する意欲。
社会経営科学プログラム	社会と産業のしくみについての専門的及び学際的な知識や、持続可能で豊かな社会を生きるための幅広い技術と、英語文献の読解力。
人文学プログラム	思想・芸術・歴史・文学をはじめ、人間の生み出した文化のありかたについての様々な学問領域における専門的知識と、英語文献の読解力。
情報学プログラム	情報学に関する知識と技術。論理的思考・計算論的思考力。実際的な問題解決に必要となる人文・社会科学、工学、自然科学に関する知識。
自然環境科学プログラム	人間活動と自然との関わり合いや持続可能な未来に向けた実践と判断に関する専門的知識。

学生の種類及び学習システム

放送大学大学院修士課程の教育は、放送授業と印刷教材を中心とした自宅学習によって行われます。学期の途中に「通信指導」を受けて合格した方は「単位認定試験」を受けることができます。

また、2016年度からは、全ての学習をインターネット上で行う「オンライン授業」を開講しています。

修士全科生における「研究指導」は、対面による直接指導及びメディア（インターネット、Web会議システムなど）により行います。

■ 修士全科生 ～修士課程を修了して学位「修士(学術)」の取得を目指す学生～

- ・ 出願資格があるのは、大学を卒業した方（卒業見込みを含む）、又は本学大学院が行う出願資格事前審査において大学を卒業した方と同等以上の学力があると認められた方です。
- ・ 入学者選考を実施します。
- ・ 入学の時期は毎年1回、4月です。
- ・ 科目登録は1学期間（6カ月）ごとに行う必要があります。
- ・ 修士全科生は、出願時に7つのプログラムから選択した1つのプログラムに所属して学習・研究を進めていきます。

【入学者選考】

- ・ 第1次選考（筆記試験）
プログラムごとに筆記試験を行い、第1次選考の合格者を決定します。
- ・ 第2次選考（面接試問）
第1次選考の合格者に対して、プログラムごとに、出願の際に提出された研究計画書、志望理由書等をもとに面接試問を行います。最終合格者は、プログラムごとに、筆記試験及び面接試問の実施結果に基づき決定します。

【研究演習・研究指導】

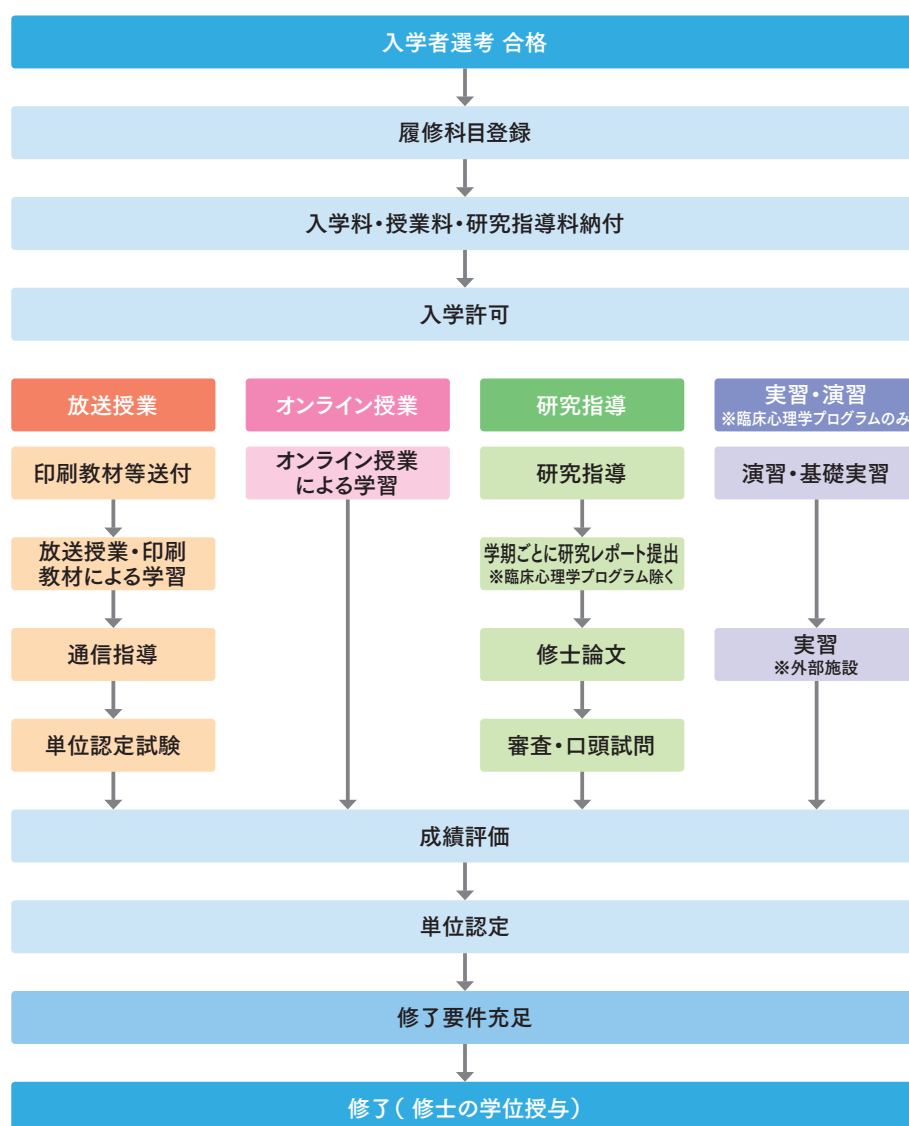
- ・ 出願の際に提出された研究計画書及び入学者選考の結果などを総合的に勘案し、本学が最適と判断した教員がそれぞれの学生を受け持つ研究指導担当教員となります。
- ・ 第1年次においては、研究レポートの添削指導の他、修士論文の研究テーマ及び研究計画の具体化のための指導を行います。
- ・ 第2年次においては、修士論文を作成するための指導を行います。
- ・ 研究指導の方法は、対面による直接指導及びメディア（インターネット、Web会議システムなど）により行います。



【修士課程の修了】

- ・ 修了するためには2年以上在学し(在学年限は5年)、研究指導8単位及び所属プログラムの放送授業、又はオンライン授業科目の修得を含めて、30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び口頭試問に合格することが必要です。ただし、臨床心理学プログラムにおいては、必修科目・選択必修科目があり、34単位以上を修得する必要があります。

▶ 修士全科生



■ 臨床心理学プログラムの特徴

【臨床心理学プログラムの必修科目(2025年度入学生)】

- ・ 臨床心理学プログラム所属の修士全科生については、放送授業(「臨床心理学特論('23)」、「臨床心理面接特論Ⅰ('25)」 「臨床心理面接特論Ⅱ('25)」)、面接授業(実習・演習)、及び研究演習・研究指導などが必修となっています。
なお、実習、及び演習科目については、臨床心理学プログラム所属の修士全科生以外は履修できません。
- ・ 「臨床心理実習」の学外実習施設については、できるだけ履修者の居住地に近い施設を確保するよう努力しますが、近隣都道府県の施設に通っていただく場合もあります。
- ・ 実習・演習を受ける際の旅費などの経費は自己負担となります。

年次	科目名	単位数	時期	場所
第1年次	「臨床心理査定演習」	4単位	5月中旬(予定)(4日間程度)	本部
			8月上旬(予定)(3日間程度)	
	「臨床心理基礎実習」	2単位	5月中旬(予定)(2日間程度)	本部
			8月上旬(予定)(3日間程度)	
			2月上旬(予定)(5日間程度)	
第2年次	「臨床心理実習」	2単位	年間90時間程度の実習 例1) 7時間/日×13週 例2) 3時間/週×30週	学外実習施設 ・病院 ・教育相談所 ・児童相談所など
			臨床心理実習・本部面接授業 8月下旬(予定)(3日間程度)	本部

1年次の5月上旬に「オリエンテーション」「臨床心理基礎実習」「臨床心理査定演習」が連続7日間程度、8月上旬～中旬に「臨床心理基礎実習」「臨床心理査定演習」が連続6日間、2月上旬に「臨床心理基礎実習」が連続5日間、さらに2年次8月下旬に「修士論文中間報告」「臨床心理実習・本部面接授業」が連続3日間程度開設され、臨床心理学プログラム所属の修士全科生は全日程参加が必要となります。

【臨床心理士の受験資格取得】

本学大学院は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第2種指定大学院となっています。臨床心理学プログラム所属の修士全科生の方は、所定の単位を修得して修了した後、1年以上の心理臨床実務経験を経て、臨床心理士の受験資格を取得できます。

■ 修士選科生・科目生 ～自分の学習・研究したい科目を選択して、1科目から履修する学生～

【特徴】

- ・入学する年度の初めにおいて満18歳以上であればどなたでも入学でき、入学試験は実施しません。
- ・入学時期は、年に2回、4月と10月です。
- ・在学期間は修士選科生1年間(2学期間)、修士科目生半年間(1学期間)です。
- ・修士選科生は入学した学期の途中で、次の学期の科目登録を行います。
- ・修士全科生と同様の通信指導・単位認定試験により、単位を認定します。修得した単位は、修士全科生として入学した場合、原則として修了要件の単位として認定されます。
- ・アカデミック・スキルズ、研究演習・研究指導及び臨床心理学プログラムの実習・演習は履修できません。
- ・企業などの、職場研修として利用したり、現職教員の方などが上位の免許状を取得するために利用できます。

■ 放送授業

【放送授業による学習】

放送授業は、各学期とも15回(週1回、1回45分)にわたって、BSテレビ又はBSラジオで授業が行われます。

在学生はテレビ科目、ラジオ科目の原則すべてをインターネットでも視聴可能です。

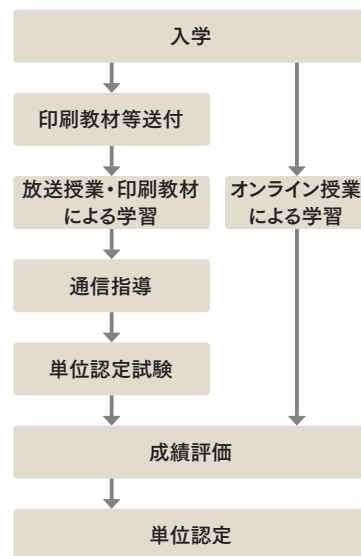
※テレビ科目の中には、インターネット配信限定で視聴する科目があります。

【印刷教材による学習】

放送授業科目には、すべて印刷教材が用意され、放送教材と印刷教材による学習を併せて行うことになります。印刷教材は240頁(A5判)程度で、原則として指定の期日までに授業料を納入いただくと、学期開始前に送付されます。

なお、印刷教材は、放送大学の企画の下に授業科目担当講師が執筆し、一般財団法人放送大学教育振興会が発行しています。この印刷教材は、全国の主な書店でも販売されています。

修士選科生・科目生



【通信指導】

通信指導とは、学期の途中に1回、前半の一定範囲の問題を出題し、その答案を提出して担当教員の指導(添削・講評)を受けることです。なお、通信指導に合格することによって、単位認定試験の受験資格が得られます。

【単位認定試験】

単位認定試験は15週間の放送授業終了後に実施される試験で、合格者には単位の認定を行います。
2022年度からインターネットを通じて自宅等から受験する、Web受験方式で実施しています。Web受験が困難な場合は、学習センターなどで受験することも可能です。
なお、2025年度から大学院科目において本人確認のため、Webカメラを使用しての試験を実施します。

■ オンライン授業

インターネット上で講義を視聴、小テストやディスカッション、レポートなどの課題を科目ごとに決められた期間に提出して学びを進めます。通信指導、単位認定試験は行われず、インターネット上での学習により成績評価が行われます。

学 費

学生種	検定料	入学料	授業料	研究指導料
修士全科生	30,000円	48,000円	1単位当たり 12,000 円	1年間につき96,000円
修士選科生	—	18,000円		—
修士科目生	—	14,000円		—

- (1)放送授業科目は1科目2単位(又は4単位)ですので、1科目当たりの授業料は24,000円(又は48,000円)となります。オンライン授業科目は1科目1単位(又は2単位)ですので、1科目当たりの授業料は12,000円(又は24,000円)となります。
- (2)臨床心理学プログラムの実習・演習の授業料も、1単位当たり12,000円です。(修士全科生のみ)
- (3)研究指導料は2年分(192,000円)を入学時に納入します。修士論文が提出できない場合又は審査・口頭試問の結果不合格になった場合は、以後、研究指導を受けることができますが、別途、研究指導料(1年間につき96,000円)を1年ごとに引き続き納入していただくことになります。(修士全科生のみ)
- (4)在学中に授業料・研究指導料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料・研究指導料が適用されます。
- (5)臨床心理学プログラムの方は、上記の金額に加え、入学後に臨床心理実習費(20,000円)を徴収します。(修士全科生のみ)

【入学料の割引(修士全科生を除く)】

学校・企業などが推薦する20名以上の所属学生や職員の出願書類を取りまとめ、一括して手続きをした場合などには、全員の入学料を割引きます。

また、修士選科生又は修士科目生の学生が、在学期間終了後継続して修士選科生、又は修士科目生に入学する場合にも、入学料が割引きとなります。

【奨学金 その他】

「奨学金の貸与及び給付」

- 修士全科生に対しては、選考の上、日本学生支援機構の奨学金が貸与されます。
- 修士全科生又は修士選科生(4月入学者のみ)に対しては、選考の上、公益財団法人北野生涯教育振興会の奨学金が給付されます。

「勤労学生の所得控除」

- 修士全科生に対しては、年間所得が一定額に満たない場合、勤労学生控除が適用されます。

「国民年金学生納付特例」

- 修士全科生に対しては、前年の所得が一定額に満たない場合、学生納付特例制度が適用されます。

「郵便料金の割引」

- 通信指導や授業内容に関する質問のための郵便料金は、1通100グラムまで15円です。

「学生旅客運賃割引証の発行」

- 修士全科生が自宅から学習センターに通学する場合などに、学生旅客運賃割引証を発行します。

「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」(一般教育訓練給付)

- 修士全科生は生活健康科学プログラム、社会経営科学プログラム、情報学プログラム、修士選科生は社会経営コース、臨床心理コース、修士科目生は社会経営(短期養成)コース、臨床心理(短期養成)コースが対象講座です。

大学院修士課程開設授業科目一覧

2025年度に開設する放送授業科目は50科目(テレビ5科目、ラジオ45科目)、オンライン授業科目は41科目です(研究指導は含まれません)。

この他に臨床心理学プログラム所属の修士全科生のみ履修できる面接授業(実習・演習)を開設しています。

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目

区分	2025年度 開設科目 科目名(主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
生活健康科学プログラム	家族政策研究('21) (下夷 美幸)	R	2
	食健康科学('21)【自然環境科学プログラムと共通】 (佐藤 隆一郎、三浦 豊※、下条 直樹※)	OL	1
	コミュニティアクア('24) (田城 孝雄、大木 幸子※、服部 真治※)	OL	2
	生活リスク論('25) (奈良 由美子)	R	2
	精神医学特論('22)【臨床心理学プログラムと共通】(石丸 昌彦)	R	2
	看護・保健系調査方法論('25) (戸ヶ里 泰典、米倉 佑貴)	R	2
	スポーツ社会学('25) (渡 正)	R	2
	健康・スポーツ科学研究('21) (関根 紀子)	R	2
	福祉政策と人権('22) (金川 めぐみ)	R	2
	社会福祉の探究('24) (山田 知子、川島 聡※)	OL	2
	臨床推論('16) (北村 聖、山脇 正永)	OL	1
	フィジカルアセスメント特論('16) (山内 豊明)	OL	1
	臨床病態生理学特論('17) (小川 真(2019年1月逝去)、東本 恭幸)	OL	1
	疾病・臨床病態概論('17) (小川 薫)	OL	2
	臨床薬理学特論('17) (柳田 俊彦)	OL	1
	特定行為実践特論('17) (石井 邦子、木澤 晃代)	OL	1
	特定行為共通科目統合演習('17) (山内 豊明)	OL	1
	統合臨床病態生理学・疾病概論('19) (東本 恭幸、小川 薫)	OL	2
	統合医療安全・特定行為実践特論('19) (石井 邦子、木澤 晃代、山本 武志)	OL	1
	生活環境情報学基礎演習('18) (川原 靖弘、ロペズ ギョーム)	OL	2
	生活空間情報の表現とGIS('24) (川原 靖弘、山城 興介※、岩見 昌邦※)	OL	1
	アカデミック・スキルズ('25)【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、各プログラム教員※)	OL	1
小 計		22科目	34単位
人間発達科学	道德教育の理念と実践('20) (西野 真由美)	R	2
	海外の教育改革('21) (坂野 慎二、藤田 晃之)	R	2
	カリキュラムの理論と実践('21) (田中 統治、根津 朋実)	R	2
	教育老年学('22) (堀 薫夫)	R	2
	教育行政と学校経営('24) (村上 祐介、勝野 正章)	R	2
	グローバル時代の教育文化('25) ー世界の中で考える日本の教育ー (恒吉 僚子)	R	2
	成人の発達と学習('25) (岩崎 久美子)	R	2
	論文作成のための教育研究('25) (橋本 鉦市、日下田 岳史※、中村 知世※)	OL	1
	学校臨床心理学特論('21)【臨床心理学プログラムと共通】 (倉光 修)	TV	2
	発達心理学特論('21)【臨床心理学プログラムと共通】(荻野 美佐子)	TV	2
	心理・教育統計法特論('21)【臨床心理学プログラムと共通】 (小野寺 孝義)	R	2
	教育心理学特論('24)【臨床心理学プログラムと共通】 (進藤 聡彦、丸山 広人)	R	2
	社会心理学特論('25)【臨床心理学プログラムと共通】(森 津太子)	R	2
	アカデミック・スキルズ('25)【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、各プログラム教員※)	OL	1
小 計		14科目	26単位

区分	2025年度 開設科目 科目名(主任講師名、専門担当講師名※)	メディア	単位
臨床心理学プログラム	臨床心理学特論('23) (橋本 朋広、大山 泰宏)	R	4
	臨床心理面接特論Ⅰ('25)ー心理支援に関する理論と実践ー (丸山 広人、橋本 朋広)	R	2
	臨床心理面接特論Ⅱ('25)ー心理臨床の実際ー (村松 健司、大山 泰宏)	R	2
	臨床心理学研究法特論('23) (石原 宏、川部 哲也)	R	2
	心理・教育統計法特論('21) 【人間発達科学プログラムと共通】 (小野寺 孝義)	R	2
	発達心理学特論('21) 【人間発達科学プログラムと共通】 (荻野 美佐子)	TV	2
	教育心理学特論('24) 【人間発達科学プログラムと共通】 (進藤 聡彦、丸山 広人)	R	2
	社会心理学特論('25) 【人間発達科学プログラムと共通】 (森 津太子)	R	2
	司法矯正・犯罪心理学特論('20) ー司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開ー (橋本 和明)	R	2
	精神医学特論('22) 【生活健康科学プログラムと共通】 (石丸 昌彦)	R	2
	保健医療心理学特論('22)ー保健医療分野における理論と支援の展開ー (小林 真理子)	TV	2
	障害児・障害者心理学特論('19)ー福祉分野に関する理論と支援の展開ー (大六 一志、山中 克夫)	R	2
	学校臨床心理学特論('21) 【人間発達科学プログラムと共通】 (倉光 修)	TV	2
	臨床心理地域援助特論('21) (伊藤 亜矢子)	R	2
小 計		14科目	30単位
社会経営科学プログラム	経済政策('22) (松原 隆一郎)	R	2
	知財制度論('20)【情報学プログラムと共通】(児玉 晴男)	R	2
	公共政策('22) (砂原 庸介、手塚 洋輔)	R	2
	都市社会構造論('23) (北川 由紀彦)	OL	2
	環境工学('19)【自然環境科学プログラムと共通】 (迫田 章義)	OL	2
	社会的協力論('20) ーいかに近代的協力の限界を超えるかー (坂井 素思)	R	2
	実践的都市景観形成論('19) (宮城 俊作)	OL	2
	地域産業の発展と主体形成('20) (北川 太一)	R	2
	統合イノベーション制度研究('21) (児玉 晴男)	OL	1
	法律学文献講読('21) (李 鳴)	OL	1
	現実と向き合う政治理論('22) (山岡 龍一、大澤 津)	R	2
	人的資源管理('22) (原田 順子、平野 光俊)	R	2
	保険法('22) (李 鳴)	OL	2
	アカデミック・スキルズ('25)【臨床心理学プログラム以外と共通】 (滝浦 真人、各プログラム教員※)	OL	1
小 計		14科目	25単位

TV:BSテレビで放送する科目 R:BSラジオで放送する科目 OL:オンラインで配信する科目 TV※:インターネット配信限定で視聴する科目

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)			
人文学プログラム	日本文化と思想の展開－内と外と('22) (魚住 孝至)		R	2
	美学・芸術学研究('19) (青山 昌文)		R	2
	日本史史料を読む('21) (近藤 成一、杉森 哲也)		R	2
	朝鮮の歴史と社会－近世近代('20) (須川 英徳(2023年3月ご逝去)、三ツ井 崇)		R	2
	西洋中世史('21) (河原 温、堀越 宏一)		R	2
	日本文学の研究史('21) (島内 裕子)		R	2
	モダニズムの文学と文化('21) (宮本 陽一郎)		R	2
	異文化との出会い('22) (滝浦 真人、野崎 歆)		R	2
	文化人類学の最前線('21) (大村 敬一)		OL	2
	人文学の現在('25) (大橋 理枝、宮本 徹※、大村 敬一※、河原 温※、 小二田 章※、近藤 成一※、杉森 哲也※、滝浦 真人※、 鶴見 英成※、野崎 歆※、船岡 美穂子※、宮本 陽一郎※)		OL	1
アカデミック・スキルズ('25)【臨床心理学プログラム以外と 共通】 (滝浦 真人、各プログラム教員※)		OL	1	
小 計		11科目	20単位	
情報学プログラム	知能システム論('18) (大西 仁)		OL	2
	音楽・情報・脳('23) (仁科 エミ、河合 徳枝)		R	2
	ソフトウェア工学('25) (中谷 多哉子、中島 震)		R	2
	研究のためのICT活用('21) (高橋 秀明)		OL	2
	eラーニングの理論と実践('24) (青木 久美子、高橋 秀明※、加藤 浩※、辻 靖彦※、 山田 恒夫※、平岡 斉士※)		OL	2
	計算と自然('25)【自然環境科学プログラムと共通】 (萩谷 昌己)		R	2
	データの科学('17) (浅井 紀久夫、辰己 丈夫)		OL	2
	サイバーボランティア論('22) ーボランティア活動におけるICT活用ー (山田 恒夫)		OL	2
	情報とコミュニケーション('23) (青木 久美子、高橋 秀明※)		OL	2
	知財制度論('20)【社会経営科学プログラムと共通】 (児玉 晴男)		R	2
	情報デザイン特論('22) (伏見 清香、須永 剛司)		TV※	2
	教育情報システム設計('23)－学習教育データとデジタル エコシステムー (山田 恒夫、常盤 祐司※、緒方 広明※)		OL	1
	要求工学('24) (中谷 多哉子、大西 淳)		R	2
	プログラミング応用('25) (鈴木 一史)		OL	1
	アカデミック・スキルズ('25)【臨床心理学プログラム以外と共 通】 (滝浦 真人、各プログラム教員※)		OL	1
小 計		15科目	27単位	

区分	2025年度 開設科目		メディア	単位
	科目名(主任講師名、専門担当講師名※)			
自然環境科学プログラム	現代生物科学('18)	(加藤 和弘、二河 成男)	OL	2
	生物の種組成データの分析法('16)	(加藤 和弘)	OL	2
	野外生物調査法('19)	(加藤 和弘)	OL	2
	生態学における情報リテラシー('23)	(加藤 和弘)	OL	2
	現代物理の展望('19)	(岸根 順一郎、松井 哲男(2025年1月ご逝去))	R	2
	先端技術のための現代物理学('18)	(岸根 順一郎)	OL	2
	計算で紐解く物質科学・環境科学('18)	(橋本 健朗、安池 智一)	OL	2
	宇宙、地球、そして人類('18)	(谷口 義明、大森 聡一)	OL	2
	地球を読み解く('19)	(大森 聡一、谷口 義明)	OL	2
	数理科学('21)－離散数理モデル－	(石崎 克也、諸澤 俊介)	TV※	2
	計算論('16)	(隈部 正博)	R	2
	計算と自然('25)【情報学プログラムと共通】	(萩谷 昌己)	R	2
	食健康科学('21)【生活健康科学プログラムと共通】	(佐藤 隆一郎、三浦 豊※、下条 直樹※)	OL	1
	環境工学('19)【社会経営科学プログラムと共通】	(迫田 章義)	OL	2
	自然や環境の諸問題('25)	(二河 成男、加藤 和弘※、大森 聡一※、橋本 健朗※、安池 智一※、岸根 順一郎※、石崎 克也※、隈部 正博※)	OL	1
	アカデミック・スキルズ('25)【臨床心理学プログラム以外と共通】	(滝浦 真人、各プログラム教員※)	OL	1
小 計		16科目	29単位	

「科目名」欄の「(〃〇〇)」は科目が開設された年度の下2桁です。



研究科・専攻・プログラム

放送大学大学院博士後期課程は、1研究科(文化科学研究科)、1専攻(文化科学専攻)の下に、6つのプログラムを設けています。

研究科	専攻	プログラム名	教育目標
文化科学研究科	文化科学専攻	生活健康科学プログラム	生活科学、健康科学、社会福祉学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の生活と健康の向上に資する公共的施策もしくは地域社会の形成をリードすることのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とする。
		人間科学プログラム	心理学、臨床心理学、教育学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の心のあり方の究明とその問題状況の解決に取り組み、子どもの教育、高等教育さらには成人の学習に関わる公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とする。
		社会経営科学プログラム	政治学、経済学・経営学、社会学などに加えて、これらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践的に活用して直面する社会的諸課題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、社会や組織の経営・運営に関わる公共的施策を高度に指導することのできる高度な社会人研究者として公共の場で活躍できる社会分析家(アナリスト)・社会的企業家、公共政策の社会実践家・社会批評家(ジャーナリスト)、学際的・超領域的な社会研究者、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とする。
		人文学プログラム	哲学、言語学、美学、歴史学、人類学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、さまざまなジャンルの文化の普及啓蒙や地域社会・職場等における研究の遂行や公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とする。
		情報学プログラム	情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求し活用する高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に応用するとともに、情報とその処理、及び情報化が人間と社会に及ぼす諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とする。
		自然科学プログラム	数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学、天文学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、現下の自然科学にまつわる諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とする。

教育の基本方針

■ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

必要な修業年限を満たした上で、次に掲げる学修目標に到達し博士論文の審査及び試験に合格して所定の単位を修得した学生に、博士(学術)の学位を授与する。

1. 専攻する学問領域における高度な専門的知識や技能(※)をもつ。
2. 他の学問分野と関連付けて、物事を俯瞰的に観察することができる。
3. 知的リーダーとして社会に知を発信し、地域社会や職場等の複雑な課題を自らの力で解決または先導することができる。
4. 自立した研究者、または高度な専門業務に従事する際に必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する。

(※各プログラムに関連した分野の社会における顕在・潜在ニーズを踏まえた高度な専門的知識や技能については、以下のとおり。)

生活健康科学プログラム	生活科学、健康科学、社会福祉学及びそれらの学際領域における高度な専門的知識。
人間科学プログラム	心理学、臨床心理学、教育学の当該領域及びそれらの学際領域における高度な専門的知識。
社会経営科学プログラム	政治学、経済学・経営学、社会学などに加えそれらの学際領域における高度な専門的知識。
人文学プログラム	哲学、美学芸術学、歴史学、文学、言語学、文化人類学等の人文学諸領域及びそれらの学際領域における高度な専門的知識。
情報学プログラム	情報の数理的側面・処理・機構・技術と、情報と人間・社会との連関についての原理と技術を探求し活用する高度に卓越した専門的知識。
自然科学プログラム	数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学、天文学及びそれらの学際領域における高度な専門的知識、現下の自然科学にまつわる諸問題を的確に発見し、その要因と背景の究明と問題の解決に、科学的手法を駆使して取り組み、高度な研究を遂行できる技能。

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

【教育課程編成】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

[基盤研究科目]（特論科目及び研究法科目）

学術理論及び高度な研究方法を多角的視点から修得するため、専攻する学問領域（メジャー研究領域）の科目と関連する学問分野（マイナー研究分野）の科目を配置するとともに、研究遂行能力を涵養するための科目を配置する。

【特定研究科目】

ディプロマ・ポリシーに基づき博士論文を作成できるよう、プログラムの枠を超えて、メジャー研究領域にマイナー研究分野を加えた研究指導科目を配置する。

【学修成果の評価方法】

基盤研究科目と特定研究科目それぞれの特性に応じて評価基準を設け、形成的評価や達成度評価に基づき成績評価を行う。博士論文は、博士論文評価基準に基づき、提出された論文と口頭試問によって評価する。

（＊各プログラムにおける深い学識及び卓越した能力については、以下のとおり。）

生活健康科学プログラム	生活科学、健康科学、社会福祉学及びそれらの学際領域における高度な専門的知識。
人間科学プログラム	教育学、心理学、臨床心理学の3領域について、最新の動向や最先端の研究に関する知見も交えつつ、人間に関する科学の諸領域の研究の発想法や手法について、その特徴と差異、共通性、問題解決の方法等に関する専門的知識。
社会経営科学プログラム	政治学、経済学・経営学、社会学等に加えそれらの学際領域における高度な専門的知識。
人文学プログラム	人文学の諸領域とそれらの学際領域における高度な専門的知識。
情報学プログラム	情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求し活用する高度な専門的知識。
自然科学プログラム	数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学、天文学及びそれらの学際領域における高度な専門的知識。

■ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育理念、教育研究上の目的等を踏まえて、高度の専門性が求められる社会的役割を担うために深い学識及び卓越した能力を修得し、文化の進展並びに地域社会に貢献できる主導的人材を育成するため、以下のような学生を求める。

1. 専攻領域における研究能力又は、研究能力に加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力をもつ。
 2. 専攻領域及びその周辺分野、さらに他の分野における専門知識や技能を修得することによって涵養される深く広い教養をもつ。
 3. 学術領域・地域社会・職場等において直面する課題を解決するための実践の取組に基づく、豊かな経験知・実践知（※）をもつ。
 4. 知の獲得への強い意志と意欲をもち生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていく意欲をもつ。
- （※各プログラムにおける「豊かな経験知・実践知」については、以下のとおり。）

生活健康科学プログラム	特定非営利活動法人メンバー、非政府組織メンバー、看護師、保健師、メディカル、社会福祉士、介護福祉士等、危機管理、国際協力、保健、看護、社会福祉等の領域において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
人間科学プログラム	産業・労働、保健・医療、学校教育、教育行政、カウンセリング、セラピー等の領域において実践・研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
社会経営科学プログラム	行政組織、企業、地域社会・職場等、市民団体、NPO、研究機関等において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
人文学プログラム	博物館・美術館等の文化施設、研究機関、文化行政組織、企業の文化活動部門、その他の場において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
情報学プログラム	行政組織、企業、地域社会、市民団体、NPO、各種教育研究機関において研究・教育・企画・運営・管理等の業務に、学術的な研究遂行能力を基盤とし高度な職業的知識や技能に基づいて取り組むことをとおして涵養される経験知・実践知。
自然科学プログラム	自然科学に関わる国、地方公共団体等の研究機関、企業の研究部門、自然環境に関わるNPO等において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。

学生の種類及び学習システム

放送大学大学院博士後期課程の教育は、本部キャンパスでの集中対面指導、情報通信技術を有効に用いた双方向研究指導、本部キャンパス及び全国に展開する学習センター

等を利用した履修指導、豊富な“知”の蓄積としての教材アーカイブスの利用といった多様な教育機能を用いて、特色ある研究指導を行います。

■ 博士全科生～博士後期課程を修了して、学位「博士(学術)」の取得を目指す学生～

- ・ 出願資格があるのは、修士の学位もしくは専門職学位を有する方またはこれと同等以上の学力があると認められた方です。
- ・ 入学者選考を実施します。
- ・ 入学の時期は毎年1回、4月です。
- ・ 6つのプログラムのうち、いずれか1つのプログラムに所属して学習・研究を進めていきます。

【入学者選考】

- ・ 第1次選考(筆記試験)
プログラムごとに英語読解試験及び小論文を行い、第1次選考の合格者を決定します。
- ・ 第2次選考(面接試問)
第1次選考の合格者に対して、プログラムごとに、出願の際に提出された研究計画書、志望理由書及び修士論文又は修士論文に相当する論文等をもとに面接試問を行います。最終合格者は、プログラムごとに、筆記試験、及び面接試問の実施結果に基づき決定します。

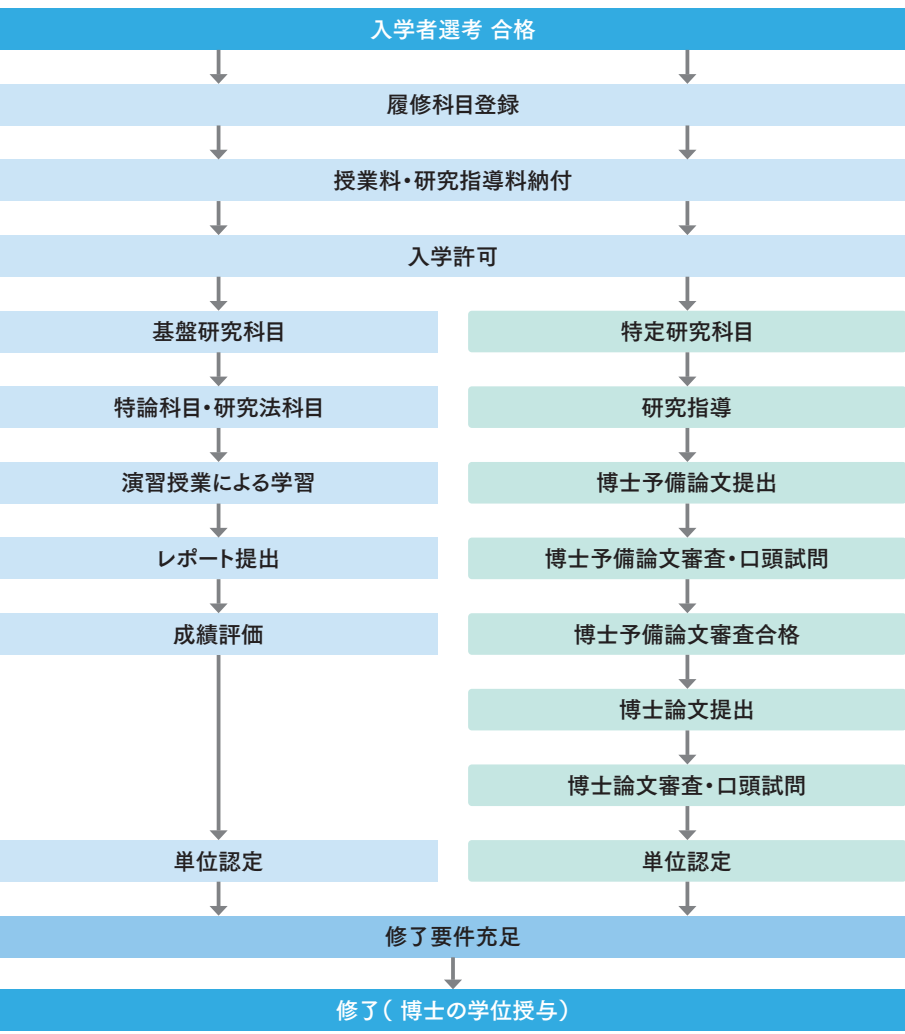
【研究指導】

- ・ 博士論文作成のための研究指導体制に関しては、主研究指導教員1名(メジャー分野の教員1名)、副研究指導教員2名(マイナー分野の教員1名及びメジャー分野又はメジャー隣接分野の教員1名)で博士論文作成のための研究指導を行います。
- ・ 主研究指導教員は、願書の研究テーマや研究計画などをもとに、入学試験面接試問等により領域適合性を確認し、本学が最適と判断した専任教員を充てます。
- ・ 副研究指導教員は、入学後のオリエンテーションでの主研究指導教員との面談後、本学が最適と判断した専任教員を充てます。
- ・ 「基盤研究」と「特定研究」の2つの研究指導方法によって、専門分野の研究能力の深化とともに俯瞰力と創造力を幅広く備え実践と理論を結びつけることのできる高度な社会人研究者を養成します。
- ・ 研究指導は、個別やゼミナール形式による直接対面しての指導、及びWeb会議システムや電子メールによるインターネット技術を活用した指導により行います。

【博士後期課程の修了】

- ・ 修了するためには、3年以上在学し(在学年限は8年)、下記の単位数以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び口頭試問に合格する必要があります。
- 所属するプログラムの基盤研究科目4単位(特論科目2単位、研究法科目2単位の合計4単位)
- 所属するプログラム以外のプログラムの基盤研究科目1単位(研究法科目1単位)
- 特定研究科目12単位

▶ 入学から単位修得、修了までの流れ



学 費

- (1)授業料は1単位当たり、48,000円となります。
- (2)研究指導料は1年分(384,000円)を入学時に納入します。以後、修了まで研究指導料(1年間につき384,000円)を1年ごとに引き続き納入していただくことになります。
- (3)在学中に授業料・研究指導料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料・研究指導料が適用されます。

検定料	入学料	授業料(基盤研究科目)	研究指導料(特定研究科目)
30,000円	48,000円	1単位当たり 48,000円	1年間につき 384,000円

【奨学金 その他】

「奨学金の貸与」

博士全科生に対しては、選考の上、日本学生支援機構の奨学金が貸与されます。

「勤労学生の所得控除」

博士全科生に対しては、年間所得が一定額に満たない場合、勤労学生控除が適用されます。

「国民年金学生納付特例」

博士全科生に対しては、前年の所得が一定額に満たない場合、学生納付特例制度が適用されます。

「学生旅客運賃割引証の発行」

博士全科生が自宅から学習センターに通学する場合などに、学生旅客運賃割引証を発行します。

大学院博士後期課程開設授業科目一覽

授業科目は、基盤研究科目(特論及び研究法)と特定研究科目(研究指導)に区分され、2025年度に開設する科目は合計88科目(特論6科目、研究法76科目、研究指導6科目)です。

区分	科目名	担当教員	単位
生活健康科学	生活健康科学特論	所属プログラム教員	2
	生活環境情報学・家族関係学研究法	下夷 美幸、川原 靖弘	1
	食品科学・リスク学研究法	朝倉 富子、奈良 由美子	1
	医科学・公衆衛生学研究法	関根 紀子、田城 孝雄 糸川 昌成	1
	看護学・健康社会学研究法	井出 訓、戸ヶ里 泰典、 山内 豊明	1
	社会福祉学研究法A	山田 知子	1
	社会福祉学研究法B	川島 聡	1
	人間科学特論	所属プログラム教員	2
人間科学	生涯学習研究法	岩崎 久美子	1
	教育社会学研究法	岩永 雅也	1
	高等教育研究法	苑 復傑	1
	教育心理学研究法	進藤 聡彦	1
	社会心理学研究法	森 津太子	1
	認知心理学研究法	高橋 秀明	1
	発達心理学研究法	向田 久美子	1
	深層心理学研究法	橋本 朋広	1
	福祉心理学研究法	村松 健司	1
	芸術療法学研究法	佐藤 仁美	1
	教育臨床心理学研究法	波田野 茂幸	1
	学校臨床学研究法	丸山 広人	1
	高等教育論研究法	橋本 鉦市	1
	教育行財政学研究法	櫻井 直輝	1
	カリキュラム研究法	小林 祐紀	1
	健康・医療心理学研究法	高梨 利恵子	1
基盤研究科目	社会経営科学特論	所属プログラム教員	2
	民法法学研究法	李 鳴	1
	公共政策(政治学・国際関係論)研究法	白鳥 潤一郎	1
	公共政策(政治理論)研究法	山岡 龍一	1
	社会経済学研究法	松原 隆一郎	1
	社会学研究法	北川 由紀彦	1
	企業会計研究法	齋藤 正章	1
	人的資源管理研究法	原田 順子	1
	オペレーションズ・マネジメント研究法	松井 美樹	1
	建築設計研究法	堀部 安嗣	1
	地域産業学研究法	古橋 元	1
	都市研究法	玉野 和志	1
	経済思想史研究法	桑田 学	1
	人文学特論	所属プログラム教員	2
	哲学・日本思想研究法	魚住 孝至	1
	美術史研究法	船岡 美穂子	1
人文学	日本古代・中世史研究法	近藤 成一	1
	日本近世・近代史研究法	杉森 哲也	1
	東洋史学研究法	小二田 章	1
	西洋史学研究法	河原 温	1
	フランス語圏文学研究法	野崎 歆	1
	英語圏文学研究法	宮本 陽一郎	1
	言語学研究法	滝浦 真人	1

区分	科目名	担当教員	単位
情報学	コミュニケーション学研究法	大橋 理枝	1
	中国語学研究法	宮本 徹	1
	社会人類学研究法	大村 敬一	1
	博物館学研究法	鶴見 英成	1
	情報学特論	所属プログラム教員	2
	人間社会情報学研究法	青木 久美子	1
	生体情報処理研究法	秋光 淳生	1
	知識情報処理研究法	浅井 紀久夫	1
	認知情報科学研究法	大西 仁	1
	学習環境デザイン学研究法	加藤 浩	1
	学習コンテンツ評価研究法	近藤 智嗣	1
	メディアリテラシー研究法	芝崎 順司	1
	計算機システム研究法	鈴木 一史	1
	情報教育研究法	辰己 丈夫	1
	教育・学習システム工学研究法	辻 靖彦	1
	メディア教育研究法	中川 一史	1
	ソフトウェア工学研究法	中谷 多哉子	1
	メディア情報質評価研究法	仁科 エミ	1
	情報環境応用研究法	葉田 善章	1
	デザイン研究法	伏見 清香	1
	学習支援システム研究法	森本 容介	1
	マルチメディア情報処理研究法	柳沼 良知	1
	教育・学習データ分析研究法	山田 恒夫	1
	教授システム研究法	平岡 斉士	1
自然科学	自然科学特論	所属プログラム教員	2
	生態環境研究法	加藤 和弘	1
	生物科学研究法	二河 成男	1
	分子科学研究法	橋本 健朗	1
	化学研究法	安池 智一	1
	凝縮系物理学研究法	岸根 順一郎	1
	宇宙物理学研究法	谷口 義明	1
	数理解析学研究法	石崎 克也	1
	数理論理学研究法	隈部 正博	1
	地球惑星科学研究法	大森 聡一	1
特定研究科目	生活健康科学特定研究 (研究指導)	各主研究指導教員	12
	人間科学特定研究 (研究指導)	各主研究指導教員	12
	社会経営科学特定研究 (研究指導)	各主研究指導教員	12
	人文学特定研究 (研究指導)	各主研究指導教員	12
	情報学特定研究 (研究指導)	各主研究指導教員	12
	自然科学特定研究 (研究指導)	各主研究指導教員	12

単位互換協定

各大学に在学する学生が自大学の授業科目のほか、他大学の授業科目の一部を利用することができれば、教育課程はより豊富になり教育内容も充実することとなります。

このようなことから、学生が他の大学の授業科目を履修し、単位を修得することが可能となる制度(単位互換制度)が設けられています。

本学の設置目的の一つに「他大学との単位互換の推進」が

掲げられており、積極的に単位互換協定の締結に努めているところです。この制度に基づく学生は、「特別聴講学生」として受け入れを行っています。

本学の最大の特徴は、BSテレビ・BSラジオ・インターネットなどにより授業を行うことであり、時間や場所の制約を受けずに学習することが可能です。

単位互換協定締結校数(令和6年11月1日現在)

	国立	公立	私立	合計
大学(学部)	62	38	222	322
短期大学	0	4	90	94
高等専門学校	17	0	0	17
大学院	1	2	12	15
合計	80	44	324	448

(参考)全国の大学・短期大学・高等専門学校数

	国立	公立	私立	合計
大学(学部)	82	100	605	787
短期大学	0	15	282	297
高等専門学校	51	3	4	58
大学院	86	91	486	663
合計	219	209	1,377	1,805

※令和6年度学校基本調査による。

単位互換協定を締結した大学、及び短期大学・高等専門学校・大学院(令和6年11月1日現在 448校)

国立大学(62校)	奈良教育大学	都城工業高等専門学校	宮崎公立大学
北海道教育大学	奈良女子大学	国立大学大学院(1校)	名城大学
帯広畜産大学	和歌山大学	北陸先端科学技術大学院大学	公立短期大学(4校)
旭川医科大学	鳥取大学	公立大学(38校)	山形県立米沢女子短期大学
北見工業大学	島根大学	札幌市立大学	会津大学短期学部
弘前大学	岡山大学	宮城大学	岐阜市立女子短期大学
岩手大学	広島大学	秋田県立大学	大分県立芸術文化短期大学
東北大学	山口大学	山形県立保健医療大学	公立大学大学院(2校)
宮城教育大学	徳島大学	山形県立米沢栄養大学	富山県立大学大学院
秋田大学	鳴門教育大学	会津大学	島根県立大学大学院
山形大学	香川大学	福島県立医科大学	私立大学(222校)
福島大学	愛媛大学	群馬県立女子大学	札幌国際大学
茨城大学	高知大学	埼玉県立大学	函館大学
筑波技術大学	九州大学	千葉県立保健医療大学	北海学園大学
宇都宮大学	福岡教育大学	新潟県立大学	北海道情報大学(通信教育部)
群馬大学	佐賀大学	長岡造形大学	酪農学園大学
埼玉大学	長崎大学	富山県立大学	八戸学院大学
千葉大学	熊本大学	石川県立大学	青森大学
東京医科歯科大学	大分大学	石川県立看護大学	盛岡大学
東京農工大学	宮崎大学	金沢美術工芸大学	石巻専修大学
東京海洋大学	鹿児島大学	福井県立大学	尚絅学院大学
電気通信大学	鹿屋体育大学	長野県看護大学	仙台大学
横浜国立大学	琉球大学	公立諏訪東京理科大学	仙台北百合女子大学
新潟大学	国立高等専門学校(17校)	岐阜県立看護大学	東北学院大学
上越教育大学	一関工業高等専門学校	岐阜薬科大学	東北工業大学
富山大学	仙台高等専門学校	静岡文化芸術大学	東北生活文化大学
金沢大学	鶴岡工業高等専門学校	公立鳥取環境大学	東北福祉大学
福井大学	福島工業高等専門学校	島根県立大学	東北文化学園大学
山梨大学	茨城工業高等専門学校	県立広島大学	東北医科薬科大学
信州大学	群馬工業高等専門学校	広島市立大学	宮城学院女子大学
岐阜大学	小山工業高等専門学校	周南公立大学	東北芸術工科大学
静岡大学	石川工業高等専門学校	香川県立保健医療大学	東北公益文科大学
浜松医科大学	福井工業高等専門学校	愛媛県立医療技術大学	東北文科大学
三重大学	岐阜工業高等専門学校	高知県立大学	医療創生大学
滋賀大学	鈴鹿工業高等専門学校	高知工科大学	郡山女子大学
滋賀医科大学	明石工業高等専門学校	福岡県立大学	東日本国際大学
大阪大学	呉工業高等専門学校	福岡女子大学	福島学院大学
大阪教育大学	宇部工業高等専門学校	長崎県立大学	日本大学工学部
兵庫教育大学	久留米工業高等専門学校	大分県立看護科学大学	茨城キリスト教大学
神戸大学	大分工業高等専門学校	宮崎県立看護大学	日本国際学園大学

足利大学
宇都宮共和大学
作新学院大学
自治医科大学
獨協医科大学
白鴎大学
文星芸術大学
帝京大学(理工学部)
関東学園大学
共愛学園前橋国際大学
上武大学
共栄大学
埼玉学園大学
十文字学園女子大学
聖学院大学
西武文理大学
東都大学
獨協大学
人間総合科学大学
ものづくり大学
文京学院大学
目白大学
愛国学園大学
植草学園大学
江戸川大学
川村学園女子大学
神田外語大学
敬愛大学
国際医療福祉大学
国際武道大学
三育学院大学
秀明大学
淑徳大学
城西国際大学
聖徳大学
清和大学
千葉科学大学
千葉経済大学
千葉工業大学
千葉商科大学
中央学院大学
東京基督教大学
東京情報大学
東京成徳大学
開智国際大学
麗澤大学
和洋女子大学
明海大学
帝京平成大学
東京音楽大学
東洋学園大学
桜美林大学
嘉悦大学
北里大学
実践女子大学
順天堂大学
創価大学
大東文化大学
多摩大学
帝京科学大学
東京医療保健大学
東京家政大学
東京工科大学
東京聖栄大学
東京電機大学
二松学舎大学
日本獣医生命科学大学
日本女子大学
文化学園大学
武蔵野大学
麻布大学
神奈川工科大学
産業能率大学
湘南工科大学
洗足学園音楽大学

鶴見大学
田園調布学園大学
桐蔭横浜大学
東京未来大学
東洋大学
フェリス学院大学
横浜商科大学
東海大学
東京工芸大学
文教大学
松蔭大学
新潟リハビリテーション大学
敬和学園大学
高岡法科大学
金沢医科大学
金沢学院大学
金沢工業大学
金沢星稜大学
金城大学
北陸大学
北陸学院大学
福井医療大学
健康科学大学
山梨学院大学
清泉学院大学
松本大学
朝日大学
岐阜医療科学大学
岐阜協立大学
岐阜女子大学
岐阜聖徳学園大学
中京学院大学
中部学院大学
東海学院大学
岐阜保健大学
静岡産業大学
聖隷クリストファー大学
愛知大学
愛知淑徳大学
愛知みずほ大学
東海学園大学
豊田工業大学
名古屋商科大学
名古屋芸術大学
人間環境大学
鈴鹿大学
鈴鹿医療科学大学
聖泉大学
京都女子大学
京都ノートルダム女子大学
京都美術工芸大学
同志社女子大学
立命館大学
龍谷大学
佛教大学(通信教育課程)
嵯峨美術大学
京都先端科学大学
大阪女学院大学
追手門学院大学
大阪学院大学(通信教育部)
大阪産業大学
関西福祉科学大学
森ノ宮医療大学
太成学院大学
兵庫大学
大手前大学
畿央大学
奈良大学
帝塚山大学
奈良学園大学
鳥取看護大学
岡山商科大学
岡山理科大学
川崎医療福祉大学
吉備国際大学

倉敷芸術科学大学
美作大学
広島工業大学
広島国際大学
広島文教大学
安田女子大学
エリザベト音楽大学
近畿大学工学部
比治山大学
広島経済大学
広島国際学院大学
広島修道大学
広島女学院大学
広島文化学園大学
広島都市学園大学
宇部フロンティア大学
徳島文理大学
四国学院大学
高松大学
松山大学
松山東雲女子大学
聖カタリナ大学
九州共立大学
九州産業大学
九州女子大学
福岡工業大学
西九州大学
長崎純心大学
熊本学園大学
熊本保健科学大学
崇城大学
日本文理大学
別府大学
立命館アジア太平洋大学
九州医療科学大学
南九州大学
宮崎国際大学
宮崎産業経営大学
鹿児島純心大学
志學館大学
鹿児島国際大学
沖縄大学
沖縄国際大学
私立短期大学(90校)
釧路短期大学
札幌国際大学短期大学部
北翔大学短期大学部
北海道科学大学短期大学部
青森明の星短期大学
聖和学園短期大学
東北生活文化大学短期大学部
羽陽学園短期大学
東北文教大学短期大学部
いわき短期大学
郡山女子大学短期大学部
桜の聖母短期大学
福島学院大学短期大学部
足利短期大学
宇都宮短期大学
宇都宮文星短期大学
國學院大学栃木短期大学
作新学院大学女子短期大学部
佐野日本大学短期大学
新島学園短期大学
国際学院埼玉短期大学
植草学園短期大学
昭和学院短期大学
聖徳大学短期大学部
清和大学短期大学部
千葉敬愛短期大学
千葉経済大学短期大学部
千葉明德短期大学
東京経営短期大学
上野学園大学短期大学部
自由が丘産能短期大学

東京家政大学短期大学部
文化学園大学短期大学部
新潟工業短期大学
富山福祉短期大学
金沢学院短期大学
金沢星稜大学女子短期大学部
金城大学短期大学部
北陸学院大学短期大学部
仁愛女子短期大学
山梨学院短期大学
松本大学松商短期大学部
清泉女学院短期大学
大垣女子短期大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部
岐阜保健大学短期大学部
正眼短期大学
高山自動車短期大学
中部学院大学短期大学部
東海学院大学短期大学部
中日本自動車短期大学部
平成医療短期大学
中京学院大学短期大学部
愛知産業大学短期大学
愛知みずほ大学短期大学部
至学館大学短期大学部
京都文教短期大学
嵯峨美術短期大学
大阪女学院短期大学
大阪千代田短期大学
甲子園短期大学
神戸女子短期大学
神戸教育短期大学
兵庫大学短期大学部
奈良佐保短期大学
鳥取短期大学
中国短期大学
美作大学短期大学部
安田女子短期大学
山陽女子短期大学
比治山大学短期大学部
広島文化学園短期大学
松山東雲短期大学
松山短期大学
聖カタリナ大学短期大学部
高知学園短期大学
九州女子短期大学
福岡工業大学短期大学部
九州龍谷短期大学
佐賀女子短期大学
西九州大学短期大学部
別府清部学園短期大学
大分短期大学
東九州短期大学
別府大学短期大学部
南九州短期大学
宮崎学園短期大学
鹿児島女子短期大学
沖縄キリスト教短期大学
沖縄女子短期大学
私立大学大学院(12校)
社会構想大学院大学
東京医療保健大学大学院
佐久大学大学院
岐阜女子大学大学院
聖隷クリストファー大学大学院
星城大学大学院
中京大学大学院
豊橋創造大学大学院
龍谷大学大学院
森ノ宮医療大学大学院
美作大学大学院
広島文化学園大学大学院

資格の取得

■ 学位

学 部

修 士

博 士

全科履修生・修士全科生・博士全科生として卒業・修了すると以下の学位が取得できます。

教養学部	学士(教養)
大学院修士課程	修士(学術)
大学院博士後期課程	博士(学術)

アイコンの説明

学 部

学部で対応

修 士

大学院修士課程で対応

博 士

大学院博士後期課程で対応

■ 大学改革支援・学位授与機構による学士の学位の取得について

学 部

短期大学、高等専門学校、一定の基準を満たす専修学校専門課程卒業生などが科目等履修生として大学の単位を修得する方法により、一定の学修を積み上げた場合、大学改革支援・学位授与機構の行う審査によって学士の学位を取得できる途が開かれています。放送大学の一部の単位は、この制度に活用できます。

■ 国家試験の受験資格の取得

学 部

他の大学と同様に、放送大学で所定の単位を修得することにより、国家試験の受験資格を取得できるものとしては次のようなものがあります。

資格試験の種類	左記の受験資格等を得るために本学で必要な学修
税理士試験	全科履修生として、3年次以上で社会科学に属する科目を1科目以上含む計62単位以上修得、もしくは、大学、短大又は高等専門学校の卒業生の場合、社会科学に属する科目を科目履修生又は選科履修生、全科履修生として1科目以上履修
社会保険労務士試験	全科履修生として62単位以上修得
保育士試験	全科履修生として2年以上在学して62単位以上修得
甲種危険物取扱者試験	大学等において化学に関する学科等を修めて卒業した者、又は大学等において「化学に関する授業科目」を15単位以上修得した者、又は乙種危険物取扱者免状を有する者

■ 上位・他教科等の教員免許状の取得

学 部

現に教員免許状を有している方が各都道府県教育委員会の行う教育職員検定で上位・他教科・隣接校種の免許状又は特別支援学校の教諭の免許状を取得しようとする場合に、各都道府県教育委員会の判断により、必要な単位の一部を放送大学において修得できます。

■ 専修免許状の取得

修 士

現に教員免許状を有している方が各都道府県教育委員会の行う教育職員検定で専修免許状を取得しようとする場合に、各都道府県教育委員会の判断により、必要な単位の一部を放送大学大学院において修得できます。

■ 栄養教諭の免許状

学 部

管理栄養士、管理栄養士養成課程修了(栄養士免許は必要)又は栄養士免許を基礎資格とし、学校栄養職員として3年以上の実務経験を有している方が栄養教諭の普通免許状を取得しようとする場合に、各都道府県教育委員会の判断により、必要な単位の一部を放送大学において修得できます。

■ 社会教育主事、社会教育士

学 部

他大学等で実施される社会教育主事講習を受講しようとする方が、放送大学において指定科目の単位を修得している場合、講習実施機関の判断により、講習科目の一部が免除されます。また、現に社会教育主事となる資格取得のためのすべての単位を修得されている方が「社会教育士」の称号を得ようとする場合に対応した、社会教育主事講習(一部科目指定講習)を令和4年度(2022年度)から実施しています。

■ 学芸員

学 部

放送大学において、学芸員の資格を取得するために必要な単位の一部を修得することができます。

■ 司書教諭

大学に2年以上在学し62単位以上を修得している学生(教員免許状を取得することが必要です)又は既に教員免許状をお持ちの方は、本学で開講する学校図書館司書教諭講習を修了することにより、司書教諭の資格が取得できます。

■ 認定心理士

学 部

認定心理士は、心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを「公益社団法人日本心理学会」が認定する資格です。資格取得に必要な単位は全て放送大学で満たすことができます。

※学会申請時には学士(又は修士)の学位が必要となります(放送大学にて取得可能)。

■ 公認心理師試験受験資格

学 部

2019年度第1学期から公認心理師対応カリキュラムを学部段階で開設しました。

「大学における必要な科目」の単位をすべて修得し卒業した上で、他の公認心理師対応の大学院において「大学院における必要な科目」の単位をすべて修得して修了、あるいは法の規定する認定施設にて2年以上の実務経験を経ることで、公認心理師試験の受験資格を取得できます。

※放送大学では大学院のカリキュラムには対応しておりません。

■ 臨床心理士資格審査受験資格 (→P.32)

修 士

■ 看護師国家試験受験資格

学 部

准看護師として7年以上の就業経験を有する方が、看護師学校養成所2年課程(通信制)を卒業して看護師国家試験をめざす場合、各養成所の判断により放送大学で修得した単位を総修得単位数の2分の1を超えない範囲まで活用できます。

■ 看護師の特定行為研修

修 士

特定行為研修とは、看護師が手順書により特定行為を行うために必要な、実践的な理解力・思考力・判断力、高度かつ専門的な知識・技能の向上を図る研修です。

放送大学大学院では、共通科目に該当する科目として「講義」と「演習」部分をオンライン授業として開講しています(「実習」部分は指定研修機関・その他協力施設で受講する必要があります)。

職場研修などの支援

会社などの集団で研修などの目的で利用される場合、次のような特別な対応をしています。

- ・学期末の単位認定試験の結果を受講者本人だけでなく、必要があれば、会社などの研修担当者にお知らせすることができます。この制度によって、会社などでは研修の目的を達したかどうか、研修事業の結果を確認することができます。
- ・会社などでまとめて20人以上の集団で入学の申し込みをされますと、入学料は半額となります。

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)

学部

「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)」は、2006年から放送大学が実施している学習プログラム(履修証明プログラム)で、学校教育法第105条「履修証明制度」※に対応しています。

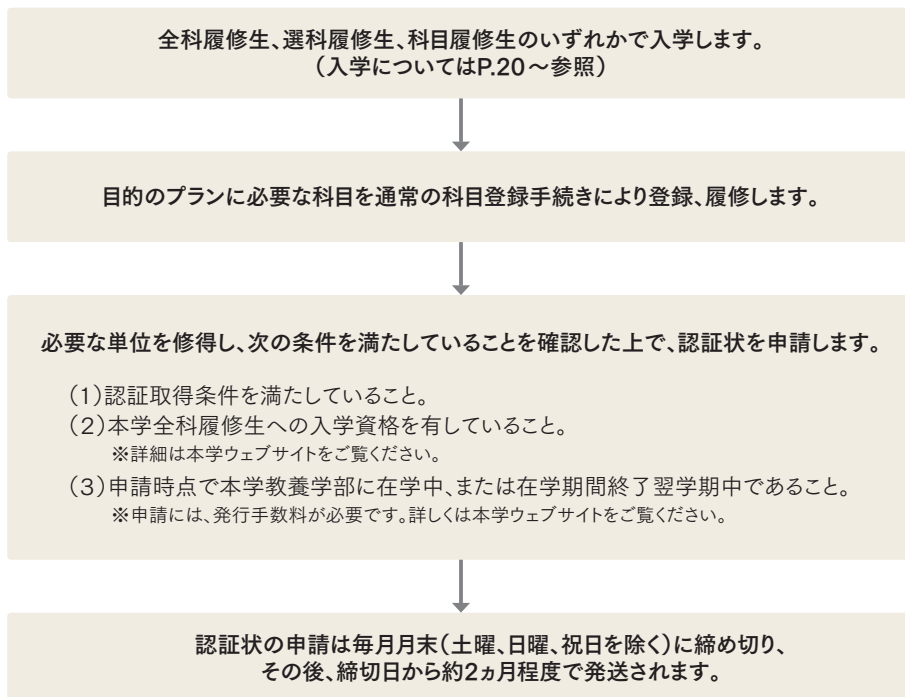
本学が指定する特定の授業科目群(17プラン)に沿って科目履修し、専門分野を体系的に学び申請することにより、修了者に「履修証明制度」に基づいた認証状、証明書、携帯できる認証カード(希望者)が交付されます。

※学校教育法第105条「履修証明制度」

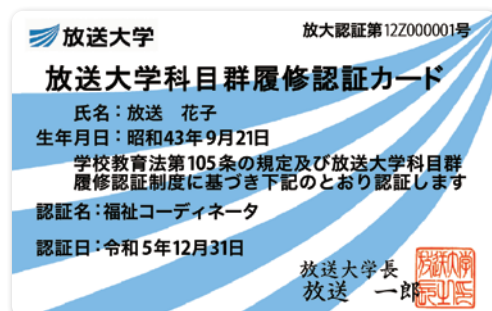
社会人などを対象とした、2007年に始まった新しい履修・学習の証明制度。大学などが開設した一定のまとまりある学習プログラム(履修証明プログラム)の修了者に対して、大学などが法に基づく「履修証明書」(certificate)を交付できる制度です。「履修証明制度」の詳細については、文部科学省のウェブサイトをご覧ください。

■「放送大学エキスパート」入学から認証状取得までの流れ

入学から科目登録までは、通常の手続きと同じです。科目登録の際に、目指すプランを決めておく必要があります。



※イメージ



2020（令和2）年度に開始された「インターネット配信公開講座」は、キャリアアップや生涯学習に役立つ講義をインターネットを通じて提供するもので、パソコン、タブレット、スマートフォンなどを用い受講します。キャリアアップ支援認証制度に対応した有料講座と、どなたでも受講できる無料講座を提供しています。

■ いつでもどこでも誰でも学べる、オンデマンドの公開講座

01

入学手続不要ですぐ学び始められる

専用サイトにて会員登録することで、放送大学生も、学生でない方も、どなたでも受講できるのが特徴です。申込期間を定めず、思い立ったらすぐ学び始められる仕組みです。



02

クレジットカード決済可能で、受講登録から修了までオンラインで完結

講座はオンデマンドで開講しており、時間と場所を選ばず、開講期間中であれば何度でも学ぶことができます。有料講座の決済方法はコンビニ払い・ペイジーのほかクレジットカード決済にも対応しています。
*一部講座は、会場でオンライン受験するCBT方式を採用しています。

03

成果が見える、認証状とデジタルバッジ

体系的に編成された講座を修了した方に対して放送大学が独自の認証を行う「キャリアアップ支援認証制度」対象講座では、修了後に認証状・デジタルバッジが発行されます。
*デジタルバッジとは、学習履歴や資格に関するデータを修了者自身が安全にやり取りできる次世代学習証明システムです。取得したデジタルバッジは、SNS等で公開したり電子履歴書へ活用することができます。



04

学校や企業での団体受講にも対応

一部の講座は受講料の団体割引があり、教育機関における授業や企業の社員教育に活用されています。団体が指定した講座群の修了者に対して団体名入りのデジタルバッジも発行でき、モチベーション管理に役立ちます。

■ 開講講座の例

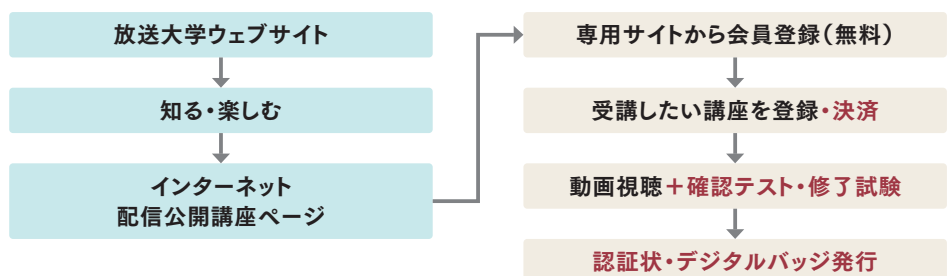
（令和7年4月時点）

有料講座 （キャリアアップ支援認証制度対象講座）	プログラミング教育プラン	4講座
	数値・データサイエンス・AI講座	リテラシーレベル 5講座* 応用基礎レベル 3講座 発展・専門 12講座
	教育課題に取り組むためのリスキング講座	75講座（5科目×各15回）
無料講座	生涯学習支援番組他	98講座

*リテラシーレベルは放送大学生割引有り

■ インターネット配信公開講座受講の流れ

放送大学への入学は不要で、専用サイトへの会員登録（無料）が必要となります。



*赤字は有料講座のみ



インターネット配信
公開講座専用サイト

放送大学の数値・データサイエンス・AI 講座

現代社会においては、ビッグデータの収集・蓄積・分析やAIの活用によって、社会的な問題の解決や新たな価値の創造が期待されています。そのためには、「数値・データサイエンス・AI」に関する知識・技能が重要であると言われるようになってきました。放送大学の数値・データサイエンス・AI 講座では、数値・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム策定のモデルカリキュラムに対応した講座を提供しています。



全都道府県に学習センターやサテライトスペースを設置。面接授業（スクーリング）を受けたり、学生団体（サークル）活動で学生同士の交流を図ったりすることができます。また、学習センターでは本学の学生向けのWi-Fi環境を整備し、インターネットを通じた学習ができるようになっています。

■ 多彩な面接授業

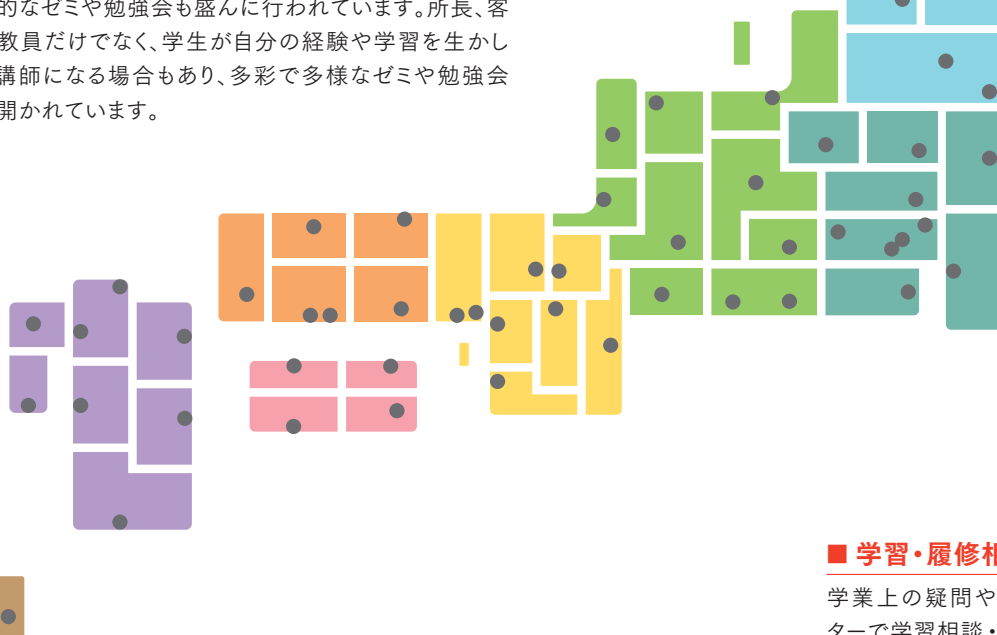
面接授業は、各地域の実情や特色を活かした科目などを開講しています。放送大学の専任教員や、地元の客員教員などによる、対面・フィールドワークでの授業です。学友と学ぶ楽しさを実感できます。



講師陣から直接指導を受ける面接授業

■ ゼミ・勉強会

面接授業に加え、学習センターでは、勉学の間として自主的なゼミや勉強会も盛んに行われています。所長、客員教員だけでなく、学生が自分の経験や学習を生かして講師になる場合もあり、多彩で多様なゼミや勉強会が開かれています。



■ 学生研修旅行

学生研修旅行は、地域の歴史や文化に触れるとともに、学生相互の交流を図る活動として、学習センター単位で開催されています。訪問先は、学術機関、地域の名所・旧跡、体験学習など多彩です。



■ 講演会や学習サロン

学習センターでは積極的に講演会を開催していて、地域、開催時期及び社会情勢などに応じたさまざまな話題が取り上げられています。



全国各地で開催される講演会

■ 学習・履修相談会

学業上の疑問や悩みについて各学習センターで学習相談・履修相談が受けられます。所長・客員教員、さらには経験者としての先輩学生たちが相談に応じています。

■ 文化祭

文化祭を行う学習センターも多くあります。学生たちの日頃の学習の成果や、趣味の作品が披露され、学生同士の交流の機会ともなっています。

■ 学生団体（サークル）活動

学習センターでは、学習・趣味・スポーツなどさまざまな学生団体（サークル）活動が活発に行われています。また、当該地域ならではの特色ある学生団体も多くあります。

北海道	北海道学習センター 札幌市北区北17条西8丁目(北海道大学札幌キャンパス情報教育館5・6階)	☎011-736-6318
	旭川サテライトスペース 旭川市常磐公園(旭川市常磐館内)	☎0166-22-2627
東 北	青森学習センター 弘前市駅前町9-20(ヒロロ4階)	☎0172-38-0500
	八戸サテライトスペース 八戸市一番町1-9-22(ユートリー 4階)	☎0178-70-1663
	岩手学習センター 盛岡市上田3-18-8(岩手大学図書館3・4階)	☎019-653-7414
	宮城学習センター 仙台市青葉区片平2-1-1(東北大学片平キャンパス内)	☎022-224-0651
	秋田学習センター 秋田市手形学園町1-1(秋田大学手形キャンパス地方創生センター 2号館4階)	☎018-831-1997
	山形学習センター 山形市城南町1-1-1(霞城セントラル10階)	☎023-646-8836
	福島学習センター 郡山市桑野1-22-21	☎024-921-7471
	いわきサテライトスペース いわき市平字菱川町1-3(いわき市社会福祉センター 4階)	☎0246-22-7318
関 東	茨城学習センター 水戸市文京2-1-1(茨城大学水戸キャンパス環境リサーチラボラトリー 2・3階)	☎029-228-0683
	栃木学習センター 宇都宮市峰町350(宇都宮大学峰キャンパス附属図書館1・2階)	☎028-632-0572
	群馬学習センター 前橋市若宮町1-13-2	☎027-230-1085
	埼玉学習センター さいたま市大宮区錦町682-2(JACK大宮8・9・10階)	☎048-650-2611
	千葉学習センター 千葉市美浜区若葉2-11(放送大学本部敷地内)	☎043-298-4367
	東京渋谷学習センター 渋谷区道玄坂1-10-7(五育育英会ビル1階)	☎03-5428-3011
	東京文京学習センター 文京区大塚3-29-1(筑波大学東京キャンパス文京校舎内)	☎03-5395-8688
	東京足立学習センター 足立区千住5-13-5(学びピア21(6階))	☎03-5244-2760
	東京多摩学習センター 小平市学園西町1-29-1(一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究センター 3・4階)	☎042-349-3467
	神奈川学習センター 横浜市南区大岡2-31-1	☎045-710-1910
甲 信 越 ・ 北 陸	新潟学習センター 新潟市中央区旭町通1番町754(新潟大学旭町キャンパス医歯学図書館4～6階)	☎025-228-2651
	富山学習センター 射水市黒河5180(富山県立大学情報基盤センター 3階)	☎0766-56-9230
	石川学習センター 野々市市扇が丘7-1(金沢工業大学扇が丘キャンパス9号館)	☎076-246-4029
	福井学習センター 福井市手寄1丁目4-1(AOSSA 7階)	☎0776-22-6361
	山梨学習センター 甲府市武田4-4-37(山梨大学甲府キャンパス総合研究棟Y号館隣接建物内)	☎055-251-2238
	長野学習センター 諏訪市諏訪1-6-1(アーク諏訪3階)	☎0266-58-2332
東 海	岐阜学習センター 岐阜市数田南5-14-53(OKBふれあい会館第2棟2階)	☎058-273-9614
	静岡学習センター 三島市文教町1-3-93(静岡県立三島長陵高等学校2階)	☎055-989-1253
	浜松サテライトスペース 浜松市中央区早馬町2-1(クリエート浜松2階・4階)	☎053-453-3303
	愛知学習センター 愛知県名古屋市中区則武新町3-1-17(BIZrium名古屋5階)	☎052-589-8333

東 海	三重学習センター 津市一身田上津部田1234(三重県総合文化センター生涯学習棟4階)	☎059-233-1170
	滋賀学習センター 大津市瀬田大江町横谷1-5(龍谷大学瀬田キャンパス4号館1階)	☎077-545-0362
近 畿	京都学習センター 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939(キャンパスプラザ京都3階)	☎075-371-3001
	大阪学習センター 大阪市天王寺区南河堀町4-88(大阪教育大学天王寺キャンパス中央館6・7階)	☎06-6773-6328
	兵庫学習センター 神戸市灘区六甲台町2-1(神戸大学六甲台第1キャンパスアカデミア館6・7階)	☎078-805-0052
	姫路サテライトスペース 姫路市本町68-290(イーグレひめじ地下2階)	☎079-284-5788
中 国	奈良学習センター 奈良市北魚屋東町(奈良女子大学コラボレーションセンター 3階)	☎0742-20-7870
	和歌山学習センター 和歌山市西高松1-7-20(和歌山大学松下会館内)	☎073-431-0360
	鳥取学習センター 鳥取市富安2-138-4(鳥取市役所駅南庁舎5階)	☎0857-37-2351
	島根学習センター 松江市白潟本町43(スティックビル4階)	☎0852-28-5500
四 国	岡山学習センター 岡山市北区津島中3-1-1(岡山大学津島キャンパス文化科学系総合研究棟5・6階)	☎086-254-9240
	広島学習センター 広島市中区東千田町1-1-89(広島大学東千田キャンパス東千田総合校舎3・4階)	☎082-247-4030
	福山サテライトスペース 福山市霞町1-10-1(まなびの館ローズコム3階)	☎084-991-2011
	山口学習センター 山口市吉田1677-1(山口大学吉田キャンパス大会館内)	☎083-928-2501
九 州 ・ 沖 縄	徳島学習センター 徳島市新蔵町2-24(徳島大学新蔵キャンパス日亜会館3階)	☎088-602-0151
	香川学習センター 高松市幸町1-1(香川大学幸町北キャンパス研究交流棟7・8階)	☎087-837-9877
	愛媛学習センター 松山市文京町3(愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンター棟3・4階)	☎089-923-8544
	高知学習センター 高知市曙町2-5-1(高知大学朝倉キャンパスメディアの森内)	☎088-843-4864
	福岡学習センター 春日市春日公園6-1(九州大学筑紫キャンパス内 E棟4・5階)	☎092-585-3033
	北九州サテライトスペース 北九州市八幡西区黒崎3-15-3(コムシティ 3階)	☎093-645-3201
	佐賀学習センター 佐賀市天神3-2-11(アバンセ4階)	☎0952-22-3308
	長崎学習センター 長崎市文教町1-14(長崎大学文教キャンパス内)	☎095-813-1317
	熊本学習センター 熊本市中央区黒髪2-40-1(熊本大学附属図書館南棟2・3階)	☎096-341-0860
	大分学習センター 別府市北石垣82(別府大学39号館2階)	☎0977-67-1191
九 州 ・ 沖 縄	宮崎学習センター 日向市本町11-11(日向市役所北隣)	☎0982-53-1893
	鹿児島学習センター 鹿児島市山下町14-50(カクイックス交流センター西棟4階)	☎099-239-3811
	沖縄学習センター 中頭郡西原町字千原1(琉球大学地域国際学習センター棟4・5階)	☎098-895-5952

※学習センターは国立大学や自治体の生涯学習施設などと同居しているケースが多く、大変学びやすい環境です。

在学生数（令和6年（2024年度））

〔教養学部〕

（単位：人）

学生の種別等	第1学期在学生数		第2学期在学生数	
全科履修生	60,277		59,660	
選科履修生	12,880	17,481	12,471	18,409
科目履修生	4,601		5,938	
特別聴講学生	988		2,872	
合計	78,746		80,941	

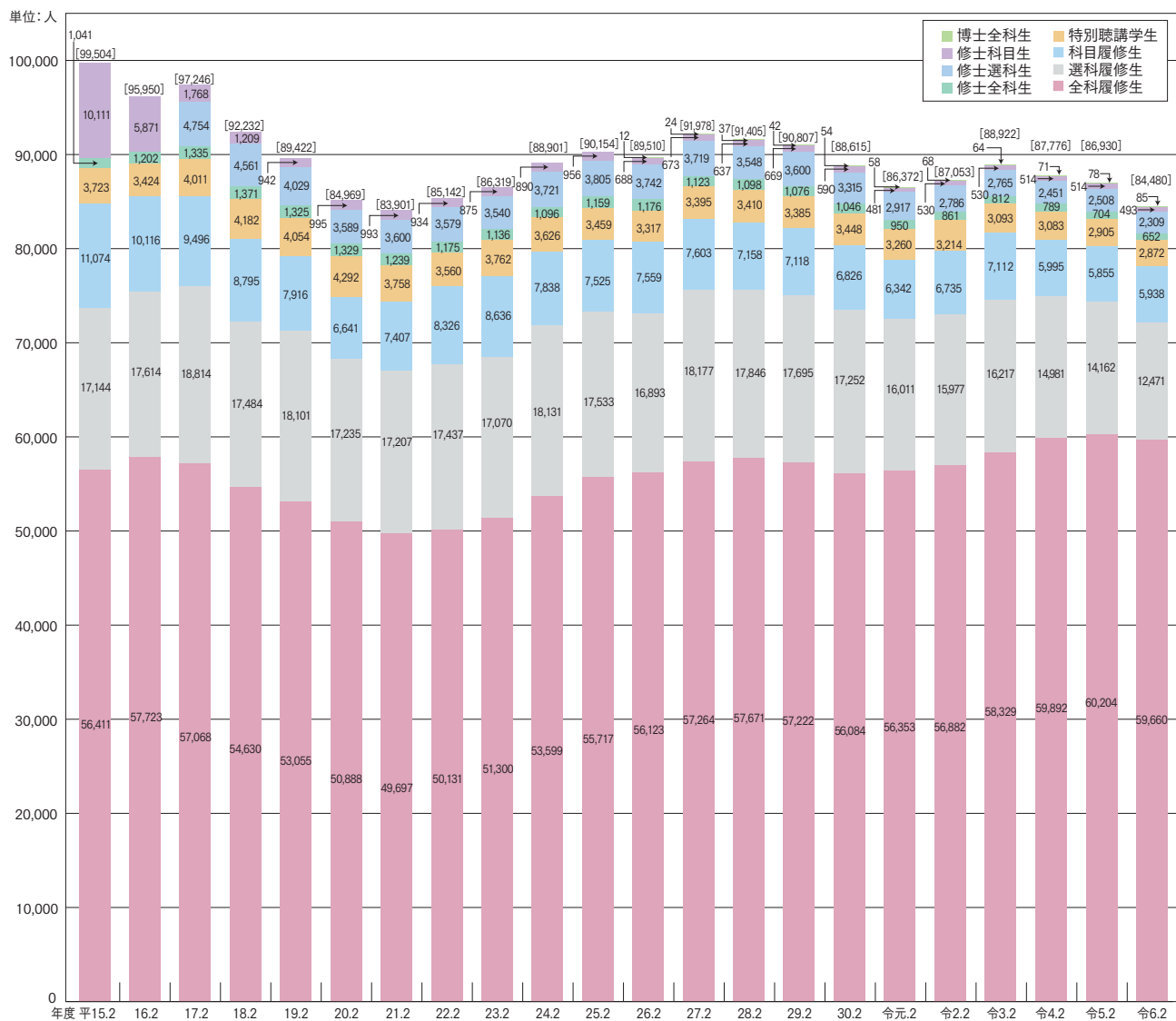
〔大学院〕

（単位：人）

学生の種別等	第1学期在学生数		第2学期在学生数	
修士全科生	663		652	
修士選科生	2,338	2,754	2,309	2,789
修士科目生	416		480	
特別聴講学生	24		13	
博士全科生	87		85	
合計	3,528		3,539	

（注）特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との単位互換協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です

在学生数の推移（各年度第2学期）

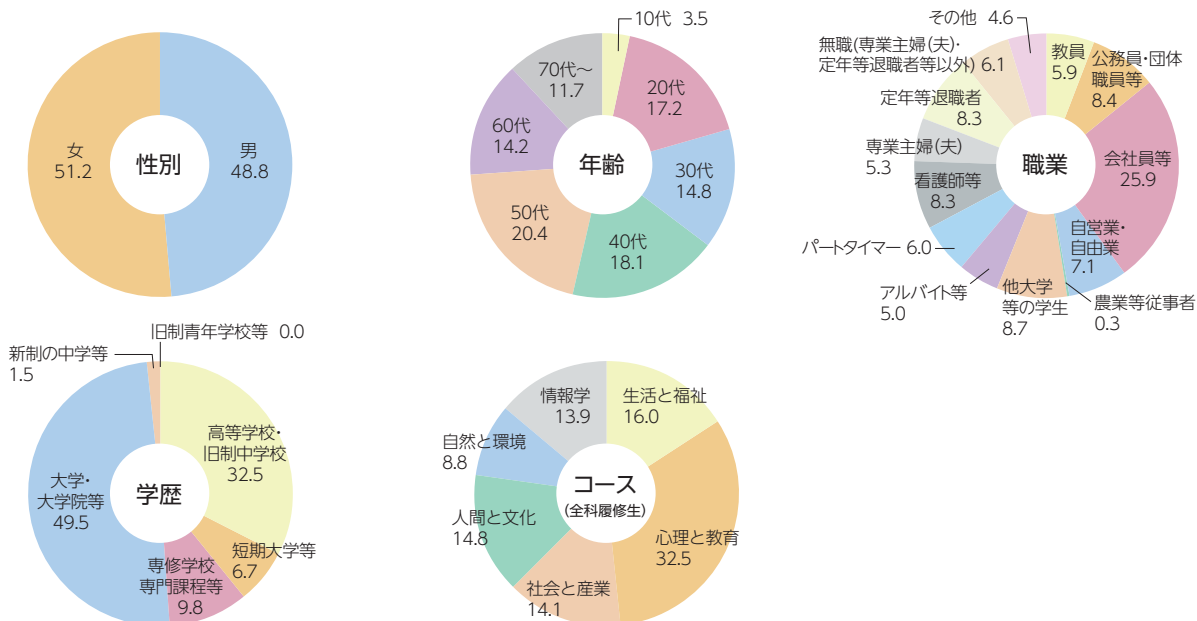


（注）大学院修士特別聴講学生は、修士科目生に含まれる。

在学生の属性（令和6年度（2024年度）第2学期）

〔教養学部（特別聴講学生を含む）〕

（単位：％）



<性別・年齢別状況表>

（単位：人）

区分	合計	15～17歳	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	
学部計	計	80,941	49	2,798	7,756	6,197	5,862	6,132	6,680	8,005	8,710	7,800	6,460	5,044	9,448
	男	39,490	30	1,721	4,459	3,502	3,102	3,019	2,774	3,036	3,239	2,895	2,936	2,791	5,986
	女	41,451	19	1,077	3,297	2,695	2,760	3,113	3,906	4,969	5,471	4,905	3,524	2,253	3,462
全科履修生	計	59,660	-	828	5,522	4,918	4,504	4,609	4,841	5,868	6,522	5,950	4,885	3,759	7,454
	男	29,314	-	436	3,103	2,930	2,525	2,441	2,187	2,404	2,534	2,174	2,085	1,971	4,524
	女	30,346	-	392	2,419	1,988	1,979	2,168	2,654	3,464	3,988	3,776	2,800	1,788	2,930
選科履修生	計	12,471	25	513	541	559	712	912	1,213	1,455	1,487	1,288	1,136	977	1,653
	男	5,853	17	336	320	257	289	340	369	423	479	524	643	623	1,233
	女	6,618	8	177	221	302	423	572	844	1,032	1,008	764	493	354	420
科目履修生	計	5,938	24	49	421	686	626	595	608	653	667	537	429	304	339
	男	2,495	13	19	198	291	278	231	215	202	221	195	207	196	229
	女	3,443	11	30	223	395	348	364	393	451	446	342	222	108	110
特別聴講学生	計	2,872	-	1,408	1,272	34	20	16	18	29	34	25	10	4	2
	男	1,828	-	930	838	24	10	7	3	7	5	2	1	1	-
	女	1,044	-	478	434	10	10	9	15	22	29	23	9	3	2

（注）年齢は、令和6年11月1日現在

<職業別状況表>

（単位：人）

区分	合計	教員	公務員・団体職員等	会社員等	自営業・自由業	農林水産業等従事者	他大学・専門学校等に在籍する学生	アルバイト等	パートタイマー	看護師等	専業主婦（夫）	定年等退職者	無職（専業主婦（夫）・定年等退職者等以外）	その他
学部計	80,941	4,783	6,807	20,967	5,736	221	7,059	4,019	4,884	6,746	4,319	6,726	4,973	3,701
全科履修生	59,660	1,988	4,681	17,468	4,795	193	3,049	3,593	3,821	4,381	3,566	4,878	4,211	3,036
選科履修生	12,471	1,154	959	2,495	675	23	955	298	766	2,078	529	1,501	565	473
科目履修生	5,938	1,641	1,167	1,004	266	5	183	128	297	287	224	347	197	192
特別聴講学生	2,872	-	-	-	-	-	2,872	-	-	-	-	-	-	-

<出身校別状況表>（特別聴講学生については表記の区分に在学中であることを示す）

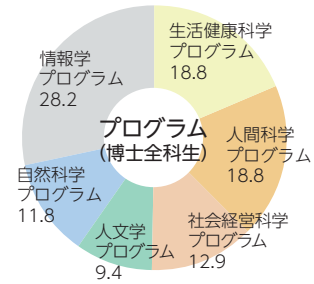
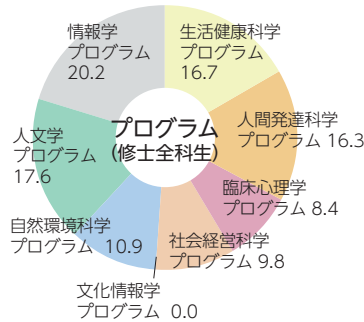
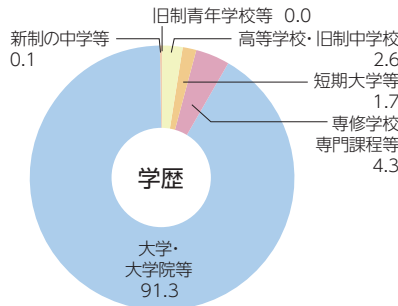
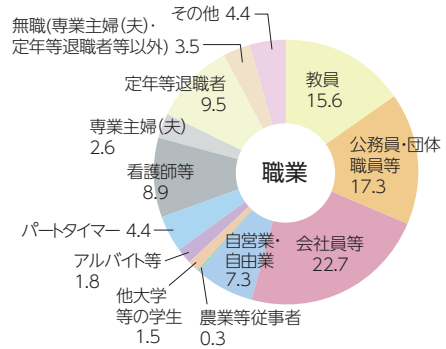
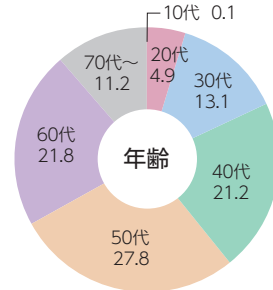
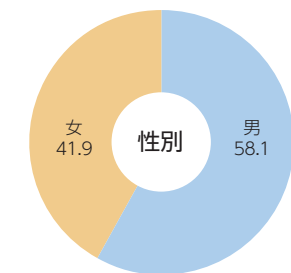
（単位：人）

区分	合計	新制の中学等	旧制青年学校等	旧制の中学等	専修学校・高等課程等	高等学校等	短期大学等	専修学校・専門課程等	大学等	大学校	大学院
学部計	80,941	1,221	1	102	1,083	25,100	5,456	7,904	28,621	4,531	6,922
全科履修生	59,660	945	1	89	344	21,922	4,271	6,297	17,983	3,160	4,648
選科履修生	12,471	195	-	9	678	2,445	717	1,257	4,728	920	1,522
科目履修生	5,938	81	-	4	61	733	468	350	3,038	451	752
特別聴講学生	2,872	-	-	-	-	-	-	-	2,872	-	-

在学生の属性（令和6年度（2024年度）第2学期）

（単位：％）

〔大学院修士課程・博士後期課程〕



＜性別・年齢別状況表＞

（単位：人）

区分	合計	15～17歳	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
大学院計	計	3,539	-	2	38	137	221	242	284	465	466	517	420	396
	男	2,056	-	1	26	87	146	142	149	237	241	264	239	270
	女	1,483	-	1	12	50	75	100	135	228	225	253	112	126
修士全科生	計	652	-	-	6	27	54	55	59	77	100	94	74	44
	男	422	-	-	4	17	37	35	37	50	56	50	52	28
	女	230	-	-	2	10	17	20	22	27	44	44	18	16
修士選科生	計	2,309	-	1	26	80	115	133	165	281	299	345	298	317
	男	1,301	-	-	19	49	73	77	83	131	159	167	160	215
	女	1,008	-	1	7	31	42	56	82	150	140	178	130	102
修士科目生	計	480	-	1	5	24	47	46	51	87	54	65	38	28
	男	266	-	1	2	17	32	24	25	41	21	39	22	20
	女	214	-	-	3	7	15	22	26	46	33	26	16	8
修士特別聴講学生	計	13	-	-	1	2	3	2	2	2	-	1	-	-
	男	8	-	-	1	2	3	1	-	1	-	-	-	-
	女	5	-	-	-	-	-	1	2	1	-	1	-	-
博士全科生	計	85	-	-	-	4	2	6	7	18	13	12	10	7
	男	59	-	-	-	2	1	5	4	14	5	8	5	7
	女	26	-	-	-	2	1	1	3	4	8	4	2	-

＜職業別状況表＞

（注）年齢は、令和6年11月1日現在
（単位：人）

区分	合計	教員	公務員・団体職員等	会社員等	自営業・自由業	農林水産業等従事者	他大学・専門学校等に在籍する学生	アルバイト等	パートタイマー	看護師等	専業主婦（夫）	定年等退職者	無職（専業主婦（夫）・定年等退職者等以外）	その他
大学院計	3,539	552	614	805	260	11	52	64	156	316	92	337	123	157
修士全科生	652	132	128	179	48	1	7	10	18	39	14	40	9	27
修士選科生	2,309	310	364	512	189	9	27	45	119	207	66	257	99	105
修士科目生	480	86	104	98	20	1	3	7	16	64	11	32	14	24
修士特別聴講学生	13	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-
博士全科生	85	24	18	16	3	-	2	2	3	6	1	8	1	1

＜出身校別状況表＞（特別聴講学生については表記の区分に在学中であることを示す）

（単位：人）

区分	合計	新制の中学等	旧制青年学校等	旧制の中学等	専修学校・高等課程等	高等学校等	短期大学等	専修学校専門課程等	大学等	大学院	大学院
大学院計	3,539	3	-	-	7	86	59	153	2,280	368	583
修士全科生	652	-	-	-	-	7	6	15	501	56	67
修士選科生	2,309	3	-	-	6	69	40	99	1,482	258	352
修士科目生	480	-	-	-	1	10	12	39	279	53	86
修士特別聴講学生	13	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-
博士全科生	85	-	-	-	-	-	1	-	5	1	78

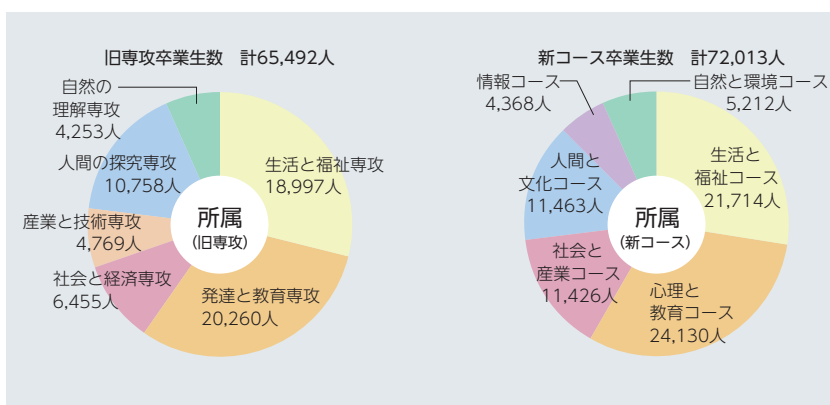
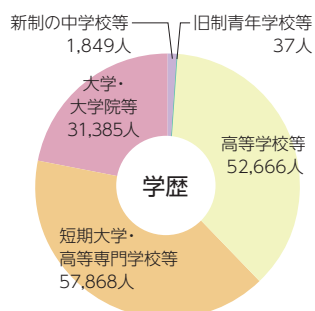
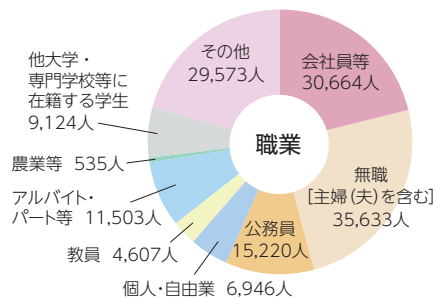
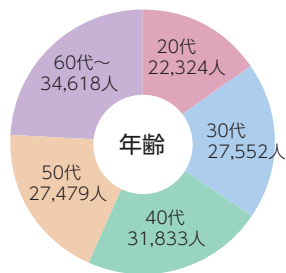
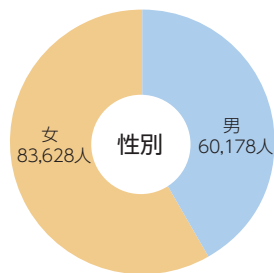
学習センター別在学生数(令和6年度(2024年度)第2学期)

(単位:人)

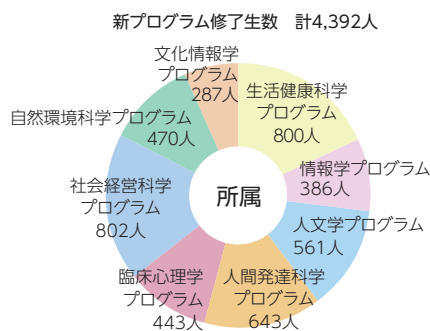
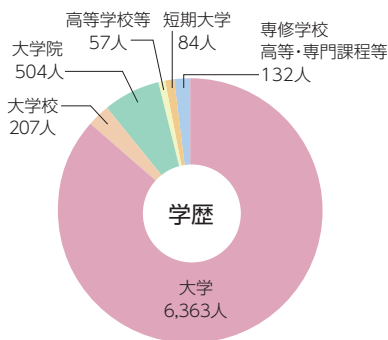
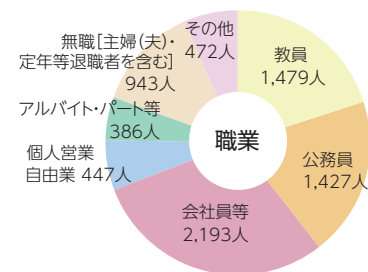
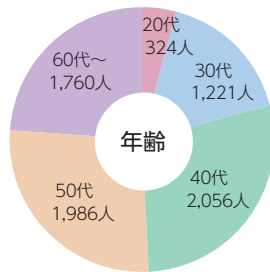
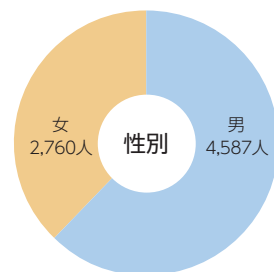
	学 部					大学院修士課程					大学院博士 後期課程	合計
	全科履修生	選科履修生	科目履修生	特別聴講生	小計	修士全科生	修士選科生	修士科目生	修士特聴生	小計	博士全科生	
合計	59,660	12,471	5,938	2,872	80,941	652	2,309	480	13	3,454	85	84,480
北海道	2,106	457	196	40	2,799	11	79	27		117	3	2,919
旭川サテライト	262	69	41	1	373	5	14	1		20	1	394
青森	325	41	30	1	397	3	7	3		13		410
八戸サテライト	240	31	9	1	281		5	4		9		290
岩手	507	83	59	28	677	6	20			26	1	704
宮城	1,148	233	100	87	1,568	14	42	10		66	1	1,635
秋田	364	53	32	44	493	1	18	3		22		515
山形	351	73	46	97	567	3	13	3		19		586
福島	403	84	61	38	586	5	17	2		24	1	611
いわきサテライト	94	32	12	2	140		3	1		4	1	145
茨城	738	187	116	9	1,050	8	30	6		44	1	1,095
栃木	741	190	84	5	1,020	11	17	7		35		1,055
群馬	861	219	100	7	1,187	11	41	6		58		1,245
埼玉	2,414	564	214	49	3,241	36	93	21		150	2	3,393
千葉	3,327	787	424	57	4,595	52	139	57		248	7	4,850
東京渋谷	5,400	908	399	106	6,813	64	178	40		282	7	7,102
東京文京	5,064	887	394	64	6,409	77	242	34		353	13	6,775
東京足立	1,721	364	149	29	2,263	23	54	9		86	5	2,354
東京多摩	2,535	476	201	102	3,314	30	83	26	1	140	4	3,458
神奈川	3,512	693	325	72	4,602	33	130	28		191	5	4,798
新潟	847	205	135	5	1,192	13	35	8		56	2	1,250
富山	442	92	36	4	574	4	32	1		37		611
石川	452	68	39	1,169	1,728	4	17	2		23	1	1,752
福井	295	63	33	5	396	3	13	2		18		414
山梨	347	65	62	8	482	2	15	2		19		501
長野	646	130	69	18	863	2	25	6	5	38	2	903
岐阜	656	139	64	2	861	7	23	6	1	37	1	899
静岡	798	135	94	11	1,038	12	31	7		50		1,088
浜松サテライト	618	167	78	4	867	4	28	3		35	2	904
愛知	2,413	525	237	7	3,182	27	73	21	6	127	4	3,313
三重	458	99	78	4	639	4	18	6		28		667
滋賀	419	89	58	12	578	2	15	4		21		599
京都	2,443	1,034	124	24	3,625	17	80	12		109	3	3,737
大阪	3,668	723	308	29	4,728	38	119	16		173	2	4,903
兵庫	1,280	290	158	4	1,732	14	63	12		89	1	1,822
姫路サテライト	382	85	63		530		31	2		33		563
奈良	551	108	68	48	775	2	24	5		31	1	807
和歌山	319	64	36	1	420	2	19	1		22		442
鳥取	204	46	43	3	296	1	8	2		11	1	308
島根	315	78	57	4	454	4	17	3		24	2	480
岡山	809	120	44	12	985	8	32	9		49	1	1,035
広島	972	221	71	44	1,308	13	43	7		63	1	1,372
福山サテライト	221	58	14	2	295	2	13	1		16		311
山口	403	55	63	15	536	7	19	1		27	2	565
徳島	312	64	29	2	407	1	10			11		418
香川	453	103	35	1	592	6	25	3		34		626
愛媛	572	97	34	9	712	8	19	5		32	1	745
高知	375	70	42	346	833	3	12	2		17	1	851
福岡	1,315	227	203	47	1,792	21	50	12		83	1	1,876
北九州サテライト	497	96	64	5	662	3	22	5		30	1	693
佐賀	315	72	52	5	444	2	14			16		460
長崎	485	72	50	49	656	4	18	6		28		684
熊本	658	134	66	88	946	2	25	4		31		977
大分	375	91	57		523	3	29	3		35		558
宮崎	438	67	73	1	579	4	13	7		24		603
鹿児島	868	151	107	19	1,145	2	21	3		26	2	1,173
沖縄	926	137	102	26	1,191	8	33	3		44	1	1,236

Chapter 11 卒業生等の概要

学部卒業生の属性 卒業生数 143,806人(令和7年3月末までの累計)



大学院修士課程修了生の属性 修了生数 7,347人(令和7年3月末までの累計)



※2013年度(平成25年度)から、情報学プログラムを新設し、文化情報学プログラムは人文学プログラムに名称を変更。

卒業生・修了生数の推移

	学部卒業生数(人)	大学院修士課程修了生数(人)
平成元年 3月	544	
9月	61	
平成2年 3月	602	
9月	115	
平成3年 3月	629	
9月	113	
平成4年 3月	595	
9月	136	
平成5年 3月	719	
9月	145	
平成6年 3月	839	
9月	149	
平成7年 3月	2,032	
9月	513	
平成8年 3月	1,148	
9月	518	
平成9年 3月	1,094	
9月	543	
平成10年 3月	1,143	
9月	563	
平成11年 3月	1,223	
9月	682	
平成12年 3月	1,251	
9月	888	
平成13年 3月	1,982	
9月	1,188	
平成14年 3月	2,133	
9月	1,653	
平成15年 3月	2,612	
9月	1,849	
平成16年 3月	2,623	344
9月	1,921	10
平成17年 3月	2,908	357
9月	2,315	10
平成18年 3月	3,172	426
9月	2,168	12
平成19年 3月	3,137	441
9月	2,030	10

	学部卒業生数(人)	大学院修士課程修了生数(人)	大学院博士後期課程修了生数(人)
平成20年 3月	3,079	379	
9月	1,929	9	
平成21年 3月	3,230	414	
9月	1,719	10	
平成22年 3月	2,916	386	
9月	1,879	8	
平成23年 3月	3,033	348	
9月	1,661	9	
平成24年 3月	2,883	371	
9月	1,592	2	
平成25年 3月	2,911	311	
9月	1,632	9	
平成26年 3月	2,787	311	
9月	1,845	7	
平成27年 3月	3,070	350	
9月	1,887	3	
平成28年 3月	3,067	352	
9月	2,181	2	
平成29年 3月	3,272	322	
9月	2,122	8	4
平成30年 3月	3,584	314	4
9月	2,351	5	0
平成31年 3月	3,637	324	7
令和元年 9月	2,113	5	0
令和2年 3月	3,435	314	2
9月	2,374	4	0
令和3年 3月	4,124	253	11
9月	2,535	2	0
令和4年 3月	4,243	226	8
9月	2,291	2	0
令和5年 3月	3,907	256	9
9月	2,256	6	0
令和6年 3月	4,024	213	3
9月	2,237	4	0
令和7年 3月	4,064	198	4
累計	143,806	7,347	52

学習者数(累計)

昭和60年(1985年)に学生受け入れを開始し、今年で41年目を迎え、令和6年度第2学期現在累計1,902,981名の方々が学生として学んでいます。

(全科履修生、選科履修生、科目履修生、特修生、研究生、特別聴講学生、修士全科生、修士選科生、修士科目生、博士全科生 累計人数)

	学習者数(人)
昭和60年	18,852
昭和61年	29,032
昭和62年	40,694
昭和63年	52,406
平成元年	66,080
平成2年	83,570
平成3年	107,954
平成4年	138,716
平成5年	175,110
平成6年	218,948
平成7年	270,815
平成8年	328,194
平成9年	388,098
平成10年	452,853

	学習者数(人)
平成11年	518,131
平成12年	580,944
平成13年	643,703
平成14年	719,440
平成15年	795,901
平成16年	862,209
平成17年	924,663
平成18年	982,346
平成19年	1,037,079
平成20年	1,088,396
平成21年	1,141,098
平成22年	1,196,490
平成23年	1,251,985
平成24年	1,308,448

	学習者数(人)
平成25年	1,362,258
平成26年	1,414,375
平成27年	1,468,612
平成28年	1,521,107
平成29年	1,572,782
平成30年	1,623,072
令和元年	1,670,901
令和2年	1,718,663
令和3年	1,769,597
令和4年	1,816,954
令和5年	1,861,292
令和6年	1,902,981

次世代教育研究開発センター

■ 概要

次世代教育研究開発センターは、放送大学の教授形態の多様性と諸特性を踏まえ、メディアを活用した次世代教育の研究開発を行うと同時に、先駆的なコンテンツの企画・制作・評価を一貫して担当します。また、内外の研究機関と技術的、人的なネットワークを形成し、次世代を見据えた遠隔高等教育を研究開発していきます。



次世代教育研究開発センター

IR 室

■ 概要

IR室は、放送大学学園及び放送大学が策定、又は実施した施策の有効性を検証するために、本学園内外の情報収集を行い、次世代教育研究開発センターや各課室の協力を得ながら、教育、研究、学生支援、大学経営等に関する分析と評価を行うことを目的としています。

障がいに関する学生支援相談室

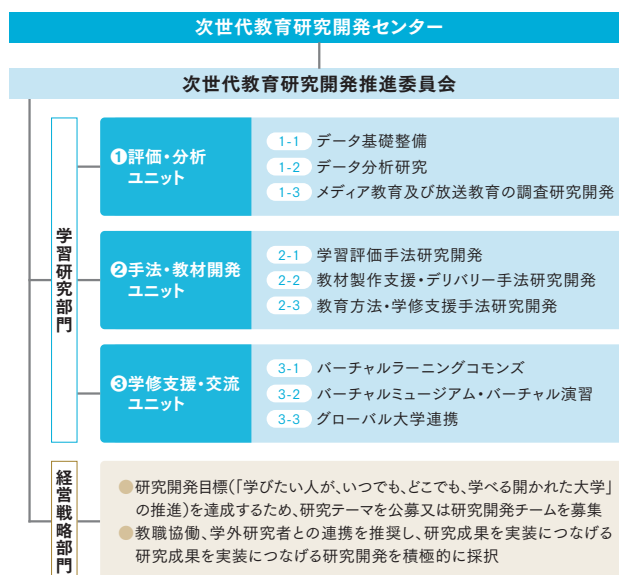
■ 概要

障がいに関する学生支援相談室は、2016年「障害者差別解消法」が施行されたことに伴い設置されました。放送大学における障がいのある学生への公正な教育保障、修学及び学生生活における支援に係る教職員による取組に対し、支援を行うことを目的としています。

障がいのある学生のうち、修学上の合理的配慮を希望する学生は毎年800人程度在籍しています。

学生からの個別の相談窓口は各学習センターとなっており、修学上の合理的配慮を希望する学生は、所属する学習センターで本学教職員と面談を行い、それぞれの障がいの特性

■ 組織



■ 組織

IR室は、総務担当理事の全体統括のもと、室長、副室長2名、その他の室員（総合戦略企画室員等）及び各データ分析関連分野の教員によるIRアドバイザリーボードで構成されています。また、IR室の運営に関する重要事項を審議するため、IR室運営会議が置かれ、IR室の業務計画を審議するとともに、複数の課室にまたがる検討課題に係る分析の統括などを行っています。

や大学側の状況などを勘案し、希望される方ご自身と本学とが相談・協議のうえ、具体的な支援内容が決定されます。

障がいに関する学生支援相談室は、障がいのある学生に係る教職員からの相談に対する助言や支援を主に行っておりますが、特に必要があると認められた場合は、学習センターを通じて学生から直接相談を受けることもあります。

また、教職員に対し、障がいの特性を理解してもらうために、オンライン会議を活用した研修を実施するとともに、障がいのある学生へ適切に対応するために必要なガイドブック等の整備を行っています。

■ 組織

障がいに関する学生支援相談室は、相談室長、副室長、室員若干名で構成されています。

相談室では、事務局の学生課障がい学生支援係とともに、障がいのある学生に対する支援についての学内外における情

報の収集、分析や見直し等が話し合われ、障がいのある学生支援の充実を目指しています。



公認心理師教育推進室

■ 概要

公認心理師教育推進室は、公認心理師法(平成27年法律第68号)第7条第1号又は第2号に規定する心理学その他の公認心理師になるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるもので構成するカリキュラムの提供等、放送大学における公認心理師の養成のための教育を推進することを目的としています。

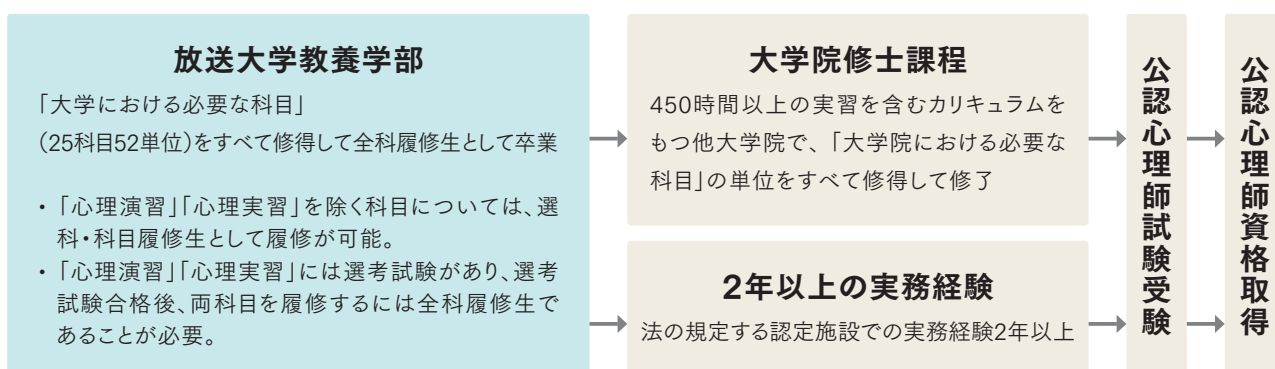
また、本学では2019年度第1学期から公認心理師対応カリキュラムを学段階で開設しており、対応科目である「心理演習」及び「心理実習」を受講するための選考試験を2021年度から実施しています。

■ 組織

公認心理師教育推進室は、専属の教員3名と、心理と教育コースや臨床心理学プログラムと兼任する教員4名の、合計7名で構成されています。

さらに、公認心理師教育推進室には、公認心理師教育企画運営委員会が置かれ、公認心理師の養成及び公認心理師教育推進室の管理運営に関する重要事項を審議しています。

(参考)公認心理師資格取得までの流れ



データサイエンス教育推進室

■ 概要

データサイエンス教育推進室は、放送大学学園中期事業計画において「国の数理・データサイエンス・AI人材の育成目標を踏まえ、国の認定制度も活用しながら、授業科目や公開講座等により、リテラシー教育・応用基礎教育・エキスパート教育・リカレント教育にわたる多様な教育機会を学内及び学外に提供する。」と盛り込まれたことに伴い設置されました。科目群履修認証制度として開設されている「データサイエンスリテラシープラン」及び「データサイエンスアドバンスプラン」については、令和4年8月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」による認定を受け

ています。また、インターネット配信公開講座では国のAI戦略に沿って制作した数理・データサイエンス・AI講座を提供しています。

■ 組織

データサイエンス教育推進室は、室長、副室長、室員の若干名で構成されています。

さらに、数理・データサイエンス・AIに関する教育プログラムの改善等、数理・データサイエンス・AIに関する企画・制作並びにその運用などを行っています。

附属図書館

附属図書館(本部)は、平成2年3月に竣工、同年6月に開館し、学習センターと連携して、本学の教育・研究と学習を支える重要な役割を担っています。

自宅からも読める電子ブックなど、インターネットで利用できる学習・研究用資料を多数提供しています。詳しくは、附属図書館ホームページ(<https://lib.ouj.ac.jp/>)をご覧ください。

機能

(1)本部

- ・ 研究・学習・保存・総合図書館の役割
- ・ 本学学術成果の蓄積と公開
- ・ フロア構成

1階:映像音響資料室・情報検索室・

参考図書コーナー・貴重図書展示コーナー・国際コーナー

2階:一般開架図書・雑誌バックナンバー・美術書・研究個室

3階:新着雑誌コーナー・演習室・グループ視聴室・

パソコン利用室・小型本コーナー・サイレントルーム

西研究棟:情報資料室

(2)学習センター

- ・ 附属図書館を通じた各種サービスの窓口
- ・ 連携協力を締結した大学等図書館の利用ができます。

蔵書数(令和7年3月31日現在)

区分	蔵書数	雑誌	電子ブック	電子ジャーナル
本部	377,149冊	3,580タイトル	94,018点	4,792タイトル
学習センター	309,170冊	—	—	—
合計	686,319冊	3,580タイトル	94,018点	4,792タイトル



3階サイレントルーム



附属図書館館内



貴重図書展示コーナー

セミナーハウス

設置目的

セミナーハウスは、放送大学の学生、教職員等が、研修、演習、実習、研究等を通じて相互の交流を図り、もって教育研究のより一層の進展に寄与するため設けられた施設で、宿泊も可能です。

1. 放送大学学園が行う研修、演習または実習などに使用する場合は優先します。
2. 放送大学学園の教職員、放送大学の学生、放送大学の客員教授等の使用が可能です。



土地・建物一覧

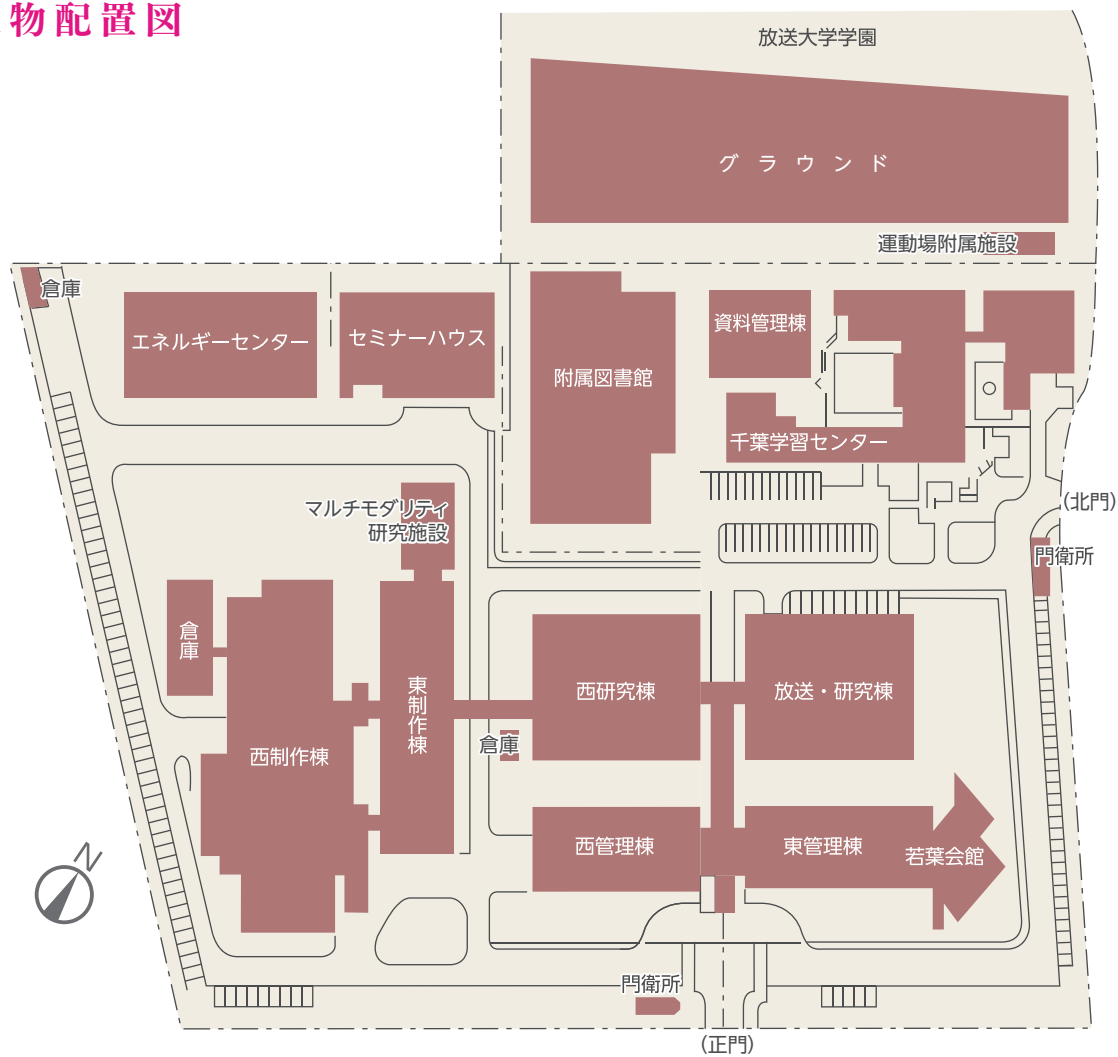
令和6年4月現在

区 分	所在地	土地(㎡)	建物(㎡)	備 考	
本 部		52,371.57			
	管理棟		4,498.49		
	放送・研究棟		10,144.32		
	資料管理棟		1,375.53		
	制作棟		7,574.00		
	西研究棟		8,685.00		
	マルチモグリ ティ研究施設		353.00		
	附属図書 館	千葉市美浜区若葉2-11	5,724.67		
	セミナー ハウス		1,570.47		
	若葉会館		1,871.42		
	エネルギー センター		1,602.00		
	門衛所		113.89		
	運動場		114.80		
	車庫・倉庫		455.00		
		44,082.59			
学習センター	北海道	札幌市北区北17条西 8丁目(北海道大学内)	1,126.17	2,234.80	土地は北海道大 学から借用
	旭川※	旭川市常磐公園 (旭川市常盤館内)	—	179.82	旭川市から借用
	青森	弘前市文京町3外 (弘前大学文京町地区内)	6.36	361.36	弘前大学から 借用
	八戸※	八戸市一番町1-9-22 (八戸地域地場産業振 興センター内)	—	104.00	八戸市から借用
	岩手	盛岡市上田3-18-8 (岩手大学構内)	860.39	1,719.91	土地は岩手大学 から借用
	宮城	仙台市青葉区片平2-1-1 (東北大学片平地区内)	3.02	1,260.64	東北大学から 借用
	秋田	秋田市手形学園町1-1 (秋田大学内)	525.35	1,046.92	土地は秋田大学 から借用
	山形	山形市城南町1-1-1 (霞城セントラル内)	—	320.40	山形県から借用
	福島	郡山市桑野1-22-21 (郡山女子大学内)	—	546.05	郡山女子大学 から借用
	いわき※	いわき市平字菱川町1-3 (いわき市社会福祉セン ター 4階)	—	105.17	いわき市社会 福祉協議会 から借用
	茨城	水戸市文京2-1-1 (茨城大学内)	749.51	1,248.79	土地は茨城大学 から借用
	栃木	宇都宮市峰町350 (宇都宮大学内)	967.93	1,506.57	土地は宇都宮 大学から借用
	群馬	前橋市若宮町1-13-2	3,355.28	2,516.87	土地は関東財務 局から借用
	埼玉	さいたま市大宮区錦町 682-2(大宮情報文化 センター内)	562.96	2,821.50	8、9、10階部分区 分所有土地はさい たま市から借用
	千葉	千葉市美浜区若葉2-11 (放送大学本部敷地内)		3,431.70	
	東京渋谷	渋谷区道玄坂1-10-7	—	542.09	五島育英会から 借用
	東京文京	文京区大塚3-29-1	3,425.26	5,941.00	土地は筑波大学 から借用
	東京足立	足立区千住5-13-5 (学びピア21内)	—	547.86	足立区から借用
	東京多摩	小平市学園西町1-29-1 (一橋大学小平国際キャン パス内)	1,127.50	2,127.05	土地は一橋大学 から借用
	神奈川	横浜市南区大岡2-31-1	3,673.26	3,209.49	土地は関東財務 局から借用
	新潟	新潟市中央区旭町通 1番町754(新潟大学旭 町地区内)	703.83	1,406.16	土地は新潟大学 から借用
	富山	射水市黒川5180 (富山県立大学内)	—	371.65	富山県から借用
	石川	野々市市扇が丘7-1 (金沢工業大学内)	—	749.59	金沢工業大学 から借用
	福井	福井市手寄1-4-1 (AOSSA7階)	—	410.15	福井県から借用

区 分	所在地	土地(㎡)	建物(㎡)	備 考
山梨	甲府市武田4-4-37 (山梨大学内)	650.91	1,365.93	土地は山梨大学 から借用
長野	諏訪市諏訪1-6-1 (アーク諏訪3階)	—	411.89	諏訪市から借用
岐阜	岐阜市荻田南5-14-53 (岐阜県民ふれあい会館内)	—	499.00	岐阜県から借用
静岡	三島市文教町1-3-93 (静岡県立三島長陵高 等学校内)	6.64	232.98	静岡県から借用
浜松※	浜松市中央区早馬町2-1 (クリエート浜松内)	—	168.96	浜松市から借用
愛知	名古屋市中区則武町新 町三丁目1-17 (BlZrium名古屋5階)	—	715.78	イオンモール から借用
三重	津市一身上津部田1234 (三重県総合文化セン ター内)	—	318.80	三重県から借用
滋賀	大津市瀬田大江町横谷 1-5(龍谷大学瀬田キャン パス内)	—	495.30	龍谷大学から 借用
京都	京都市下京区西洞院通塩 小路下の東塩小路町939 (キャンパスプラザ京都内)	—	759.10	京都市から借用
大阪	大阪市天王寺区南河堀町 4-88(大阪教育大学天王 寺キャンパス内)	1,042.96	3,118.66	土地は大阪教育 大学から借用
兵庫	神戸市灘区六甲台町 2-1(神戸大学六甲台 キャンパス内)	900.95	1,838.28	土地は神戸大学 から借用
姫路※	姫路市本町68-290 (イーグレひめじ内)	—	204.85	姫路市から借用
奈良	奈良市北魚屋東町 (奈良女子大学コラボ レーションセンター内)	—	415.76	奈良女子大学 から借用
和歌山	和歌山市西高松1-7-20 (和歌山大学松下会館内)	—	326.00	和歌山大学から 借用
鳥取	鳥取市富安2-138-4 (鳥取市役所駅南庁舎内)	—	411.02	鳥取市から借用
島根	松江市白湯本町43 (スティックビル内)	—	443.45	松江市から借用
岡山	岡山市北区津島中3-1-1 (岡山大学構内)	729.84	1,453.15	土地は岡山大学 から借用
広島	広島市中区東千田町 1-1-89(広島大学東千 田地区内)	1,282.13	2,413.40	土地は広島大学 から借用
福山※	福山市霞町1-10-1 (まなびの館ローズコム内)	—	134.43	福山市から借用
山口	山口市吉田1677-1 (山口大学内)	—	600.00	山口大学から 借用
徳島	徳島市新蔵町2-24 (徳島大学日亜会館内)	—	434.00	徳島大学から 借用
香川	高松市幸町1-1 (香川大学内)	851.80	1,666.17	土地は香川大学 から借用
愛媛	松山市文京町3 (愛媛大学内)	784.03	1,595.82	土地は愛媛大学 から借用
高知	高知市曙町2-5-1 (高知大学内)	40.32	980.45	高知大学から 借用
福岡	春日市春日公園6-1 (九州大学筑紫キャンパス内)	38.78	1,319.56	九州大学から 借用
北九州※	北九州市八幡西区黒崎 3-15-3(コムシティ 3階)	—	168.80	北九州市から 借用
佐賀	佐賀市天神3-2-11 (アバンセ内)	—	189.52	佐賀県から借用
長崎	長崎市文教町1番14号 (長崎大学文教地区 キャンパス内)	298.35	1,069.93	土地は長崎大学 から借用
熊本	熊本市中央区黒髪 2-40-1(熊本大学内)	723.95	1,112.58	土地は熊本大学 から借用
大分	別府市北石垣82(別府大 学別府キャンパス内)	—	614.28	別府大学から 借用
宮崎	日向市本町11-11	573.61	413.00	日向市から借用
鹿児島	鹿児島市山下町14-50 (かごしま県民交流センター内)	0.17	528.67	鹿児島県から 借用
沖縄	沖縄県中頭郡西原町字 千原1(琉球大学内)	809.88	1,592.44	土地は琉球大学 から借用

(注)※はサテライトスペースを示す。

建物配置図



放送大学学園の予算

令和7年度(2025会計年度)収入支出予算

(単位:百万円)

収 入				支 出			
科 目	前年度 予算額	当年度 予算額	比較増 △減額	科 目	前年度 予算額	当年度 予算額	比較増 △減額
(款)事業収入 (項)授業料及入学検定料	5,553	5,339	△214	(項)放送大学学園運営費	13,034	12,779	△255
(款)事業外収入 (項)雑収入	180	190	10	(項)特別修繕費	300	200	△100
(款)特別修繕準備金収入 (項)特別修繕準備金収入	300	200	△100	(項)放送大学学園施設整備費	198	—	△198
(款)補助金収入 (項)国庫補助金	7,499	7,140	△359	(項)受託研究等事業費	13	8	△5
(款)受託収入 (項)受託収入	13	8	△5				
(款)借入金収入 (項)借入金収入	—	110					
合 計	13,626	12,987	△639	合 計	13,626	12,987	△639

(注)単位未満四捨五入のため、合計に符合しないことがある。

